

界


中 英 文 注 解


SHIJIE MINGZHU RIYU DAODU
高长峰／主编


## （中英文注解）

## SHIJIEMINGZHURIYUDAODU

## 世界名著日语导读

－高长峰 主编

主 编：高长峰（湖州师范学院外国语学院）
编 委：周凯发（湖州师范学院外国语学院）
冈 猛（大阪文化国际学校）
王 瑜（湖州师范学院外国语学院）
李今顺（大阪文化国际学校）
Mark Weich（Quesnel，British Columbia，Canada）

本書の出版にあたって，大阪文化国際学校の岡猛校長，李金順 センター長，Mark Weich 監督にひとかたならぬご指導，ご協力をいた だき，ここに深く感謝申し上げる。

さらに，多くの方々がご声援くださることを切にお願い申し上 げる次第である。

## 图书在版编目（CIP）数据

世界名著日语导读：中英文注释／高长峰主编．—杭州：浙江大学出版社， 2011.7

ISBN 978－7－308－08798－8

I．（1）世… II．（1）高… III．（1）文学欣赏一世界一高等学校一教材一汉，英 IV．（1）I106

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2011）第119846号

## 世界名著日语导读：中英文注释

高长峰 主编

| 责任编辑 | 张作梅（zhangzmei＠sina．com） |
| :---: | :---: |
| 封面设计 | 张作梅 |
| 出版发行 | 浙江大学出版社 <br> （杭州市天目山路148号 邮政编码 310007） <br> （网址：http：／／www．zjupress．com） |
| 排 版 | 杭州好友排版工作室 |
| 印 刷 | 德清县第二印刷厂 |
| 开 本 | $710 \mathrm{~mm} \times 1000 \mathrm{~mm} \quad 1 / 16$ |
| 印 张 | 12.50 |
| 字 数 | 268 千 |
| 版印次 | 2011年7月第1版 2011年7月第1次印刷 |
| 书 号 | ISBN 978－7－308－08798－8 |
| 定 价 | 32.00 元 |
| 版权所有 | 翻印必究 印装差错 负责调换 |
| 浙江大学出版 | 社发行部邮购电话（0571）88925591 |

## reface

文学是语言的艺术，一个国家及民族的优秀文学作品无疑是其语言最精华的部分。不言而喻，这一命题自然也适用于解释任何语言与文学的相互关系。学习外语自然离不了发音，会话，语法等过程，但这仅仅是基础训练过程，是最基本的语言知识阶段。当学习者具备了一定基础，并希望进一步提高自己的水平，最有效的方法就是有选择地阅读大量的文学作品，即博览群书。在我国学习曰语有两个致命的弱点，其一，学习缺乏渐进性。学生们常常以为，阅读写满生词和语法的课本收获最大。其二，阅读量少。据统计，近年来在国际能力考试中得分最低科目就是阅读。结果经过多年的努力之后才发现，自己的水平十分令人尴尬。在大学里学到的除了几干个生词和基础语法等已成熟的语言知识以外，无真正的知识可言。

首先，人文知识作为人类知识结构中不可或缺的重要组成部分，对构建和谐社会和人类精神文明具有重要的意义。歌德认为：＂The decline of literature indicates the decline of a nation：the two keep in their downward tendency．＂（文学的衰落表明一个民族的衰落；这两者走下坡路往往是齐头并进的。）近年来，在功利主义的影响下，大多数人只关注马上就能派上用场的知识，而不喜欢读人文知识。奥利弗•温德尔•霍姆斯说过：＂Life is painting a picture，not doing a sum．＂（生活是绘画，而不是做算术。）殊不知，虽然人文知识并不一定立刻见效，但它所潜藏的深刻的智慧和力量是无穷无尽的。其次，日本文学作品已在国内市场随处可见，但是真正读懂日本文学内涵的读者却翏翏无几。其原因在于，缺乏了解世界文学对日本文学的影响。通过阅读世界名著曰语导读，读者可以深层次

地了解日本人解读世界文学的方法，同时提高曰语阅读能力。而且这对今后解读日本文学的内涵，也将大有裨益。比如《简•爱》的无私境界；《约翰•克里斯朵夫》的勤奋精神；《红与黑》的社会公正；《李尔王》的忠诚；为何被视为日本式无私，勤奋，公正，忠诚，只有通过反复阅读和思考才能得到其答案。另外，大多数曰语学习者也曾读过中文版的世界名著，但是读过日文版世界名著的人为数甚少，与曰本人交谈世界名著时，经常遇到语言障碍，道不出自己的观点暂且不说，就连小说的名称，作家以及主要人物的曰文名称都道不上来。这使曰本人误认为，中国人缺少人文知识，从不阅读世界名著。除此之外，近几年对曰语爱好者来说，二外成为就业的法宝。即精通日语又熟练掌握英语的学生容易就业，拿高薪。所以，本书大量引用了名著的英语原文并有中文注解，使读者掌握曰语的同时，又有助于掌握英语，可谓一箭双雕。

本书的主要对象是日语专业学生，以及把曰语作为二外的学生，从事曰语教学的教师及翻译工作者等。内容主要以英法文学名著为主，并收入了作家与作品，主要人物，小说简介，名句欣赏等内容。因考虑到阅读理解的难度和缩短读者的阅读时间，编者割舍了不少长篇佳作。但仍然保留了主要人物的外观特征，性格，心理活动以及自然景观的描写部分，以突出世界名著的文学特点。因此本书的内容，可谓囊括了＂日本文学＂所无法比肩的文学领域。因为曰本文学的特征，并不在于语言表达技巧和华丽辞澡上，而是在于它的思想深度和境界之高度上。正因为如此，编者认为有必要向广大读者提供《世界名著曰语导读》（中英文注解）。读者即使没有阅读过原著，但通过阅读名著导读，进而产生对原著一读为快的想法。比如电影，其实也只是一个故事梗概。但是，电影有时会比原著更能够感动人。当然，编者并不是想把故事梗概和电影相提并论，而是强调阅读名著的故事梗概也能唤起人们的感动。希望广大读者朋友能够通过本书对世界名著产生兴趣，能提高曰语阅读能力的同时，也能巩固和提高英语水平，那将是编者最大的欣慰。

由于编者水平有限，错误之处在所难免，辱请读者提出宝贵意见。

## Contents

－「ジェーン・エア」／《简•爱》
（一）作家与作品 ..... 001
（二）主要人物表 ..... 002
（三）小说简介 ..... 003
（四）中英文注解：Chapters 1～13 ..... 026
（五）名句欣赏 ..... 057
ニ 『赤と黒』／《红与黑》
（一）作家与作品 ..... 061
（二）主要人物表 ..... 062
（三）小说简介 ..... 064
（四）中英文注解：Chapters $1 \sim 10$ ..... 081
（五）名句欣赏 ..... 108
三 『ジャン・クリストフ』／《约翰•克里斯朵夫》
（一）作家与作品 ..... 112
（二）主要人物表 ..... 113
（三）小说简介 ..... 114
（四）中英文注解：Chapters $1 \sim 6$ ..... 127
（五）名句欣赏 ..... 148
四 『リア王』／《李尔王》
（一）作家与作品 ..... 152
（二）主要人物表 ..... 153
（三）小说简介 ..... 155
（四）中英文注解：Chapters 1～7 ..... 167
（五）名句欣赏 ..... 182
五 参考文献 ..... 188

# ジェーン・エア 

（ブロンテ—1847年発表）

## 作家と作品

```
シャーロット•ブロンテ(Charlotte Bronte,1816~1855) はアイルラン
```

ド出身の牧師の長女で，妹のエミリ，アンと共に「ブロンテ三姉妹」と呼ばれる。姉妹三人が一国の文学史に名をつらね，しかもそのうちの二人までが不朽の名作を書き残しているということは，英文学史のみなら ず，恐らく世界でも類例がないのである。三姉妹の中で一番美しかった のはエミリだが，一番おしゃべりだったのはシャーロットだったという。 とは言っても，二人の姉妹たちと比較してのことで，一般的に言うと， むしろ無口に近い方で，この家族に共通の孤独な性格を，彼女もまた持 っていた。絶えず絶望にさいなまれている暗い，悲劇的な性格だったが， それを支えたのは彼女の不屈の意志力と宗教への深い信仰であった。 1824年，ブリッジ校に妹エミリと共に入学する。その学校は施設•教育 ともに悪く，マリアとエリザベスは，学校の不衛生のため肺炎にかかっ て死亡。この学校は，シャーロットのローウッド学院のモデルである。 その後，エミリと共にブリュッセルへ留学。帰国後，塾を開くが，入塾希望者は現れなかった。1846年，三姉妹共同の『詩集』を出版するが，二部しか売れなかったため，三人は小説を書き始める。父の看病の合間 に『ジェーン・エア（Jane Eyre）』を執筆し，社会に反抗する同名の主人公は大反響を呼び，その名を広く知られるようになった。しかし翌年，弟が死亡し，年末にエミリも死亡。さらに翌年にはアンも倒れ，わずか二十九歳で没した。1854年に牧師と結婚したが，妊娠中に発病し，『エ

マ』を未完のまま死去した。三姉妹の中で最も長く生きたが，それでも三十歳の若さであった。

この小説は女性の激情を真正面から描写しているが，これは当時の文学的，社会的通念からすれば，驚くべき横紙破りであった。女性の感情 を，このように赤裸々に曝け出すというようなことは，当時の常識では考えられなかった。また二人の主人公が，いずれも美女美青年でなかっ たことも，破格なものであり，当時の価値観を根本から覆している。「孤児であることに対する不満，私は，決してあなたを伯母様と呼ばない。二度とここに来ないし，人に聞かれたら，どんなに残酷に扱われたかを言いふらしてやる」という反骨精神を描き，「ときどき，私は遠くを眺め， より多くの経験をしたいと思った。女も男と同じく能力を発揮する分野 を必要としているのだ」という男女平等意識を主張し，また女性から愛 を告白する。「私を人形だとお考えなのですか？感情も持たぬ機械だとお考えなのですか？そして，口からパン切れを奪いとられ，コップから，命の水をこぼされても，なおかつ，我慢していられるとお考えなのです か？私が貧乏で，名もない身分で，ちっぽけな女なので，魂もなければ，愛情も持たないと思ったのですか？私もあなたと同じように魂を持ち，愛情を持っているのです。もし神様が私に，美しさと相当の財産を恵ん で下さっていたら，いま私があなたとお別れするのをつらいと思ってい るように，あなたにも，私と別れるのをつらいと思わせることができた でしょう。これはあなたにお話しているのではなく，あなたの魂に話し かけているのです。平等に，ありのままに！」ということも，当時の社会常識から逸脱した行為である。財産や身分にとらわれず，自由恋愛と いう形で結婚するという点は，ヴィクトリア期の文学において画期的で あった。

## 登場人物

ジェーン・エア ：（Jane Eyre，简•爱）
美人ではないが，確固たる意思を持つ女性。
ロチェスター ：（Edward Rochester，罗切斯特）


一時間ほど，木の葉の落ちた林を歩きまわったけれど，昼食後冷たい冬 の風が，うつとうしい雲を吹きよせ，染み入るような雨が降り出したの で，これ以上散歩を続けるのは，もうどだい無理だった。外は，冬の荒涼たる風景が嵐に吹きたてられていた。暖炉の前に三人の従兄妹 ${ }^{(1)}$ が幸 せそうに母親を取り囲んでいる。夫人は私を仲間はずれにしていた。そ の言い分は，私を遠ざけておかなくてはならぬのは残念だけれど，私が もっと愛想のよい，子供らしい性格で，人をひきつける，はきはきした ところのある，いわば，もう少し気軽な，あっさりした，素直な子供に なろうと，本気で努力していることを，彼女自身の目で見るなりしない かぎりは，不平を言わぬ快活な子供だけが受ける特権を，私に与えるわ けにはいかない，というのであった。私だけは客間の隣にある，小さな朝食用の食堂へそっと入って行った。その部屋には本棚があった。私は さっそく，挿絵のたくさんついているのを見極めてから，一冊の本を手 にとった。出窓に上がると，トルコ人のように足を組んで坐った。それ からカーテンを，いっぱい引いてしまって，隠れ家に閉じこもり，その陰（2で本を読んでいた。私は幼いとき両親を亡くしたが，私を引き取っ た伯父のリード氏は「自分の子同様に育てること」をリード夫人に約束 させて亡くなった。リード夫人は，がっしりした骨格に，頑健な四肢，肩がいかつく，背丈はあまり高くなく，太ってはいたが，肥満というほ どではなかった。顔が大きく，下顎がよく発達していて，額は狭く，顎 は大きく突き出ており，目と鼻は普通に整っていた。薄い眉の下に二つ の目が無慈悲に光っており，皮膚の色は，どす黒く濁っていた。髪は亜麻色に近かった。リード夫人は，私を目のかたきにしたため，私はいつ も仲間はずれ ${ }^{\circledR}$ で育ったのである。「きれいならともかく，あんなヒキ蛙 みたいな子には誰も同情しないわ」と言われた私は，いまなお，生々し く，ちくちくと私の心を刺していた。その言葉は，いつも私の心に迫り，怒りの感情が燃え盛った。私は，早く家を出て行きたいと思っていた。

リード夫人は十歳の私を遠く離れた慈善学院に入れることにした。怒 りを抑えていた私は立ち上がり，ドアのところまで行ったが，もう一度

[^0]近づいた。私は言わねばならない。私は頭から踏みつけにされた。はね かえしてやらねばならぬ。だが，どうやって？私は勇気を奮い起こし， ぶしつけな次の言葉に，それを集中した。「私は，けっしてあなたを伯母と呼ばない。二度とここに来ないし，人に聞かれたら，どんなに残酷に扱われたかを言いふらしてやる」と，この言葉が終わらぬらちか ら，私の心は，かつて味わったためしのない，不思議な自由と勝利の気持ちで，ふくらみ，はねあがった。この感情も，理由がないわけで はないが，後には勝利感より苦い思いが残った。復讐というものを，私は初めて味わった。飲むときは暖かく，さわやかな香料入りぶどら酒 のようであった。後味は金気があって，舌を刺すような，まるで毒を飲 んだような気分だった。みずから進んで夫人のもとへ行き，許しを乞い たい気持ちでいっぱいだった。数日後の夕方，ローウッド学院に着くと， テンプル先生 ${ }^{(1)}$ が出迎えてくれた。彼女は，背が高く，美しい容貌と， すらりとした容姿の持ち主であった。優しい光をたたえた茶色の瞳と，描いたように長く揃ったまつ毛が，ひろい額の白さを浮き立たしていた。服装は流行の型で，紫色の布地で仕立てられ，黒いビロードのスペイン ふうのアップリケのために，たいへん引き立って見えた。帯には金時計 が光っていた。彼女の肖像を，より完全にするためには，洗練された容姿と，青白いけれども澄み切った顔色と，威厳のある風采態度とをこれ に付け加えるなら，読者は，少なくとも口で説明できるかぎりの明瞭 さで，テンプル先生の外観について正確な考えを持つことができるで あろう。

学院は高い塀に囲まれ，設備も環境も劣悪で，どの生徒も，無造作に ひきつめ髪をしており，褐色の衣服に，田舎作りの靴を履いていた。こ の服装をした生徒のらち二十人ばかりは，成熟した少女，というよりは， むしろ若い女であった。この服装は，それらの少女たちには，全然似合 わなかった。一番美しい娘さえ，おかしな格好に見えた。しかし，みん な規律に従い，五分もしないうちに，乱れていた生徒の群れは，秩序を回復し，やかましいおしゃべりもやんで，かなり静かになった。特に粗

末な食事は，八十人®の生徒を苦しめた。毎朝，顔を洗ら儀式は，余儀 なくとりやめねばならなかった。水差しの水が涷り付いていたからであ る。前夜突然天気が変わって，肌を刺すような北東の風が一晚中寝室の窓の隙間から吹き込んできて洗顔用の水差しの水を凍らせてしまったの だ。一時間半にわたる長たらしい祈䘠と聖書朗読が終わるまでには，私 は寒さで，いまにも死んでしまいそうな気がした。やっと朝食の時間に なった。この朝は，お粥は焦げ付いていなかった。どうやら食べられる ものであったが，分量が少なかった。私のぶんは，なんとちょっぴりし かないのだろう。この二倍もあったらいいだろうに。その日，私は最下級の組に編入され，正規の学科を決めてもらった。昼食を告げる鐘の音 が鳴り響くと，みんな校舎のなかへ入った。食堂にこもっていた匂いは，朝食のとき鼻を打った臭気と，ほとんど変わらぬいやらしいものであっ た。食べ物は二つの器に盛ってあり，そのなかから，変な匂いのする白 い湯気が，もらもうと立っていた。これは質のよくないジャガイモと，腐りかかったような肉の細切れを，混ぜ合わせていっしょに煮た料理で あることがわかった。この料理は，かなりたっぷりと皿に盛って，みん なに配られた。私は，できるだけ食べた。毎日の食事がこんなものだろ らかと不思議に思った。ローウットでは，夜の遊びの時間が，一旦のう ちで一番楽しい時間であった。夕食にいただく，少しばかりのパンと一杯のコーヒーは，空腹を満たすには足りないにしても，元気を回復させ てくれた。長い一日の束縛がゆるめられ，教室のなかは，昼間よりも暖 かいような感じがした。

はどめは，慣れない規則や生活習慣（2にとまどった。ローウットへ来 て最初の一学期は，まるで一世紀のように思われた。それも，決して幸福な時代ではなく，新しい規則や慣れない学科に自分を慣らすという困難に対して，私は厄介な戦いを続けねばならなかった。先生が言われる ように，私はだらしがなくて，ものをきちんと整頓することが，めった にないのよ。私は不注意なのよ。よく校則を忘れるし，学科を勉強しな ければならないときに，ほかの本を読んだりするのよ。ものを組織的に

注（1）：八十人の生徒を苦しめた。
注（2）：慣れない規則や生活習慣にとまどった。

することができないのだ。しかし，鍛錬は私の知識を磨き，フランス語 も絵画も上級に進めた。ヘレンという友人もでき，不自由でも，今の生活を取り替えようとは思わなかった。春になると，湿気が悪疫のチフス を学院に吹き込んだ。半飢餓状態の生徒たちは伝染しやすく，五十人が一度に病み，五月になる前に学院は病院と化してしまった。幸いチフス に冒されなかった私は自由 ${ }^{(1)}$ に遊び，人数の減った分，増えた食事で好 きな生活ができるようになった。ローウットが森や丘に囲まれ，私は住 むにふさわしい，楽しい場所として描き出したのではなかったろうか？ しかし健康に適するかは，また別の問題だった。ローウットの位置して いた森の多い谷間は，霧と，霧が生み出す悪疫の発生地だ。霧は，す心゙ てを㲧らせる春とともに，この孤児院に忍び込み，人の密集した教室や寄宿舎にチフス菌を吹き込んだ。親友ヘレンは肺病で隔離されていたが， なにも知らない私は，ある晚ヘレンのベッドにもぐりこんで話しこみ，寝てしまった。その夜中，寝ている私の隣でヘレンは死 ${ }^{(2)}$ んでしまう。 まもなく犠牲者の数の多さが世の中に知れ，学院の実態が暴露されて，学院は刷新された。私は生徒として過ごした六年間のらちに首席となり，教師としてさらに二年を過ごすことになった。しかし，慕っていたテン プル先生が結婚して去ってしまらと，決まりきった生活に飽き，自由に なりたい（®）と思うようになった。私は新聞に広告を出して家庭教師の職 を得る。

早朝から駅馬車に摇られて，夜遅くソーンフィールドに到着した私は，留守がちのご主人の代わりに，家政婦フェアファックス夫人＠の温かい出迎えを受けた。彼女は，未亡人帽子をかぶり，黒い絹のガウンをつけ，純白のモスリンのエプロンをかけた，この上もなく清楚な，小柄な老婦人であった。私は，壮大で重厚な建物の中を案内され，部屋に通された。私は，心が浮き立つほど輝かしく，希望に満ちた将来が訪れるように思 われた。翌日，器量の悪さを補らために，衣服に気をつかい，壮麗なホ ールへ下りていった。そこで，半年前にフランスから来たという巻き毛

[^1]のアデール（1）を紹介された。私の生徒である。フランス語が話せた私は，会話に困らなかった。彼女は勉強が嫌いだが素直な子で，仲良しになれ そうだった。彼女は私の膝の上に坐り，巻き毛を後ろに摇さぶりやって，天井に目を向け，あるオペラのなかの歌を，歌い始めた。それは男に捨 てられた女の歌で，その女が恋人の不実を嘆いたあげく，自尊心の助け を求め，一番美しい宝石と豪華な衣装で身を飾り立て，ある舞踏会の夜， その愛を裏切った男に会って，楽しそうな態度をみせつけ，男に捨てら れても露ほども痛手を受けていないことを思い知らしてやろう，という内容である。この歌の目的は恋と嫉妬の調べが子供の口で歌われるのを聴くところにあるのだろうか，それにしては，ずいぶん悪趣味だと，少 なくとも私はそう思われた。アデールは，その歌を，かなり上手に，あ どけなく歌った。これが済むと彼女は私の膝から飛び降りて，「さあ，今度は，何か詩を読んで聞かせましょう」と言った。

私は，未亡人に屋敷を案内された。大きな部屋は，とりわけ豪華だと思った。三階の，いくつかの部屋は，薄暗くて，天井が低かったけれど，古風な感じが，面白かった。階下の部屋で使用されている家具が，流行 が変わるたびに，つぎつぎに，ここへ運び込まれた。ある日，三階で異様な笑い声を聞いたが，夫人からグレイス②という召使の声だと説明を受ける。生活は快適であったが，単調だった。ときどき，私は遠くを眺 め，より多くの経験をしたいと思った。女も男と同じく能力を発揮する分野を必要としているのだ。こんなことを考えているときにも，例の笑 い声を聞くことは珍しくなかった。平和で静かな私の前途は，その後， この場所や，そこに住む人たちに慣れ親しむようになってからも裏切ら れなかった。フェアファックス夫人は，外見通り十分な教育を受け，人並みの知性を備えた，穏やかで親切な気立てのよい婦人であることがわ かった。私の生徒は，甘やかされ，放任されて育った快活な子供で，そ のため，ときには，わがままをいうこともあった。けれども，彼女の監督は，一切私に任されていたし，その性質をよくしようという私の計画 を妨げるような思慮のない干渉は，全然どこからもなされなかったので，

[^2]彼女は，間もなく移り気なところがなくなり，素直になり，教えやすく なった。彼女は特別の才能もなければ，性格の上で特に際立ったところ もなく，普通の子供のレベルから一インチでも高めるような感情や趣味 が，ことさら発達しているということもなかったが，しかしまたレベル以下に引き下げるような欠点も持っていなかった。彼女は，かなりの進歩を示し，その無邪気なところや，気に入ろうとする努力によって，二人の交わりに，お互いが満足しらる程度の愛着を私に起させた。

ある日，冬枯れの道を歩いていたとき，滑る音と，「畜生，なんという ことをしてくれるんだ！」という叫びと，どうと倒れる音が，私の注意 をひいたのだ。私は，犬を連れた旅人 ${ }^{(1)}$ が氷に足を取られ，馬ごと倒れ ているのを助けた。家に戻ると，さっきの犬が寝そべっていた。「この犬 は？」，「ご主人様は足にけがをしています」召使は医者を迎えにいった。翌日は，使用人たちが事務処理のため，ご主人を待ち受け，館にはベル や戸の開く音，人々の歩き回る音とともに外の世界がながれこんできた。数日後，お茶に呼ばれた私が，精一杯服装を整えて部屋に入ると，暖炉 の前には犬とともに，日に照らされて，どちらかいえば不細工で気むず かしげな顔（2があった。私の感じでは，気難しい口もと，下顎，横顎な ど，すべて見覚えがあった。そうだ，三つとも気難しい感じで，間違い なかった。特に角張っている点で，その人相とよく調和していると私は思った。角張ったというのが，体育上の意味から言えば，よい形であろ ら。背が高くもなく，優美でもなかったが，胸幅が広く，腰が細かった。 そこで，私は数日前の旅人がこの邸のご主人だったことを知ったのであ る。ご主人は短気で怒りつぽかったが，話好きであった。アデールはパ リの愛人が別れてすぐ産んだ子だが，自分の娘とは思っていないという話や，私についてもいろいろ知りたがり，よく話し相手 ${ }^{(3)}$ に呼ばれた。私に対する彼の態度は，ここ数週間のあいだ，初めてのころに比べて， ずっとよくなってきた。私は彼の邪魔にならないようであった。あのそ っけない傲慢な素振りも見せなかった。思いがけず，どこかで顔を合わ せても，そのことを喜んでいるふらだった。いつも言葉をかけ，ときに

[^3]は，にっこりと笑い顔も見せた。正式に彼の前に呼ばれたときも，誠意 あるもてなしをうけるので，そのため私は，ほんとに彼を喜ばせる力を持っていると思いこみ，か細い三日月のような私の運命がしだいに大き くなるように思われた。生活の空白が埋められ，体も，ずっと健康にな り，肉付きがよくなり，カも強くなった。彼の態度が気さくであったの で，私は笨屈な思いに苦しむ必要もなくなった。真心のこもった，同時 に礼儀正しい，打ち解けた態度で，彼は私をもてなし，引き付けた。と きには主人というよりも，むしろ自分の肉親のような感じがして，彼と同じ部屋にいることは，暖かい火より喜ばしいこと ${ }^{(1)} た ゙ っ た 。 ~$

ある夜，悪魔のような声が聞こえた。その悪魔のような笑いの主は，私のベッドのそばに立っているのかと，いや，むしろ私の枕のそばにう ずくまっているのかと思った。恐ろしさに戸を開けると，煙（1）が立ちこ めていた。それはロチェスター氏の部屋のドアで，そこから煙がもくも くと噴出しているのだ。ご主人の部屋が燃えているので，たちまち私は， その寝室に飛び込んだ。炎と煙の真っただ中に，ロチェスター氏は身動 きもせず，ぐっすり眠っていた。夢中で火を消しとめ，ご主人を起こす と，彼はグレイスのしわざだが，だれにも言わぬよう口止めした。翌日 は，いつもと変わりなく過ぎていった。その日から，彼はパーティーに呼ばれ，帰らなかった。彼の婚約者とされるイングラム嬢もそこへ来る と聞き，私は感情を押し殺し，新しい勤め口について思いを巡らせた。半月後，今度は館でパーティーが催されることになった。私も手伝い®に駆り出されたが，召使たちがグレイスの噂をしながら，私をなにかの秘密から故意にのけ者にしているのを知った。やがて，にぎやかな晚餐会 や夜会が繰り広げられ，私もアデールと来るよう命じられた。婦人たち の中でイングラム家 ${ }^{(1)}$ 三はひときわ目立っているけれども，大方，こ の人たちのうちでも，一番背が高かったせいもあろう。イングラム未亡人は年齢は四十前後くらいらしく，容姿もまだ衰えておらず，髪の毛も，少なくとも蛝燭の明かりでは，まだ黒く，歯もまだ，明らかに，しっか

[^4]りそろっていた。たいていの人が，その年齢にしては美しい婦人だとい うのであろう。容姿の点から言えば，もちろんそうであったけれども， その表情や動作には，ほとんど，我慢のならない傲慢な感じがあった。 この顔だちが傲慢のためにふくれあがり，陰気になっているだけでなく， しわまでよっているように思われた。彼女はまた残忍，酷薄な目をして おり，それはリード夫人の目を思い起こさせた。二人の令嬢は，ちょう ど同じくらいの背たけで，ポプラの木のように高くすらりとしていた。 もちろん私は特別の興味をもつてイングラム嬢を観察した。第一に私は，彼女の外見がフェアファックス夫人の説明に一致するかを。第二に，私 が描いた空想の肖像画に少しでも似ているかどうかを。第三には，ロチ ェスター氏の好みにあっていると考えられるようなものであるかどうか を，見たかったのである。

最近私は，赤ん坊の夢を見ずに眠った夜は，ほとんど一晚もなかった。 それが，あるときは，赤ん坊を腕に抱いて泣きやまそうとしており，あ るときは，ひざの上であやしており，またときには芝生で，雛菊をもっ て遊んでおり，今夜泣いている赤ん坊を見たかと思うと，次の晩は笑っ ている赤ん坊を見る。その後のある日，使いが来て，リード夫人が倒れ，私に会いたがっていると告げた。私は九年前，絶望的な思いで旅立った家の前に立っていた。住み慣れた家の家具など生命のないものは少しも変わっていなかったが，人間たちは変わっていた。寝ている夫人 ${ }^{(1)}$ をみ た私は，すべてを許そうと思った。私は，かつて彼女を二度と伯母様と呼ぶまいと誓った。けれどもいまは，この誓いを破ることが罪に値する とは思わなかった。私の指はシーツの外に出ている彼女の手を握りしめ た。もしも彼女が，優しく握りかえしてくれたなら，そのとき，私は，心からの喜びを感じたに違いない。昏睡状態が続いた数日後，私が一人 で付き添っていると，か弱い声がし，「ジェーン，私はおまえに二度ほど良くないことをした。一つは・••」と化粧箱から手紙を出すようにと言った。それは父方の叔父ジョン・エアからのもので，三年前のもので あった。そこには，私を養女にして，財産を譲りたいと言った。「私を罵 ったおまえへの仕返しだった。おまえが安楽になるのは我慢できないこ

注（1）：寝ている夫人をみた私は，すべてを許そうと思った。

とだ。だから，ジェーンは死んだと言ってやった。さあ，手紙を出して私の嘘を暴きなさい」と夫人は言い，許そうと差し出した私の手も冷た くはねつけ，そのまま昏睡状態 ${ }^{(1)} に$ 陥った。葬式の後始末をして一ヶ月後，私はソーンフィールドへ帰って行こうとしている。けれども私は， いつでも，あそこにいられるのだろうか？長いことはない。それは確か だ。しかし私は，目の前の道が，だんだん短くなるのが，嬉しかった。 あまり嬉しくて，私は一度，ふと歩みをとめ，この喜びは，何を意味す るものかと自分に尋ねた。そして自分が帰って行くのが，我が家でもな ければ，また，いとしい友達が，私を求め，私の到着を待ちわびている場所でもないことを思い出した。にも関わらず，私は一刻も早くあの家 に着きたかった。葉が茂り，花のついた枝を道へ突き出している，丈の高い野茨（野薔薇）のそばを通り過ぎた。そして，手帳と鉛筆を手に， そこに腰を下ろしているロチェスターの姿が見えた。そうだ，彼は幽霊 ではない。それなのに，私の張り詰めていた気持ちは，すっかり緩まな い。暫くのあいだ，私は茫然としていた。これは，どうしたことだろう？彼を見て，こんなふうに震えようとは，彼の前に立って声も出ず，身動 きもできなくなろうとは，思いもかけぬことであった。再び主人に会う のがどんなに嬉しいことか，私はよく知っていた。私のような道に迷っ た小鳥には，彼が撒き散らすパンくずを味わうことさえ，楽しいご馳走 であったほど，ロチェスターには，いつも幸福を伝える豊かな力があっ たのである。ご主人をはじめ，館の人々もみな温かく迎えてくれ，私は，自分自身の存在が人々に喜ばれる幸せを感じていた。「美は，見つめるも のの目のなかにある」という言葉は，非常に真理である。主人の血色の薄いオリーブ色の顔，角張った大きな額，太くて真っ黒な眉，深い目， たくましい目鼻立ち，きゅつと結んだ気難しい口もと，精力と決断力と意志そのもの，これらは原則的には美しくなかった。けれども私にとつ ては，はるか美しさ以上のものであり，完全に私を支配してしまうよう な，自分の力の源泉から私の感情を奪い取って，彼の力のもとに縛りつ けてしまうような，興味と作用に満ちていた。私は彼に恋するつもりは なかった。私が，目につくかぎりの恋の芽を心の中から摘みとろうと，

注（1）：そのまま昏睡状態に陥つた。
 たことが，一つあった。それは彼が，あちらこちらへ旅行することもな く，またイングラム荘園を訪問することもなかったことである。イング ラム荘園までは二十マイル離れている。しかし熱烈な恋人にとって，そ のくらいの距離が，なんであろう？ロチェスター氏ほどの疲れを知らぬ練達の乗り手にとっては，それくらい，ほんの朝のひと時の乗馬に過ぎ ないであろう。私は，結婚が中止になり，噂は間違いで，どちらかが， それとも二人とも，心変わりしたのかもしれぬという，いわれのない希望を抱き始めた。私は，いつも主人の顔を，悲しみを浮かべてしまい， けわしい表情をしてしまうのでないかと眺めるのであったが，このごろ のように，それが曇ってもいなければ不快な感情を見せてもいず，常に晴れやかであった。私とアデールとが彼と一緒に過ごすとき，私が元気 を失って，どうしようもないめいった気分に陥っても，彼は，いっそう快活になるのであった。

六月半ば，ご主人がいきなり，「一ヶ月以内に結婚しょうと思っている。私が結婚する場合，アデールは学校へ，あなたは新しい勤め口『を探さ なくてはならない」と言った。私は涙があふれてきて，「私が，あなたに とって，なんの意味もないものとなっても，なお，ここにとどまってい られるとお考えなのですか？私を人形だとお考えなのですか？感情も持 たぬ機械だとお考えなのですか？そして，口からパン切れを奪いとられ， コップから，命の水をこぼされても，なおかつ，我慢していられるとお考えなのですか？私が貧乏で，名もない身分で，ちっぽけな女なので，魂もなければ，愛情も持たないと思ったのですか？たいへんなお考え違 いですわ！私もまた，あなたと同じように魂を持ち，あなたと同じよう に愛情を持っているのです。もし神様が私に，いくらかの美しさと，相当の財産を，恵んで下さっていたら，いま私があなたとお別れするのを つらいと思っているように，あなたにも，私と別れるのをつらいと思わ せることができたでしょう。これはあなたにお話しているのではなく， あなたの魂に話しかけているのです。平等に，ありのままに！」 私は，思わず告白した。「私はここが好きなのです。あなたと知り合えたのに，

あなたが結婚されて永久に別れなければならないのは，恐怖と苦痛に胸 が引き裂かれる思い（1）です。別れるのは死を眺めているのと同じです」 すると，「私が結婚（2）ようと思っているのは，あなたですよ」と，ご主人が言らではないか。私は愚弄されていると思った。彼は続けて言った。

「私が嘘つきにみえますか？イングラム嬢を傷つけないように，私の財産が三分の一もないと噂を振りまいたら，泠たくあしらわれました」別離の悪夢から結婚の楽園®へ，私は心を奪われてしまった。彼は，なん ども私に接吻した。彼の腕から抜け出し，目をあけたとき，そこに，青 ざめ，厳粛な顔をした未亡人が，あっけにとられて立っていた。私は夫人にちょっと微笑んで見せただけで，階上へ駆け上がった。説明は，ま たのときでいいだろうと思った。でもやはり，自分の部屋へ入ったとき には，夫人はいま目にした光景を，誤解するのではないかと心苦しく感 じた。けれども歓喜は，すぐにほかの感情を，一切拭い去ってしまった。 そして，どんなに風が吹き荒れようが，どんなに雷がすぐ近くで鳴り響 こうが，その夜，庭の大きな木が落雷で真ッ二つに裂けたときも恐ろし くなかった。しかし，結婚の話を聞いたフェアファックス夫人は，「年も


その後の一ヶ月で結婚の準備が進められ，ロンドンから豪華なヴェー ルが届けられた。ロチェスター氏は，むりやり私をある絹織り店へ連れ て行き，そこで半ダースばかりの衣装を選ぶことを命じた。私は，それ がいやでならなかった。延期してほしいと頼んではみたけれど，やはり， いますぐ片付けてしまわなければならなかった。低い声で，一生懸命嘆願した結果，やっと二着に減らすことができた。しかし彼は，一番美し い紫色の高価な絹織りと，華やかなピンク色のサテンに目をとめた。私 はまた小声で，そんな衣装を買って下さるのは，金の冠と銀の帽子を， いっぺんに買ってくれるのと同じことだと，なんどもささやいたが，彼 は石のように頑固だった。しかし，婚礼の二日前，夜中に目をさますと，見知らぬ女がヴェール®を引き裂き，踏みにじり，血走った目で私を睨

[^5]んでいる，私は気を失った。ご主人からは，今夜はアデールの部屋 ${ }^{(1)}$ で寝るよう約束させられた。結婚の日は，もはや延ばされそうもなかった。 その日のための準備は，すっかり整っていた。少なくとも，当時の私は， もう何もすることはなかった。私のトランクは，荷物を詰め，鍵をかけ，縄で縛って，小さな私の部屋の壁ぎわに，一列に並んでいた。あすのい ま時分には，このトランクは，はるか遠くロンドンへ送られる途中にあ るだろう。そして，私も，私ではなく，ジェーン・ロチェスターという私 も，やはり同じ途上にあるはずである。結婚式当日，私たちを待ち受け て案内してくれる花婿の介添えも花嫁の付き添いもいず，一人の親戚も いなかった。ロチェスター氏と私と，二人きりであった。私たちがホー ルを通り過ぎるとき，フェアファックス夫人が，そこに立っていた。一言，なにか言葉をかけたかったのだが，私の手は，鉄のように固い彼の手につかまれており，ついていけぬほどの大またで，急き立てられてい た。ロチェスター氏の顔を見ると，どんな目的のためにでも，一刻の猶予も許さぬような気がした。新郎というものは，彼のような顔をするの だろうか。こんなに目的に熱心で，恐ろしいほど決然としているもので あろうか。また，こんなふうに，きっとなる眉の下に，燃え輝く目を光 らせているものなのであろうか。私たちは聖餐台の前の手すりのところ に立った。結婚の意志の説明が終わり，そこで牧師は一歩前に進み出て， ロチェスター氏のほうに，身をかがめながら，言葉を続けた。「…神のお言葉の許しなくして結ばれたるものは，神によりて結ばれしものにあら ず，またその婚姻は法に従いたるものにあらざることは，汝らのよく知 るところなればなり」ここで牧師は，言葉をとめた。教会で挙式の最中，牧師の祈䘠を低い静かな声がさえぎった。「この男は私の妹と婚姻中です。法律的にもこの結婚は無効 ${ }^{(2)}$ です」その瞬間の彼の青ざめた，固い，広 い額は，なんと切り出されたばかりの大理石そっくりであったろう！い かに，その目は，なおも油断なく，しかも狂暴に輝いていたことであろ う！これまで雷鳴に震えたことのない私の神経だが，この低い声で言わ れた言葉には，わなわなと震えた。いまだ感じたことのないような名状

[^6]しがたい，激しい痛みを私の血は感じた。彼の顔は，ただ蒼白の岩であ った。目は火花であり，火打ち石でもあった。彼は，なにごとも否認し なかったが，しかも，あらゆるものに挑戦しようとしているかのようで あった。事実確認のため，牧師や私たちは館に向かい，野獣のように吠 える発狂した女 ${ }^{(1)}$ をみた。狂人は，吠え立てた。振り乱した毛髪を顔か らかきのけると，訪問者たちを狂暴な目で睨みつけた。私は，その紫色 の顔，むくんだ容貌に，十分見覚えがあった。「これが私の妻です」と彼 は言った。その夜，私はすべてを捨てて館を抜け出した。熱烈な，希望 に満ちていた女，ほとんど花嫁になりかけていた女，ジェーンは，再び冷たい，孤独な娘に返った。その生命は青ざめ，前途は荒涼としている。 クリスマスの霜が真夏に降り，師走の吹雪が六月に渦巻き，氷が，熟れ たリンゴに張り詰め，なだれる雪が咲き始めたバラの花を押しつぶし，牧草地や麦畑は一面に霜に覆われ，昨夜は花が咲き乱れて紅であった小道が，今日は人跡もない雪に埋め尽くされ，十二時前には熱帯の森林の ように芳しい香を放ち，茂みがざわめいていた森は，冬のノルウェーの松林のように，もの寂しく，荒涼として，真っ白く雪をかぶっている。私の美しい幻想は，みんなとてもいいものだけれども，私は，それが絶対に現実のものでないことを忘れてはならない。私は頭のなかにバラ色 の空と緑のエデンの園を持っているけれど，でも外には，たどらねばな らぬ険しい道が足下に横たわり，周囲には遭遇しなければならぬ黒い嵐 が迫っていることを私は知っている。優しい読者よ，そのとき私が感じ たような悲しみを，あなた方は，決して感じることがないようにと，私 は心から祈る。私の目からあふれ出た，あの激しい，募えたぎる，心を しぼるような沪を流すことのないように！

畑の向こうの，一マイルほど離れたところに道が一筋あった。一度も通ったことはなかったが，なんども眺めては，どこへ通じているのかし らと思っていた道である。その方へ私は足を向けた。どのような追憶も， いまは許されなかった。一目だって振り返ることはできない。先を見る ことすらできなかった。過去へも未来へも思いを馳せてはならなかった。前者は天国のように楽しく，また死ぬほど悲しい一頁であり，その一行


を読んでも，それは私の勇気を挫き，元気を無くすことだった。後者は，恐ろしい空白であった。大洪水の過ぎ去ったあとの世界に似ていた。身一つで出てきた私は，もうこの世に一シリングだって持ってはいなかっ た。一片のパンも分けてもらえず，家々に近づいては，そこを離れ，ま た引き返して来ては，再びさまよい去った。その度に，自分には物を乞 ら権利もなければ孤独な私の身の上に関心を寄せてくれるようにと望む権利もないのだという意識のために，そこを追い払われるのであった。三日間も野原をさまよい，雨の中，ある家 ${ }^{(1)}$ の前に崩れこんだ。その夜 から三日ほどの夜と昼の記憶は，私の心に，極めておぼろげにしか残っ ていない。そのあいだに感じたいろいろな気持ちを思い浮かべることは できるけれど，まとまった考えや，自分がした行為は，ほとんど思い出 せない。自分が小さな部屋の，狭いベッドにいることは，知っていた。私は，そのベッドに根を生やしたようであった。石のように動かずに横 たわっていた。そこから私を引き離すことは，私を殺すのと同様のこと であった。時間の経過，朝が昼に変わり，昼が夜になっていくのも，気 が付かなかった。私は誰かが，そこへ入ってきたり，出て行ったりする のを見た。それが，誰であるか，また，私のそばへ来て，何を言ったか も，分かっていたが，答えることはできなかった。唇を開くことも，手足を動かすことも，どちらもできなかった。そこでちょうど帰ってきた セント・ジョンに助けられ，三日三晚（2）寝こんでしまらことになった。 セント・ジョンは，一度しかやって来なかった。彼は私を見て，この昏睡状態は長く続いた過度の疲労の，反動からきたものだと言った。医者 を呼ぶ必要はない。自然に任せておけば，それがきっと一番よい療法に なるだろう，と言った。なにか，ひどく神経を使いすぎたのだから，暫 くの間，体全体を，すっかり眠らせておかなければならぬ，とも言った。病気ではない，とも言った。その家のメアリとダイアナ姉妹 ${ }^{(3}$ や女中が私の様子を見にきて，「服は立派で教養もありそうだけど，器量は良くな いわね」などと話していたのをおぼろげに記憶している。メアリとダイ アナ姉妹，二人とも美しい顔色で，きやしゃな，体つきであった。どち

[^7]らも個性の強い，知性に満ちた顔の持ち主であった。一人は，確かにも う一人の娘よりも，幾分髪の毛が黒く，髪の結い方も，違っていた。メ アリの薄茶色の巻き毛は二つに分けて，綺麗に編んであった。ダイアナ の，もつと黒みがかった髪の毛，大きく伸ばして首筋を覆っていた。元気になると私は，ジェーン・エリオットと名を変え，兄弟の世話 ${ }^{(1)}$ にな った。家のなかでも，私たちは同じように，よく気が合った。彼女たち は，私よりも多くの書物を読み，さまざまな芸能を身につけていた。し かし私は，彼女たちが一足先に足を踏み入れた知識の道を，熱心にたど って行った。彼女たちが貸してくれる本を，私は貪るように読んだ。昼 のあいだに，よく読んでおいたものを，夜になって彼女たちと批評し合 うのは，なによりの楽しみであった。思想と思想が一致し，意見と意見 が応じあった。要するに，私たちは完全に一致したのである。

彼らは父親が亡くなって後始末をしているが，一ヶ月後には美しい姉妹はそれぞれの家庭教師先へ向かった。兄のジョンは，優しい，率直な，感受性に富んだ人という印象，または，穏やかな人物という印象さえも， めったに見る人に与えることはなかった。いま彼は静かに坐っているけ れども，その鼻孔や口や額のあたりに，私の感じたところでは，いらい らした気持ち，あるいは激しい気持ち，あるいは熱心な気持ちを表すよ うなものがあった。彫刻のような顔をした兄のジョンは，モートンの牧師 ${ }^{(2)}$ として戻ることになっていた。私は教師の職があると聞き，そこへ行く決心をした。その学校には二十人の生徒がいた。けれども，読むの ができるのは，そのうち三人だけで，字の書ける者，算術のできる者は，一人もいなかった。何人かが織物ができ，裁縫が少しできた。皆，この地方のなまりで話した。生徒のある者は，無知で，そのうえ行儀が悪く，荒っぽいので，手に負えなかったが，ほかの者は，素直で勉強したいと いう気持ちを持っており，好ましい性質を示していた。私は，ずいぶん わびしい気持ちを感じた。愚かな私は自分の品位を落としたと感じたの である。私は，社会生活において，自分を高める代わりに，低める一歩 を踏み出したのではあるまいかと疑ったのである。自分の周囲に聞き，

[^8] たのである。しかし，このような感情のゆえに，あまりに自分を荗むこと はよそう。それが間違っていることは分かっている。それだけでも大きな進歩なのだ。このような感情に打ち勝つように努力しょう。明日はきっと， それらの感情を，いくらか抑えることができるだろう。二～三週間経つ らちには，恐らく，こんな気持ちは，すっかりなくなっているだろう。 そして，数ヶ月経つらちには，生徒たちのなかに進歩の跡と向上の変化 とを見る楽しさが，嫌悪の代わりに満足を与えてくれるだろう。
私は，できるだけ積極的に，誠実に，村の小学校の勤めを続けた。初 めのあいだは，ほんとに辛い仕事であった。しばらく経つらちに，私は，全力を尽くして，生徒たちとその性質とを理解できるようになった。ま るで教育の受けたことのない，極めて鈍い能力しか彼女たちは持ってい ず，まったく見込みのないほど無能にさえ思われた。最初ちょっと見た ときには，どれもみんな同じような愚鈍な子供に映った。けれども，間 もなく私は，自分が間違っていることに気が付いた。教育のある人たち のあいだにあるような差異が，彼女たちのあいだにもあるのだ。私が生徒たちを知り，生徒たちが私を知るに及んで，この差異は急速に大きく なった。田舎の子供たちの何人かのなかに，十分に敏感な子供が目覚め てきていることに私は気がついた。大部分の生徒が，従順で，可愛らし い様子を見せた。また，すぐれた能力と同様に，生来の自尊心持って いるといら実例も，少なからず発見され，そこから彼女たちに対する好意と尊敬が生まれた。このような生徒たちは，やがて忠実に作業を実行し，身の回りを清潔にし，規則正しく学課を学び，落ち着いた，規則正しい態度をとる習慣を身につけることに，喜びを持つようにな つた。いくつかの実例によっても，その進歩の速さは驚くほどで，私 はこのことに，幸福な，真実の誇りを感じた。その上，私は個人的に も，優秀な生徒の何人かを好きになり始めた。彼女たちも私を愛した。

ある日，一通の手紙が届き，ダイアナが，「ジョン叔父さんが亡くなっ て，二万ポンドの遺産はもら一人の姪にあげるんですって」と言った。私はモートンで教師 ${ }^{(1)}$ となり，二十人の農家の子は粗野であったが，高

注（1）：二十人の農家の子を教えた。

貴な家の子弟と同じ善良な人間性の持ち主であった。ある日，私が無意識に自分の名を紙切れに書いたのを，訪ねてきたジョンが見て，翌日こ んなことを言った。二十年以上前，貧しい牧師と金持ちの娘が恋をし，一人の娘 ${ }^{(1)}$ を残して死んだ。その子は，義理の伯母に育てられ，十年後 ローウッドに移されて今は行方知れずであり，ジェーン・エアという名 のその子を弁護士が探しているというのだ。「叔父が二万ポンドの遺産 ${ }^{(2)}$ を遺したのです」と告げる彼が，従兄にあたるセント・ジョンであるこ とを私は知った。読者よ，貧窮のどん底から一瞬にして裕福の頂点に舞 い上がるとは，なんと素晴らしいことであろう。とても素晴らしいこと である。けれども，それは，にわかに納得のいくことでもないし，した がって，すぐに楽しめるというわけあいのものでもない。また人生には， はるかに嬉しさにぞくぞくするような，有頂天になってしまうような機会が，もつとほかにあるものである。私のたつた一人の親戚は死んでし まった。叔父さんがあるということを聞かされてからというもの，いつ かは会えるという望みをいだいて，私は生きてきた。しかし，それも， もう二度と望むべくもない。それにまた，このお金は，わたし一人にも たされた。私と，大喜びの私の家族とではなく，一人ぼっちのこの私に。自立できるということは，なんと素晴らしいことだろう。そうだ，私は それを感じた。この思いは私の胸を膨らませた。私は，財産より従兄妹 ができたことがなにより嬉しかった。私は彼を見た。それからまた，二人の姉妹を。彼女たちの人柄は，単に未知の人として会ったときにも，私に心からの愛情と賛美の念を起させたほどであった。濡れた地面に膝 をつき，ハウスの台所の低い窓から中を覗き，好奇と絶望の入り混じっ た，痛ましい思いで見つめたときの二人の娘は，私の近い血縁であった のだ。また，あの家の玄関で，死にかかっている私を見つけてくれた若 い威厳に満ちた紳士も，私の血続きの親戚であったのだ。寄るべのない不幸な子にとって，これはなんと栄光に満ちた発見であろう。これこそ真実の富，心の富であった！清らかな，温かい愛情の鉱脈であった。こ れこそ心の躍るような，輝かしい，まばゆいばかりの祝福であった。重

[^9] が，その重みを思えば喜びも泠めるものである。私は，部屋のなかを， せかせかと歩きまわった。それを受け入れ，理解し，思い定めることも できぬほど，矢つぎ早に，わきあがってくる考え，ああでもあろうか， こうもできる，ああもしたい，いや，そうすべき，という考え，そして また，すぐに現実化する考えで，息が詰まりそうになり，私は立ちどま った。私は白い壁を眺めた。それは，星に覆われた空のようであり，ど の星も，目的に向から私，喜びに向から私を，照らしてくれるように思 われた。私の命を救ってくれた人たち，今日までは，ただむなしく愛し てきた人たちの役にたつことが，いまこそ私にはできるのだ。あの人た ちは，くびきの下にいるのだ。私は，あの人たちを自由にしてあげるこ とができる。私のものである自立と裕福は，またあの人たちのものでも あるのだ。私たちは四人ではなかったか？二万ポンドを等分にすると，五千ポンドずつになる。十分，余るほどだ。公平にしよう，お互いの幸福が手にはいるのだ。いまは富も重荷ではない。いま，それは単なる貨幣の遺伝ではなかった。それは生命の，希望の，喜びの贈り物であった。私はダイアナとメアリが好きですから，一生ダイアナとメアリのそばを離れないつもりです。五千ポンド持つことは，嬉しいことでもあり，私 のためにもなるでしょうけれども，二万ポンドを所有することは，私を苦しめ圧迫することでしょう。そればかりか，その二万ポンドは，法律上は私の物かも知れませんけれど，正義の上からは，決して私の物では ありません。それではこういうことにいたしましょう。つまり，私にと っては，絶対に余計な分を，あなた方に取っていただくのです。そして， この点については，反対なし，議論なし，ということにいたしましょう。互いに賛成し合って，すぐそういうことに決定いたしましょう。

三人の従兄妹を説き伏せ，私は，遺産を四等分にすることにいきがい（1） を感じた。何もかも，すっかり片付いたのは，クリスマスも近いころで あった。すべての人の祭日の季節がきた。この別れは，私には，ただご とでは済むまいと，注意しながら，私は学校を閉じた。幸福というもの は，不思議にも，その手を心と同じように開くものである。それを，ど

注（1）：遺産を四等分にすることにいきがいを感じた。

っさり手にしたとき，多少とも人に施すことは，感情に異常な沸騰のは け口を与えることにほかならない。多くの田舎育ちの生徒たちが私にな つくのを，私は長いあいだ，嬉しく感じてきた。お別れに際して，この意識は動かしがたいものとなった。生徒たちは，その愛情を，激しく，率直に表現した。彼女たちの純真な心のなかに，わたしというものが宿 っていることを知って，私は心から感謝した。今後とも，毎週必ず彼女 たちを訪れて，一時間だけ授業をしてあげよう，と私は約束した。私た ちはみな自立した資産家となって元の家に戻り，ドイツ語の勉強や趣味 に毎日を送り，ジョンは教区回りに忙しかった。彼が，極めて忍耐強い，寛容な，しかも，やかましい先生であることを，私は知っていた。彼は非常にたくさん勉強することを私に期待した。そして，私がその期待を満たすと，彼一流の表現で，おほめの言葉を，与えるのであった。彼は，私の心の自由を奪うほどの，ある種の権力を，次第に私に対して持つよ らになった。彼の賞賛と注意とは，泠淡にされるよりも，もっと窮屈な ものであった。彼がそばにいると，私はもはや自由に話したり笑ったり することができなかった。快活ということは，彼にとって不快なもので あることに，うんざりするほど執拗な直感によって，私は気づいたから である。ただ真面目な気分と，真面目な仕事だけが，彼の気にいること がよくわかり，すべてを涷りつかせるような魔力に私はかかっていた。 しかし，彼を喜ばせようとすれば，自分の性質を半分押さえつけ，自分 の才能を半分押し殺し，自分の趣味を本来の傾向からねじ曲げて，生ま れつき全然適していない仕事を，いやでも選ばなければならぬという感 じが，日ましに募るばかりであった。彼は，私などとうてい行けそうも ない高いところへ私を引き上げる訓練を施したがった。彼がつれて行こ らとする標準まで登ろうとして，私は，絶えず身のよじれるほど苦しい思いをした。このことは，私の均整のとれていない目鼻立ちを彼の端正 な古典的な型にはめ込むことができないのと同じように，また変化しや すい私の緑の目を，海のように青い，荘重な光を帯びた彼の目の色に染 め直すことができないのと同じように，不可能なことであった。読者よ，私がこう言ったときの言葉の調子と，それに伴う感情には，どこか抑制 された皮肉のようなものがなかったとは言い切れない。私は，このとき まで，ひそかにジョンを恐れていた。私には，何か理解のできないもの
 のか，私には分からなかった。

しかし，ロチェスター氏の近況 ${ }^{(1)}$ が，私の耳に入ってくることはなか った。ある日，ジョンは，「インドへ布教活動に行くので妻になってほし い」と言った。ジョンは私を仕事の伴侶 ${ }^{(2)}$ として愛してはいるが，妻と して愛してはいない。しかも，あの残酷な土地で私は長くは生きられな いだろう。「妻としてでなければ行く」と私は答えた。するとジョンは，「わたしの妻としてのみ，あなたは，その道に踏み入ることができるの です。わたしの妻となることを拒絶してごらんなさい。あなたは永久に，自分本位の安逸と，何も得ることのない蒙昧のやみに，永久に閉じ込め られてしまうのです」と語った。彼の感情は心のなかにすっかり閉じ込 められていた。もう私は，それを聞く資格がなかった。彼と並んで家路 をたどりながら，その鉄のような沈黙のなかに，私は，私に対する彼の気持ちを，十分に読み取ることができた。服従を期待して抵抗に出会っ た失望。どうしても共感をいだくことのできない感情と見解とを発見し，冷たい，融通性のない判断力によって，それを非難している気持ち。要 するに彼は，一人の男として私を強制的に服従させたかったのだ。私は，背の高い堂々たる彼の容姿を眺めた。そして，この人の妻としての私を心のなかに描いてみた。どうしても私はいやだ！彼の助手としてなら，彼の仲間としてなら，すべて問題はなかった。その立場でなら彼ととも に太平洋を越えて行こう。東洋の太陽の下で，アジアの砂漠で，彼とと もに，その職務に励もう。彼の勇気と献身と強烈な精神力とを称賛し，自分の模範にしよう。おとなしく彼の専制に服従し，彼の限りのない野心にも快く微笑しよう。彼のなかにあるキリスト教徒としての反面とそ らでない反面とに区別をつけ，前者を心から尊重し，後者を気軽に見の がしてあげよう。確かに，この立場からだけなら，彼のそばにいること も，我慢できるだろう。私の肉体は，むしろ厳重なくびきのもとにおか れるだろうけれど，心と魂は自由でいられる。また，一人いるときには，生来の，捕われぬ自然の感情と語り合うこともできるだろう。私は自分

注（2）：仕事の伴侶として愛している。

の心のなかに，わたしだけの，彼も踏み込むことのできぬ隠れ家を持つ だろう。インドへの旅立ちを二週間後に控えた夜，どこからか，「ジェー ン，ジェーン，ジェーン！」とロチェスター氏の声 ${ }^{(1)}$ が聞こえた。その声がしたのは，部屋のなかでも，家のなかでも，庭のなかでもなかった。 また空から来たのでもなく，地の下から来たのでもなく，頭上からでも なかった。しかし，私は聞いた。どこでとも，どこからとも，永久に知 ることのできない声を！そして私は，知らないうちに，「今行きます！」 と叫んだ。二日後，私はソーンフィールドの館の前に立ち，焼け落ちた廃墟を見た。近くの宿屋で様子を聞くと，ご主人はその後，アデールさ んを学校へやると邸に閉じこもってしまったそうだ。そして，ある夜，狂った奥様が家庭教師の部屋に火をつけ，彼女を助けようとしたご主人 は柱の下敷きになり左手をなくし，目が見えなくなった。奥様は亡くな り，ご主人は別邸にいらっしゃるとのことだった。

私はその足で別邸に馬車を走らせた。この別邸はかなり古い，普通の大きさの建築としては，なんの特徴もない建物で，深いもりの奥に埋も れていた。わたしはこの家のことを前に聞いて知っていた。ロチェスタ ー氏は，よくこの家のことを話したし，ときどき訪れていた。これは先代が遊猟の獲物の囲い場として買い取ったもので，その後，人に貸すつ もりであったらしいが，場所が不便で借り手がなかったのである。私は足を進めた。ようやく，樹木が，ややまだらになって，道が開けてきた。 ついで建物が見えた。この黄昏の，薄明かりでは，ほとんど樹木と区別 がつきかねるほど，その古びた壁は，陰気な緑をしていた。森に囲まれ た屋敷の前に着くと，手探りで歩く人がみえた。私は足をとめ，ほと んど息までとめて，彼を見守りながら立ちつくしていた。自分の姿を見 られずに，彼の様子をよく見るつもりであったが，しかし，思いがけな い対面であった。しかもまた，喜びが悲痛に抑えられた再会でもあった。私は叫び出そうとする声を抑え，駆け寄ろうとする足を抑えた。彼の体 は，以前と同じように，たくましく，しっかりしていた。姿勢も依然と して真っ直ぐで，頭髪も，やはり黒々としていた。容貌も昔と変わらず，

[^10]躯を蝕み，または彼の盛んな活力を奪うことはできなかったのだ。しか し，彼の容貌には，ある変化があった。そこには絶望と苦悩の色があっ た。私が部屋に入ると，ご主人は喜びを見せたあと，自分の障害を認め， またふさぎこんでしまった。食事の世話をしながら，この一年間の話を し，私がロチェスター氏を愛していることを告げると，彼は，「最近神に祈るようになり，四日前の夜，あなたに会いたくて，ジェーン，ジェー ン，ジェーンと三回も叫んだのだ。そうしたら，今行きます！という声 が聞こえた。そして，あなたは本当に来た」と言った。彼は，再び沈鬱 に戻った。一方私は，かえって明るくなり，新しい元気が出てきた。彼 と共にいると，うつとらしい遠慮もなく，浮き立つ気持ちを抑制するも のもなかった。それは，私が彼にぴったり適合していることがわかり，私は，浮き浮きと，楽しく，また気軽にいられたからである。私の言う こと，することは，すべて彼を慰めるか元気づけるかするらしかった。 なんといら喜ばしい意識！それは私の心に生命の光をもたらした。彼と いう存在のなかにこそ，私は生き，私の中にこそ彼は生きるのだ。目は見えなかったが，彼の顔には微笑みが浮び，歓喜は額に輝いた。彼の顔 の表情は和らげられ，赤味が差してきた。

読者よ，私たちは結婚 ${ }^{(1)}$ した。私たちは，ひっそりと式を挙げた。出席したのは彼と私，牧師と書記と，それだけであった。夫は私の命であ り，私は彼の目であり，手であった。二年後，夫は一人で歩けるくらい に視力が回復し，彼と同じ輝く黒い目を受け継いでいる男の子を見るこ とができたのだ。メアリとダイアナたちも幸せな結婚をし，ジョンは今 も一人でインドの過酷な地で人々のために働いている。ジョンはまだ結婚していない。もら結婚することはないだろう。これまで彼は単身苦難 に耐えてきた。そして，その苦難は終わろうとしている。彼の輝かしい太陽は，いま，あわただしく沈もらとしているのである。彼から受け取 った最近の手紙は，わたしの目に人間としての涙を流させたが，しかし私の胸を聖なる喜びで満たした。私は彼の，確かな報い，不滅の栄冠を期待している。死の恐怖がジョンの最後の一刻を暗くすることはないだ

ろう。彼の精神は曇ることがなく，彼の心は脅かされることがないだろ う。彼の希望は最後まで不変であり，彼の信念は，摇るぐことがないで あろう。彼自身の言葉が，これを誓っている。「アーメン，主イエスよ，来たりたまえ！」

## Chapter 1

## 注（1）：三人の従兄妹が幸せそうに母親を取り囲んでいる。

I never liked long walks，especially in winter．I used to hate coming home when it was almost dark，with ice cold fingers and toes，feeling miserable because Bessie，the nursemaid，was always scolding me．All the time I knew I was different from my cousins，Eliza，John and Georgiana．They were taller and stronger than me，and they were loved．These three usually spent their time crying and quarrelling，but today they were sitting quietly around their mother in the sitting－room．I wanted to join the family circle，but Mrs．Reed，my aunt，refused．

特别是在冬天，我从不喜欢走长时间的路。平时我怕天黑以后回家，手脚冰凉，女仆贝茜总是训斥我，使我感到很烦。我意识到我和我的那些表兄妹伊莉莎，约翰和乔治娜不同。他们不仅比我高大，强壮，而且还受宠。这三个表兄妹常常吵闹不休，但今天却围着他们的妈妈静静地坐在起居室里。我也想参加他们的谈话，可是舅妈里德太太却不肯。

## 注（2）：カーテンの陰で本を読んでいた。

I crept out of the sitting－room and into the small room next door，where I chose a book full of pictures from the bookcase．I climbed on to the window－seat and drew the curtains，so that I was completely hidden．I sat there for a while．Sometimes I looked out of the window at the grey November afternoon，and saw the rain pouring down on the leafless garden． But most of the time I studied the book and stared，fascinated，at the pictures．

Lost in the world of imagination，I forgot my sad，lonely existence for a while， and was happy．I was only afraid that my secret hiding－place might be discovered．
＇You have no right to take our books＇John continued．＇You have no money and your father left you none．You ought to beg in the streets，not live here in comfort with a gentleman＇s family．Anyway，all these books are mine， and so is the whole house，or will be in a few years＇time．I＇ll teach you not to borrow my books again．＇He lifted the heavy book and threw it hard at me．It hit me and I fell，cutting my head on the door．I was in great pain，and suddenly for the first time in my life，I forgot my fear of John Reed．He rushed to attack me，but now he was fighting with a desperate girl．I really saw him as a wicked murderer．I felt the blood running down my face，and the pain gave me strength．I fought back as hard as I could．My resistance surprised him，and he shouted for help．His sisters ran for Mrs．Reed，who called her maid，Miss．Bessie．They pulled us apart and I heard them say， ＇What a wicked girl！She attacked Master John！＇

我悄悄从起居室走出来，在隔壁的小房间的书架上拿了一本画本。我爬上窗台，拉好窗帘，躲藏了起来。我坐在窗台，有时看看书，有时望望窗外。11月的天气阴暗，大雨倾泻在秃枝枯叶的花园里。不过大部分时间，我还是认真看书，经常被书中的画面所吸引。我经常沉浸在幻想的世界里，感到快活，忘却了孤单和伤心事。唯一让我担心的事，就是这个秘密藏身之地随时可能会被发现。
＂你没有权利看我的书。＂他接着说：＂你身无分文，你爸爸没留下一分钱遗产。你该上街讨饭，不应该住在一个绅士家里过舒服的日子。不管怎样，这些书都是我的，还有过不了几年这幢房子也归我。我要教训你，以后别再动我的书。＂他举起重重的书，恶狠狠地打我身上。我被打倒在地，头碰在门上被磕破了。我感到疼痛难忍，平生第一次突然忘记了我对约翰的恐惧。他冲过来打我，不过他现在的对手是一个已经绝望的女孩儿。他是个地地道道的坏蛋，疼痛给我力量，热血沸腾，我使出全身的力气与他殊死搏斗。因为我的出手太重了，结果吓他一跳，他拼命喊救命。这时他的妹妹，还有里德太太和仆人贝茜也赶来。他们硬把我们拉开，边走边训

我说：＂臭个头！竟敢打自己的主人！＂

## 注（3）：いつも仲間はずれで育ったのである。

Now that I was alone I thought bitterly of the people I lived with．John Reed，his sisters，his mother，the servants，they all accused me，scolded me， hated me．Why could I never pierce them？Eliza was selfish，but was respected．Georgiana had a bad temper，but she was popular with everybody because she was beautiful．John was rude，cruel and violent，but nobody punished him．I tried to make no mistakes，but they called me naughty every moment of the day．Now that I had turned against John to protect myself， everybody blamed me．And so I spent that whole long afternoon in the red room asking myself why I had to suffer and why life was so unfair．Perhaps I would run away，or starve myself to death．

Christmas passed by，with no presents or new clothes for me．Every evening I watched Eliza and Georgiana putting on their new dresses and going out to parties．Sometimes Bessie would come up to me in my lonely bedroom， bringing a piece of cake，sometimes she would tell me a story，and sometimes she would kiss me goodnight．When she was kind to me I thought she was the best person in the world，but she did not always have time for me．

我想起，和我生活在一起的这些人，感到孤单，内心痛苦。约翰和他的妹妹们，他的母亲和仆人贝茜，他们所有人都指责我，训斥我，恨我。我为什么总是惹他们生气呢？伊丽莎白自私，却能得到大家的尊重。乔治娜脾气暴躁，但因为长得漂亮却深得人心。约翰粗鲁，残忍和凶暴，却没人能惩罚他。我处处小心谨慎，害怕冒犯他们，但他们还是不放过我，说我捣乱。现在为了自卫向约翰反抗，更是成了众矢之的。整整一个漫长的下午，我都待在红房子里问自己，我为什么非得受这种罪，命运为什么如此不公平。也许我应该逃出这个家，哪怕是路上饿死。

圣诞节过去了，可我没有受到礼物，也没有新衣服。每天晚上，我都眼巴巴地看着伊丽莎白和乔治娜换上新裙子去参加舞会。贝茜有时到我卧室来，带一块蛋糕给我吃，有时讲给我故事听，有时过来吻吻我的额头，

和我道晩安。此时我觉得她是这个世界上最好的人，但是她也很少有时间来陪我。

## 注（4）：テンプル先生が出迎えてくれた。

Tired and confused after the journey，I followed the servant into a large building，where she left me in a sitting－room．In came a tall lady，with dark hair and eyes，and a large，pale forehead．I discovered that she was Miss． Temple，the headmistress of Lowood school．She looked at me carefully．I was taken by a teacher，Miss Miller，through the silent corridors of the large school，to the long，wide schoolroom．Miss Temple is full of goodness．She gently tells me of my mistakes，and praises me if I do well．But even with her help I don＇t concentrate properly in class，I just dream away the time，and then I can＇t answer the teacher＇s questions．

由于旅途劳累，迷迷糊糊的随着仆人走进一幢大房子，她让我等在接待室里。一位个子高高的女士走了进来，她黑头发黑眼睛，前额比较宽，苍白。我得知她就是丹伯尔小姐，是洛伍德学校的学监，她仔细地端详着我。我被一位叫米勒的小姐领着，穿过这座大学校的寂静的走廊，来到又长又宽敞的教室。丹伯尔小姐待我很好，她很友善地指出我的缺点；如果我做对了，她会表扬我。但是即便是她在帮我，可是上课时我不能集中精力听课，总是在做梦。所以，始终回答不好老师提问。

## Chapter 2

## 注（1）：八十人の生徒を苦しめた。

There about eighty girls，aged from nine to twenty，sat doing their homework．I sat on a bench near the door，with my slate．Life at Lowood no longer seemed so hard，as spring approached．We enjoyed walking and playing in the surrounding countryside．But，with fog lying constantly in the valley，it was not a healthy place for a school，and by May more than half the
girls seriously ill with typhus fever．As a result of poor food and bad living conditions，many girls died．

那里有 80 多个女孩儿，年龄从 9 岁至 20 岁不等，正坐在那儿写作业。我拿着写字用石板，坐在靠近门口的一张长登上。春天来临，生活不再那么艰难了，我喜欢到周围散步。但是山谷中常常迷雾不散，这对学生的健康来说不太好。到了 5 月，有大半女孩儿得了猩红热。由于饮食差，生活条件恶劣，不少女孩儿都死了。

## 注（2）：慣れない規則や生活習慣にとまどった。

In the morning the ringing of a bell woke me，although it was still dark．I got dressed quickly in the bitter cold of the room，and washed when I could． There was only one basin for six girls．When the bell rang again，we all went downstairs，two by two，and silently entered the cold，badly lit schoolroom for prayers．As the bell rang a third time to indicate the beginning of lessons， the girls moved into four groups around four tables，and the teachers came into the room to start the Bible class．After lessons we had a small cup of coffee and half a piece of brown bread，then half an hour＇s play，then homework．Finally，after the evening biscuit and drink of water，we said prayers and went to bed．That was my first day at Lowood．

凌晨，尽管外面的天还没亮，铃声把我叫醒了。屋里很冷，我赶紧穿好衣服，然后洗漱。6 个女孩儿只有一只脸盆。铃声再次响起时，两人一对走下楼梯，走进寒冷又阴暗的教室祷告。第三次铃响，女孩们分成四组，分别围着四张桌子坐，老师走进来开始读《圣经》。下课后喝了一杯咖啡，吃了半片面包，然后玩半小时，再做作业。终于，到了晚上吃过饼干，喝过水以后，祈祷，上床。这就是我在洛伍德第一天。

## 注（3）：病に冒されなかった私は自由に遊んだ。

While there was fear and inside the school，the sun shone on the flowers
outside．And the flowing streams in the valleys．So I and the few who had escaped illness enjoyed the beautiful summer weather，with no lessons or discipline at all．Helen could not come walking with me，because she was ill， not with typhus but with tuberculosis．At first I had thought she would recover，but when I learned her illness was serious，I decided to visit her at night，for what might be the last time．I found her lying in bed，looking pale and weak．

学校里曼延恐惧和死亡，而外面却是阳光灿烂，照耀着长满花朵的溪谷。我和另外几个孩子却尽情亨受着阳光和美景，没人管我们，所以也不用上课。海伦不能和我一起散步，因为她得的不是猖红热，而是肺结核。我原以为她会很快康复，但是后来听说她病的很严重，便决定晚上去看她。我发现她躺在床上，脸色苍白，身体虚弱。

## Chapter 3

## 注（1）：私の隣でヘレンは死んだ。

It＇s true she has been unkind to you，because she dislikes your faults． But life is too short to continue hating anyone for a long time．We all have faults，but the time will come soon when we die，when our wickedness will pass away with our bodies，leaving only the pure flame of the spirit．That＇s why I never think of revenge，I never consider life unfair．I live in calm， looking forward to the end．From that moment，I felt I was accepted，and set to work to learn as I could，and make as many friends as possible．

她的确对你不好，因为她不喜欢你的缺点。但是生命短暂，没时间恨一个人那么久。我们都有错误，但我们不久就会死去，我们的邪恶也会追随我们的躯体一起消失，只留下灵魂和激情。这就是为何我从来都不想报复，从不认为生活不公平的缘故。我平静地看待生活，直至生命的终结。自从那一刻起，我接受了她的观点，开始努力学习，广交朋友。

## 注（2）：決まりきった生活に飽き，自由になりたいと思う。

Gradually the typhus fever left Lowood，but the number of deaths made the public aware of the poor conditions in which the pupils lived．Money was raised to build a new school in a better position，many improvements were made，and Mr．Brocklehurst lost his position as manager．So it became a really useful place of education．I stayed for eight years，for the last two as a teacher．I was busy and happy all that time，relying greatly on the help and encouragement of my dear friend Miss Temple．But when she married and moved to a distant part of the country，I decided it was the moment for me to change my life too．I realized I had never known any other world apart from Lowood or Gateshead．Suddenly I wanted freedom or at least a new master to serve．So I advertised in a newspaper for a job as a governess．

在洛伍德，猩红热渐渐消失了。但是因为死亡人数太多而引起了有关部门的注意。人们开始筹资建立新学校，并选好地址，同时改善了设备。布鲁克赫斯特先生辞职，学校变成了名副其实的教育基地。我在洛伍德共待了八年，最后两年是教书。一年到头我一直忙忙碌碌，兴高采烈。很大程度上讲，都是我的知心朋友丹伯尔小姐帮助鼓励的结果。但是，不久她结婚了，嫁到了一个偏远的地方。这使我意识到我也应该改变自己的人生了。我终于发现自己除了洛伍德和盖茨赫德以外，竟然一无所知。突然，我想得到自由，去找新主人伺候。于是，我在报纸上登了广告，应聘家庭教师。

## 注（3）：フェアファックス夫人の温かい出迎えを受けた。

Thornfield Hall was a large gentleman＇s house in the country，near a town called Millcote．There，after my sixteen－hour journey，I was welcomed by Mrs．Fairfax．She was a little old lady，dressed in black，who seemed glad to have someone else to talk to，apart from the servants．Although the house was dark and frightening，with its big rooms full of heavy furniture，I was excited at being in a new place，and looked forward to my new life there， working for kind Mrs．Fairfax．

特恩费得府是在米儿考特小镇附近的，一间乡间大别墅。经过 16 个小时的路程才赶到，我受到费尔法斯太太的热情接待。她是一位个小的老太太，身穿黑色衣服，很喜欢仆人以及找个人聊天。房子阴暗，摆满古色古香的家具，令人害怕。尽管如此，我还是为来到新地方而感到好奇，期待新生活带来快乐，也想为善良的费尔法斯太太多做一些事。

## 注（4）：巻き毛のアデールを紹介された。

My pupil was a girl called Adele，seven or eight years old．She was born in French and could hardly speak English．Luckily I had learnt French very well at Lowood，and had no difficulty in communicating with young Adele，a pretty，cheerful child．

我的学生叫阿黛拉，有七八岁的样子，她出生在法国，几乎不会讲英语。幸好我在洛伍德学过法语，学得还不错，所以毫不费力地和这个漂亮，开朗的孩子沟通。

## 注（5）：グレイスという召使の声だと説明を受ける。

I could get no further information from Mrs．Fairfax about Mr．Rochester， but instead she offered to show me round the whole house．We went through many large，impressive rooms，finally reaching the top floor，where there was a narrow corridor with several small black doors，all shut，I stopped to look at them，and thought for a moment they looked like prison doors，hiding evil secrets．No sooner had I turned away to go downstairs than I heard a strange， ghostly laugh．

Several times in the next few months I went up to the top floor again， where I could look out of the high windows in the roof to see the surrounding countryside and be alone with my thoughts．I was very happy teaching pretty little Adele in the daytime，and talking to kind old Mrs．Fairfax in the evening， but I felt that something was missing from my life．I had dreams of a greater and better life，and above all，I wanted to do more，People are not always
satisfied with a quiet life，and women as well as men need action．While on the top floor I often heard Grace Poole＇s strange laugh，and sometimes I saw her too．She used to go silently in and out of the room with a plate of food or a glass of beer．

从费尔法斯太太那里不可能再打听到罗切斯特先生的事，不过她主动提出带我参观整个庄园。我们走过许多令人不可思议的大房间，最后来到顶层。那里有狭窄的走廊，几扇小黑门都紧闭着。我停下来看，觉得有点像监狱的门，后面隐藏着可怕的罪恶。我刚转身下楼，就听到了怪里怪气的幽灵般的笑声。

之后的几个月里，我又多次到过顶层。我从房顶的窗户眺望周围的乡村，独自沉浸在遐想。我白天教漂亮的阿黛拉，晚上和费尔法斯太太聊天，很快活，但是我总觉得生活中缺少点什么。我梦想着更不平凡的生活，而更重要的是，我想做更多的事情。人们不会总是满足平静的生活，无论男女都需要一些刺激。在顶层时，我经常会听到格蕾丝的怪笑声，有时也能看到她。她经常端着一盘食物或者一杯啤酒，小心地进出房间。

## Chapter 4

## 注（1）：旅人が氷に足を取られ，馬ごと倒れているのを助けた。

It was a bright，frosty day，and I was enjoying the fresh air and the exercise．Stopping on the lonely road，I watched the sun go down in the trees behind Thornfield，and then in the silence I heard a horse approaching． Suddenly there was a crash as the horse slipped and fell on the ice，bringing down its rider．I ran to see if I could help the traveler，who was swearing furiously as he pulled himself free of his horse．

那是一个晴朗，但有些雾气的一天，我喜欢新鲜空气和户外活动。我在孤寂的小路上停下脚步，凝视着树枝间落日的情景，然后在一片寂静中，我听到渐渐走近的马蹄声。突然一声巨响，我发现人仰马翻在冰面上。我急忙跑过去，看看是否能帮上忙。那个人正在一边骂人，一边从马鞍上挣

脱出来。

## 注（2）：不細工で気むずかしげな顔があった。

One evening，a few days later，I was invited to talk to Mr．Rochester after dinner．He called me closer to the fire．Tonight he did not look so stern， and there was softness in his fine，dark eyes．As I was looking at him，he suddenly turned and caught my look．＇Do you think I＇m handsome？＇he asked． Normally I would have taken time to think，and said something polite，but somehow I answered at once，＇No，sir，＇He seemed to read my mind，and said quickly，＇Yes，you＇re right．I have plenty of faults．I went the wrong way when I was twenty－one，and have never found right path again．I might have been very different．I might have been as good as you，and perhaps wiser．I am not a bad man，take my word for it，but I have done wrong．It wasn＇t my character，but circumstances which were to blame．Why do I tell you all this？ Because you＇re the sort of person people tell their problems and secrets to， because you＇re sympathetic and give them hope．＇

几天后的一个晚上，晚饭后，我被邀请到罗切斯特先生那里谈话。罗切斯特先生劝我再靠近暖炉，今晚看上去他没有那么严肃，他的漂亮的黑眼睛里流露着一丝温柔。我正在看着他时，他突然转过身来，注视着我的目光说：＂小姐，你觉得我英俊吗？＂一般来说，遇到类似情况我会出于礼貌，稍微想一下再回答，可是这次我毫不犹豫地回答他说：＂不，先生＂他似乎了解我的心思，马上就说：＂是的，你是对的，我有很多缺点。我在 21 岁时走错了路，就再也没有找到正确的路了。我可能曾经也和你一样好，可能更聪明。我不是坏人，我敢保证，但我做错了事。这不是我的本意，而是当时的环境逼我这么做的。为什么我要告诉你这些？因为你是那种不怕倾听别人的诉苦的人，你有同情心，你会安慰人。＂

## 注（3）：よく話し相手に呼ばれた。

Soon I discovered what Mr．Rochester meant when he said he had done
wrong．One afternoon，while walking in the gardens of Thornfield，he told me the story of his love－affair in Paris with a French dancer，Celine．

Yes，I was young and foolish then．I was so in love with her that I rented a house and hired servants for her．I gave her a carriage and jeweled，in fact I threw away a fortune on her，just like any fool in love．One evening I visited her but found she was out，so I waited on her balcony，smoking a cigar．I heard her carriage arriving．Imagine my horror at seeing her step out followed by a man！You＇re so young．You＇ve never felt love or jealousy，Miss Eyre？ You are floating along a quiet river now，you don＇t see the water boiling at the foot of the great rocks，but one day you＇ll come to a point in life＇s stream where the wild force of the waves may destroy you，where the noisy rushing water may drown you！I am calm enough to like living here at Thornfield．I like it because it＇s old，and grey，and dark，and yet I hate＇He did not finish what he was saying，staring angrily up at the windows on the top floor of his house．It was a look of disgust，pain and shame．I could not understand what he meant，and wanted to hear more about Celine，so I encouraged him to finish the story．

So I walked into the room，told her our relationship was over，and challenged her lover to fight me．Next day I shot him in the arm during our fight，thought that was the end of the whole thing，and left France．But a few months later，Celine had a baby girl，Adele，and she claimed that Adele was my child．She may be，although I doubt it．So when，a few years later，Celine abandoned Adele and ran away to Italy with a singer，I went to Paris and brought Adele back to grow up in England．

不久，我听到了罗切斯特先生所说的，他曾做过的所谓失误。有一天下午，我在花园里散步，他向我讲述了他的风流故事。她叫赛琳娜，是一位法国的舞女。

他接着说：＂是的，我那时年轻不懂事。非常爱她，甚至为她租了房子，雇了佣人。我给她买了马车和珠宝，在她身上挥霍了很多钱，就像任何陷入爱情的優瓜一样。有一天晚上，我去看她，她外出，于是我就在阳台上一边吃巧克力，一边抽雪茄等她。后来听见马车到了门口，我看到她走下

马车，后面竟然跟着一个男人，你能想象我的感受吗？你太年轻，还没感受过爱情或妒忌心，爱小姐？你现在正像平静的小河，无忧无虑地漂流而下，看不到岩石脚下湍急的水流，但是总有一天，你会在生活的长河中感到可以毁灭自己的巨浪，咆哮的激流可能把你淹没！现在我已经平静了，正因为如此，我才喜欢住在特恩费得。我喜欢它陈旧，晦涩，黑暗，但是我恨＂他没有说完，只是愤怒地瞪着眼看最顶层的窗户。他的目光中似乎饱含着厌恶，痛苦和耻辱。我看不懂他的表情意味着什么，我只是想多听听赛琳娜的故事，于是催他把故事讲完。

我知道我已不爱她，于是便走进她的屋里，告诉她我们的关系已经结束，并向她的情人要求决斗。第二天，在决斗中打伤了他的胳膊。我以为事情已经了结，便离开了巴黎。但是没过几个月，赛琳娜生下一个女孩叫阿黛拉，并声称她是我的孩子。或许是吧，但我还是怀疑。几年后，赛琳娜抛弃了阿黛拉，跟一个歌手跑到意大利去了，我只好去巴黎，并把阿黛拉带回英国抚养。

## 注（4）：同じ部屋にいることは，暖かい火より喜ばしいことだ。

I felt proud that Mr．Rochester had trusted me with the story of his past life．I thought a lot about his character，and although I was aware of his faults， I also saw his goodness and kindness to me．From now on，my happiest moments were spent with him．I could not have imagined a better companion．

罗切斯特能把自己过去的生活讲给我听，这使我感到非常骄傲。我常常玩磨他的性格，尽管我意识到他的缺点，但是我知道他带我很好，很和善。从此，我最快活的时光就是和他在一起的时候。我几乎想象不出，有谁比他更好。

## 注（5）：恐ろしさに戸を開けると，煙が立ちこめていた。

One night I was woken by a slight noise．I felt sure someone was outside my bedroom door．My curiosity made me open the door，and I found the corridor full of smoke．I saw it was coming from Mr．Rochester＇s door，which
was slightly open．I completely forgot my fears and rushed into his room．He lay fast asleep，surrounded by flames and smoke．Even his sheets were on fire． ＇Why，you＇ve saved my life．I hate being in debt to anyone，but with you it＇s different，Jane．I＇m happy to owe you my life．＇His voice was trembling as he took both my hands in his．

I was amazed by his self－control，and could not understand why Mr． Rochester had not asked the police to arrest her，or at least dismissed her from his service．Why had he asked me to keep the attack a secret？Did she know a terrible secret from his past，which she had threatened to tell？Could he ever have been in love with her？

有一天夜里，我被吵醒。可以肯定，有人在我的卧室前。好奇心驱使我打开了门，我看到走廊里都是烟。烟是从罗切斯特先生的房间里冒出来的。我全然不顾冲进他的房间。他睡得正香，还不知道被烟火包围着，床单已经着了火。他说：＂你为什么救我？我讨厌欠别人的情，不过你不一样，我很高兴欠你的情。＂他的声音有些颤抖，并把我的手握在他手里。

他的自我克制能力让我吃惊，我纳闷罗切斯特先生为何不叫警察抓她或者解雇她。为何让我保守秘密？她或许知道他什么可怕的秘密，想要挟他？他或许曾经爱过她？

## 注（6）：私も手伝いに駆り出された。

Two disappointing weeks passed before we heard from Mr．Rochester again．During this time I tried hard to forget my feeling for him．I reminded myself that he paid me to teach Adele，nothing more，and that no other relationship could exist between us．When his letter finally came，Mrs． Fairfax announced with great excitement that he was planning a house－party at Thornfield．He was going to return in three days time，and had invited a large number of ladies and gentlemen to stay for several days．We all worked extremely hard in the next few days，cleaning all the rooms and preparing the food．

令人失望的两个星期过去了，我们终于听到了罗切斯特先生的消息。这两周期间，我努力忘掉自己对罗切斯特先生的感情。我时刻提醒自己，他付钱给我是为了让我教好阿黛拉，除此之外，我们之间不可能有其他的关系。有一天接到他的信时，费尔法斯太太非常兴奋，她宣布罗切斯特先生打算在特恩非得举办盛大的家庭晩会。过了三天他回到了家，邀请了很多女士和先生们在这里小住几日。以后的几天里，大家都忙着打扫房间，准备食物，我们大家都非常卖力。

## Chapter 5

## 注（1）：婦人たちの中でイングラム嬢はひときわ美しかった。

She was eighteen then，a lovely girl，with beautiful skin，long curling black hair，and fine black eyes which shone as brightly as her jewels．She looked like a queen．All the gentlemen admired her，not only for her beauty but also for her musical skills．When she and Mr．Rochester sang together，it was a delight to hear．

她当时 18 岁，长得很可爱，皮肤白嫩，长长的卷发，美丽的黑眼睛像她的珠宝一样闪闪发光。她就像是个皇后，吸引所有绅士的目光。当然，这不仅仅是因为她长得美，还因为她有出色的音乐才华。她和罗切斯特先生一起唱歌时，的确悦耳动听。

## 注（2）：寝ている夫人をみた私は，すべてを許そうと思った。

When I was a child at Gateshead，Bessie the nursemaid used to say that to dream of children was a sure sign of trouble to come．For a whole week now I had dreamed of a small child every night，and perhaps Bessie was right， as a message came from Gateshead．It appeared that my cousin John Reed， who had spent and wasted all his money and some of his mother＇s，and been in debt or in prison most of his life，had killed himself a week before．

And then Mrs．Reed，whose health had been badly affected by worrying
about her son，had suddenly fallen ill when she heard of his death．Although she could hardly speak，she had recently managed to express a wish to see me． And so my cousins Eliza and Georgiana had sent their coachman，to bring me back to Gateshead．

小时候，我还在盖茨赫德的时候，女仆贝茜曾对我说，如果梦中看到小孩，那一定会有灾难降临。这一个星期以来，我每天晚上都会梦见一个小孩儿。也许贝茜说得对，没过多久，盖茨赫德让人捎信来说，我的表哥约翰挥霍了全部财产，包括他母亲的一部分财产。

现在他已经债台高筑，大部分时间都在蹲牢房。但是一周前，他突然自杀了。里德太太听到消息，一病不起，卧床在家。最近她虽然难以启齿，但是还是想见我一面。于是，我的表姐伊丽莎白和乔治娜派车夫来接我回去。

## 注（3）：そのまま昏睡状態に陥った。

Her illness got worse in the next few days．I spent sometime every day looking after her，and the rest of the time with my cousins，listening to their plans for the future．Eliza was planning to join a religious community after her mother＇s death，but Georgiana was hoping to stay in London with relations，to see the new fashions and go to all the parties．It was quite clear that they had no real feeling for their mother，and were almost looking forward to her death．

One dark，stormy night I visited the dying women．She lay there asleep in her room，neglected by her daughters and servants．As I looked out of the window into the black emptiness，I wondered about the great mystery of death， and thought of Helen，who was so sure her spirit would go to heaven．Would my aunt＇s spirit go there too？
＇Forget it all and kiss me now，aunt，＇but it was too late for her to break the habit of dislike，and she turned away from me．Poor woman！She died soon afterwards，keeping her hatred of me alive in her heart，and no one at Gateshead cried for her．

以后的几天里，舅妈的病情恶化了。我每天花一些时间去照顾她，剩下的时间和表姐妹们在一起，听听她们讲未来的计划。伊丽莎白打算在她母亲去世后参加一个宗教团体，而乔治娜希望到伦敦和她的亲戚们住在一起，去看时装表演，参加所有的晚会。很显然，她们和母亲没什么感情，几乎盼着她早点去世。

在风雨交加的一个夜晚，我和往常一样去看望被死神缠着的男妈。她正在睡，两个女儿和仆人们没人理会她。我望着窗外无尽的黑夜，思量着死亡之迷。我首先想到了海伦，她是那么肯定自己死后会进入天堂。我舅妈的灵魂是否也能进入天堂呢？
＂舅妈，忘了这一切吧，请吻我一下。＂然而，现在让她放弃过去已为时过晚，她扭过头去不肯理我。可怜的女人！她不久就要死了，心中却还是留着对我的仇恨。盖茨赫德没有一个人为她流泪。

## Chapter 6

## 注（1）：新しい勤め口を探さなくてはならない。

＇Then you are going to be married，sir？＇＇Exactly，Jane and as you have pointed out，when I take the lovely Miss Ingram as my bride，you and Adele must leave the house，so I＇m looking for a new job for you．＇
＂正像你所说的，当我娶了可爱的英格姆小姐为妻子时，你和阿黛拉就要离开我家，所以我正在给你找工作。＂

## 注（2）：恐怖と苦痛に胸が引き裂かれる思い。

＇I＇m sorry to caused you trouble．I wish I＇d never been born！I wish I＇d never come to Thornfield！＇I cried．No longer able to control my feelings，I poured out what was in my heart．＇I can＇t bear to leave！Because here I＇ve been treat kindly．And because I＇ve met you，Mr．Rochester，and I can＇t bear never to see you again．Now I have to leave，I feel as if I＇m dying！＇＇Why do you have to leave？＇he asked innocently．＇Because you＇re marrying Miss

Ingram，she＇s your bride！＇I cried furiously．＇Do you think I can watch another woman become your bride？Do you think I＇m a machine，without feelings？Do you think，because I＇m small and poor and plain，that I have no soul and no heart？Well，you＇re wrong！I have as much soul and heart as you．It is my spirit that speaks to your spirit！We are equal in the sight of God！＇
＂对不起，我给您添麻烦了。我希望我根本就没来过人世！也希望不曾来过特恩费得！＂我再也忍不住自己的感情，一口气倾诉了我的心声。＂我无法离开这里，因为在这里我受到善待。在这里我遇到了你，我不能忍受离开你的煎熬。现在你让我离开你，还不如让我去死！＂＂为什么你要离开这里呢？＂他茫然地问我。＂因为你要娶英格姆小姐，她是你的新娘！＂我愤怒地叫起来。＂你以为我能忍受别的女人成为你的新娘吗？你以为我像机器一样没有感情吗？你以为我弱小，贫穷，不出色就没有心，没有灵魂吗？那么，你错了！我和你一样有心灵。现在我的灵魂在对你的灵魂讲话！我们在上帝面前是平等的。＂

## 注（3）：私が結婚しようと思っているのは，あなたですよ。

＇Jane＇he said，＇I ask you to be my wife．You are my equal，Jane．Will you marry me？Don＇t you believe me？I＇ll convince you！Listen．I don＇t love Miss Ingram and she doesn＇t love me．She only liked me for my wealth，and when I，disguised as the gipsy woman，told her that I had only a little money， she and her mother lost interest in me．You strange magical spirit，I love you！ Small and poor and plain，I ask you to marry me！＇
＂简，我请求你做我的妻子。我们是平等的，你嫁给我！你不相信我吗？我会说服你的。听着，我不爱英格姆小姐，她也不爱我。她图的是我的财产，当我装扮成吉普赛女人告诉她我没有多少财产时，她和她母亲表示很失望。你这带着魔力的神奇的小精灵，我爱你！虽然你弱不禁风，贫穷，无能，但是，我请求你嫁给我！＂

## Chapter 7

## 注（1）：別離の悪夢から結婚の楽園へ，心を奪われていった。

I was a little nervous before seeing Mr．Rochester next morning．Was I ready going to marry him，or was it all a dream？But I soon felt calmer when he came to meet me and kissed me．

第二天早上，我有些害怕见到罗切斯特先生。我是真的要和他结婚了，还是做了一场梦而已？但是，他来看我，吻我的时候，我的心情很快平静下来。

## 注（2）：夫人は「年も身分も違いすぎる」と冷たく言った。

I would never have thought it！Mrs．Fairfax is repeating．＇Mr．Rochester is so proud and such a gentleman，to marry his governess！＇She examined me closely，as if discover the reason for this strange event，and shook her head， still puzzled．＇He＇s twenty older than you！He could be your father！＇＇No indeed，Mrs．Fairfax．＇I replied crossly．＇He looks much younger than that！＇

Although I was upset by the old lady＇s words，I followed her advice，and in the weeks before the wedding I went on teaching Adele as usual．Only in the evenings did I spend sometime with Mr．Rochester，and I was careful not to allow him to hold me in his arms or kiss me．Sometimes he angry with me and called me a＇hard little thing＇or＇a cruel spirit，＇but I preferred that to being called＇my darling．＇I saw that Mrs．Fairfax approved of my correct behavior，and I knew that he respected me for it．But it was not easy for me．I would rather have shown him my love．My future husband was becoming my whole world，and more than that，my hope of heaven．

我实在是没想到！费尔法斯太太反复重复着说，＂罗切斯特先生，这么骄傲的一位绅士！要娶他的家庭教师！＂她仔细大量着我，似乎从我脸上找出点什么线索。她奇怪地摇着头，还是没搞懂的样子。＂他比你年长 20 岁，

足够可以当你父亲了！＂我不悦地回答道：＂不，费尔法斯太太。他看上去比实际年龄年轻得多。＂

尽管老太太的话让我不高兴，但我还是听从了她的劝告，在举行婚礼前的几个星期还是照常给阿黛拉上课。只有到了晚上我才和罗切斯特先生带上一会儿，并小心翼翼地不让他搂抱或者吻我。有时他生我的气，叫我 ＂顽固的小东西＂或者叫＂残酷的小精灵＂，但我更愿意他这么叫我，不愿听他叫我什么＂亲爱的＂。我看出费尔法斯太太对我的正确举动比较满意，也知道他也因此而更尊重我。但是这对我来说并非易事，我宁愿毫无保留地表达我的爱。我未来的丈夫已经成为我的全部，还不止于此，他是我的希望，是我的天堂。

## 注（3）：見知らぬ女がヴェールを引き裂き，踏みにじる。

It looked like a tall woman，with long thick dark hair hanging down．She took up the beautiful veil put it on her own head，and turned to admire herself in the mirror．It was then that I saw her wild，inhuman face！She removed the veil，tore it in two and threw it on the floor．

她看上去是个高个子女人，浓浓的长发披肩，她拿起罗切斯特先生给我买的漂亮的面纱，盖在自己的头上，然后没完没了地照镜子。就在这时我看出她那张狂妄的脸，不像普通人长的脸！她从脸上取下面纱，然后撕成两半，并扔到地板上。

## 注（4）：今夜はアデールの部屋で寝るよう約束させられた。

One day I＇ll explain to you why I keep her in my house．But tonight，go and sleep in Adele＇s room．You＇ll be quite safe there．Just dream about our future！

总有一天，我会向你解释为何把她留在我家的。不过，今晚你最好还是到阿黛拉的房间睡，你会很安全的。为我们的未来，做个好梦吧！

## 注（5）：この男は私の妹と婚姻中です。この結婚は無効です。

＇This wedding cannot continue，because Mr．Rochester is already married．＇I felt as if I had been hit．Mr．Rochester＇s whole face was like colorless marble．Without speaking or smiling，he was holding me tightly round the waist，as if he would never let go．

有人喊：＂这个婚礼不能继续进行，因为罗切斯特已经结过婚了。＂我觉得，我似乎被当头一棒。罗切斯特先生的脸，也顿时变成了白色的大理石。他一言不发，也没有表情，只是紧紧搂住我的腰，好像永远不想放开似的。

## Chapter 8

## 注（1）：野獣のように吠える発狂した女をみた。

I must reveal the truth，I suppose．There will be no wedding today．No doubt God will punish me for this．What this I was tricked into marrying her when I was young，in the West Indies．Madness runs in her family，but they didn＇t tell me that．Now she＇s more of an animal than a woman．I keep her locked away，guarded by my old servant Grace Poole．I invite you all to come to my house to see her，and to judge whether I had the right to ask innocent young girl to marry me．Follow me！

我想，我必须如实相告了。今天取消婚礼了，这无疑是上帝在惩罚我。我曾经是结过婚，我的妻子还活着。我年轻时在西印度群岛，被骗娶了她。她的家族有癫疯病史，但她们隐瞒了我。现在她的病情越来越重，发病时像一头野兽，根本不是什么女人。所以我把她锁了起来，由我的老仆人格蕾丝看守。我请诸位都到我家去看看她，之后再说我有没有资格娶这个无幸的女孩儿。大家请跟我来！

## 注（2）：三日も野原をさまよい，雨の中，ある家の前に崩れこんだ。

I was alone on the open moor，with no money or possessions．Lonely white roads stretched across the great，wide moors as far as the hills．I was glad to see there were no towns here，because I did not want people to question me or pity me．So I walked across moor，until I found a dry place to sleep，in the shelter of a small hill．Luckily it was a warm night，with no rain． The next day was hot and sunny，but I needed food and water，so I could stay on the moor．

Taking one of the white roads，I eventually found a small village．I needed all my courage to knock on some of the doors，asking if there was any paid work I could do．None of the village people could help me，and I felt weak and faint．At the baker＇s I offered to exchange my leather gloves for a small cake，but the baker＇s wife looked at my dirty clothes and said，＇I＇m sorry，but how do I know you haven＇t stolen them？＇All I ate that day was a piece of bread，which I begged from a farmer eating his supper．

It was getting dark again，and I was alone on the moor．In the distance I could see a faint light，and I decided to try to reach it．The wind and rain beat down on me，and I fell down several times，but finally I arrived as a long，low house，standing rather isolated in the middle of the moor．Hiding near the door，I could just see into kitchen through a small un－curtained window． There was an elderly woman，who might be the housekeeper，mending clothes， and young ladies，who seemed to be learning a language with dictionaries．I dropped on to the wet doorstep，worn out and hopeless，prepared to die．There the young ladies＇brother found me，when he returned home a few minutes later，and be insisted，much against the housekeeper＇s wishes，on bringing me into the house．They gave me bread and milk，and asked my name．

我孤零零地站在的旷野上，身无分文，一无所有。白色的小路孤独地穿过草地，延伸到山脚下。我感到很幸运来到了荒无人烟的旷野，因为我不想被别人打扰或被别人同情。于是我穿过沼泽地，来到山脚下避风并找一个能过夜的地方。所幸这是一个温暖的夜晚，也没有下雨。第二天，阳

光灿烂，天气很热，但是我需要食物和水，所以不能继续待在沼泽地。
我沿着白色的小路一直走来，终于找到了一个小村镇。我鼓足勇气，挨家挨户敲门，渴望找到一份工作。但是村里人没人肯帮我，尽管我已经饥寒交迫，但不能向人乞讨。于是找到一家面包店，想拿皮手套换点食物吃，可是面包师的妻子看到我的一身脏衣服却说：＂对不起，我怎么肯定你的手套不是偷来的呢？＂这一天我只吃到了一片面包，这块面包还是趁一个农民正在用餐时勉强讨来的。

天又黑了，我孤身一人准备在沼泽地过夜。此时看到远处有微弱的灯光，于是决定到那里碰碰运气。风雨交加路面滑，我滑到了好几次，但终于来到了这个沼泽地中的孤岛，一间长长的平房。我站在门外，只能从没有挂帘子的小窗户看到厨房。一位上了年纪的妇人，看起来像一位管家，正在补衣服，还有两位年轻的姑娘似乎边查字典边学外语。剭房看上去干净整洁，姑娘们看起来也善良，知书达理的样子，于是我壮胆敲开了门。年长的妇人来开了门，但她误以为我是小偷或乞否，不让我和两位小姐搭话。门被关上了，把我和温暖的小屋断然隔开了。我昏倒在潮湿的门口台阶上，已精疲力竭，看不到希望，只等去死。过了几分钟，她们的哥哥回家并发现了我，他不顾管家的反对，执意把我抬到屋里。他们给了我面包和牛奶，还问我的名字。

## Chapter 9

## 注（1）：三日三晚寝こんでしまうことになった。

For three days and nights I lay in bed，exhausted by my experiences，and hardly conscious of my surroundings．As I was recovering，Hannah，the housekeeper，came to sit with me，and told me all about the family．

由于疲劳过度，三天三夜我一直躺在床上，几乎没有察觉周围所发生的一切。等我渐渐回复后，汉娜管家有时陪我坐坐，并告诉我这一家的事情。

## 注（2）：メアリとダイアナ姉妹が様子を見にきた。

The girls，Diana and Mary Rivers，had to work as governesses，as their father had lost a lot of money in business．St．John，their brother，was the vicar in the nearest village，Morton．They only used this house，called Moor House，in the holidays．

戴安娜和玛丽不得不做家庭教师，因为她们的父亲做生意失败了。她们的哥哥圣约翰，是附近一个村子莫顿的牧师。他们平时不住这儿，只是假期住在这幢自称为摩尔屋的房子里。

## 注（3）：ジェーン・エリオットと名前を変えた。

When I fell strong enough to get dressed and go downstairs，Diana and Mary looked after me very kindly，and made me feel welcome in their pleasant home．Their brother，however，seemed stern and cold．He was between twenty－eight and thirty，fair－haired and extremely handsome．Diana and Mary were curious about my past，but sensitive enough to avoid asking questions which would hurt me．St．John，on the other hand，made determined efforts to discover who I was，but I，just as firmly，refused to explain more than necessary．I told them only that，after attending Lowood school，I became a governess in a wealthy family，where an unfortunate event，not in any way my fault，caused me to run away．

I spent a month at Moor House，in an atmosphere of warm friendship．I learned to love what Diana and marry loved the little old grey house，the wild open moors around it，and the books lonely hills and valleys where we walked for hours．I read the books they read，and we discussed them eagerly．Diana started teaching me German，and I helped Mary to improve her drawing．We three shared the same interests and opinions，and spent the days and evenings very happily together．

在我回复体力自己穿衣服下楼梯时，戴安娜和玛丽经常照顾我，是我

感受到这个家庭的和睦气氛。但是她们的哥哥仍旧严肃和冷漠，他看上去年龄在 28 到 30 岁之间，长得非常英俊。戴安娜和玛丽对我的过去感到好奇，但又不便提及，是怕伤害我。另一方面，圣约翰一直想搞清楚我的来历，而我就是不想告诉他。我只告诉他们，我在洛伍德上过学之后，到一个有钱人家做家庭教师，是一件意外事件迫使我离开，但那绝不是我的过错。

我在摩尔屋的温暖气氛中，不知不觉度过了一个月。我开始发觉，我与戴安娜和玛丽趣味相投。我们喜欢这个灰色的老屋，我们一起散步，到山丘和河谷，一去就是打发几个小时。我读她们读过的书，然后一起讨论。戴安娜开始教我德文，我教玛丽画画。我们三个人兴趣爱好一致，从早到晚过得很开心。

## 注（4）：彫刻のような顔をしたジョン。

However，St．John hardly ever joined in our activities．He was often away from me，visiting the poor and the sick in Morton．His strong sense of duty made him insist on going，even if the weather was very bad．But despite his hard work I thought he lacked true happiness and peace of mind．He often stopped reading or writing to stare into the distance，dreaming perhaps of some ambitious plan．Once I heard him speak at a church service in Morton， and although he was an excellent speaker，there was a certain bitterness and disappointment in his words．He was clearly not satisfied with his present life．

但是，圣约翰很少参加我们的活动。他经常出门，去看望莫顿的穷人和病人。强烈的责任感促使他，即使在天气恶劣的时候也要去走访。然而，尽管他工作十分努力，我还是能看得出他缺少真正的幸福和安宁。他常常读书或写作之余，呆呆地盯着远处，似乎在梦想某种宏伟蓝图。有一次我在莫顿的教堂里感觉到，尽管他的口才是一流的，但是我听得出他话语当中带着某种痛苦和失望。很显然，他不满足于现实生活。

## Chapter 10

## 注（1）：私はモートンで教師となり，二十人の農家の子を教えた。

It will only be a village school．The girls will be poor and uneducated． You＇ll be teaching reading，writing，counting，sewing，that＇s all．There＇ll be no music or languages or painting．I had twenty village girls to teach，some of them with such a strong country accent that I could hardly communicate with them．Only three could read，and none could write，so at the end of my first day I felt quite depressed at the thought of the hard work ahead of me．But I reminded myself that I was fortunate to have any sort of job，and that I would certainly get used to teaching these girls，who，although they were very poor， might be as good and as intelligent as children from the greatest families in England．

这只是一所乡村小学，女孩儿们很穷，没有受过教育。你要同时教阅读，写作，算数和缝㧅。这里没有音乐，语言和绘画课。我给村里的 20个女孩上课，有些女孩儿乡下口音很重，我几乎无法和他们交流。其中只有三个人认字，没有人会写字。第一天下来，就预料到今后工作的艰难程度，所以感到非常沮丧。但是我提醒自己找到工作不容易，我一定教好这些学生，适应她们，她们尽管很穷，但是我相信，她们和来自英格兰其他大家族的孩子一样好，一样聪明。

## 注（2）：牧師と金持ちの娘が恋をし，一人の娘を残して死んだ。

Suddenly St．John said，＇When I arrived I said I wanted to hear the rest of your story．But perhaps it＇s better if I tell the story．I＇m afraid you＇ve heard it before，but listen anyway．Twenty years ago a poor vicar fell in love with a rich man＇s daughter．She also fell in love with him，and married him， against the advice of all her family．Sadly，less than two years later the couples were both dead．I＇ve seen their grave．

Their baby daughter was brought up by an aunt，Mrs．Reed of Gateshead．

But she stayed there ten years，until she went to Lowood，school，where you were yourself．In fact，it seems her life was quite similar to yours．She became a teacher at Lowood，as you did，and then became a governess in the house of a certain Mr．Rochester．But I do know that he offered to marry this young girl，who only discovered during the wedding ceremony that he was in fact already married，to a mad woman．The governess disappeared soon after this，and although investigations have been carried out，and advertisements placed in newspapers，and every effort made to find her，nobody knows where she＇s gone．＇

圣约翰突然说：＂我刚才说过想听听你的另一部分故事，不过也许还是由我来讲更好。也许你以前听说过，但还是再听一次吧！20年前，一个牧师爱上了富家的女儿，女孩儿也爱上了他，和他结了婚，她违背了家庭的意愿。不幸的是，还不到两年他们两都去世了。我曾见到他们的墓。

他们的小女儿由舅妈领养。我不知道孩子跟着里德太太是否幸福，但她在那儿住了十年，直到去洛伍德上学，你也在那儿带过。实际上，她的生活经历似乎和你很像。然后，她成了一位罗切斯特先生的家庭教师。我不是很了解罗切斯特先生的性格，但是他提出要娶这位年轻姑娘。姑娘是在婚礼上才发现他已经结过婚，妻子是个疯女人。此后不久那家庭教师也失踪了。尽管进行了大量调查，报刊上也登了寻人启事，用尽了一切手段去寻找，还是没人知道她的下落。＂

## 注（3）：叔父が二万ポンドの遺産を遺したのです。

Twenty thousand pounds，the news took my breath away．St．John，who I had never heard laugh before，actually laughed out loud at my shocked face．

两万英镑？这消息让我停止了呼吸。我从未听到过圣约翰先生的笑声，他看到我吃惊的样子时，不禁大笑了起来。

## Chapter 11

## 注（1）：遺産を四等分にすることにいきがいを感じた。

As I looked at him，it seemed I had found a brother and sisters to love and be proud of for the rest of my life．The people who had saved my life were my close relations！This was wealth indeed to a lonely heart，brighter and more life－giving than the heavy responsibility of coins and gold．There were the four of us cousins．Twenty thousand pounds，shared equally，would be five thousand pounds each，more than enough for each one of us．It would be a fair and just arrangement，and we would all be happy．I would no longer have the worry of controlling a large amount of money，and they would never have to work again．We would all be able to spend more time together at Moor House．

Naturally，when I made this suggestion to St．John and his sisters，they protested strongly，and it was with great difficulty that I finally managed to convince them of my firm intention to carry out this plan．In the end they agreed that it was a fair way of sharing the inheritance，and so the legal steps were taken to transfer equal shares to all of us．

我看着他，好像自己找到了一个哥哥和两个姐姐，可以一辈子爱他们，并以他们为荣。原来，救了我的救命恩人竟然是我的近亲！对一颗孤独的心来说，这的确是一笔财富，在我的生命中，金钱只是带来沉重压力，而亲情才真正带来快乐。我们表兄妹四个，均分两万英镑，没人可得五千英镑，每个人都足够用的。这样分配不仅公平合理，我们大家也都会感到满意，我也不必再为掌管这么多的钱而操心，而他们也不必再去工作了。这样，我们可以拥有更多的时间一起生活在摩尔屋了。

我向圣约翰和他的妹妹们提出这个建议时，他们坚决反对。我费了不少口舌才说服他们，最后他们只好同意我的遗产分配方案。于是我们按照法律程序办理遗产，把财产平均分配到每个人的名下。

## Chapter 12

## 注（1）：彼の近況が，私の耳に入ってくることはなかった。

I had not forgotten Mr．Rochester in all these changes of home and fortune．His name was written on my heart，and would stay there as long as I lived．Not only had I written to ask Mr．Briggs more about him，I had also written twice to Mrs．Fairfax．But after I had waited in vain for six months，I lost hope，and felt low indeed．

在家庭与财富变迁的一系列过程中，我始终不能忘记罗切斯特先生。他的名字已写在我的心上，只要我还活着，就永远不会消失。我不仅不停地给布莱格斯先生写信，打听他的消息，还给费尔法斯太太写过两封信。但是空等了半年之久，还是毫无音讯，希望却破灭了，我感到无比沮丧。

## 注（2）：ジョンは私を仕事の伴侶として愛している。

＇God intended you to be a missionary！＇He continued．＇Trust in Him， Jane．Marry me，for the service of God．I＇ve seen how hard you can work， Jane．You will be a great help to me with Indian women，and in Indian schools．＇＇I＇m ready to go with you to India，but as a sister，not as a wife．＇

圣约翰说：＂简，上帝要让你成为一个传教士的妻子。请相信我，为上帝服务。我看到了你是多么努力地工作，你可以为印度妇女，为印度的学校，助我一臂之力。＂于是我回答他说：＂我已做好准备跟你去印度，但仅仅是作为妹妹，而不是作为妻子。＂

## 注（3）：「ジェーン，ジェーン，ジェーン！」と声が聞こえた。

When he asked me again，we were alone in the sitting－room．He put his hand on my head and spoke quietly in his deep，sincere voice．＇Remember， Jane，God calls us to work for him，and will reward us for it．Say you will
marry me，and earn your place in heaven！＇I admired and respected him，and under his touch my mind was changing．＇If I felt certain，＇I answered finally， ＇that God really wanted me to marry you，I would agree！＇Close together we stood，waiting for a sign from heaven．

I was more excited than I had ever been before．There was a total silence in the house，and the room was full of moonlight．Suddenly my heart stopped beating，and I heard a distant voice cry，＇Jane，Jane，Jane！＇nothing more． Where did it come from？It was the voice of Edward Rochester，and it spoke in sadness and in pain．＇I am coming！＇I cried．I broke away from St．John， who had followed，asking me questions．It was my time to give orders now．I told him to leave me，and he obeyed．

他第二次问我的时候，我们单独坐在客厅里。他把手放在我的头上，用深沉而真挚的声音轻声地告诉我：＂简，记住，上帝呼唤我们去为他工作，并将为此奖赏我们。请说，你嫁给我，去争取你在天堂应有的位置。＂我仰慕他，尊重他，在他的触摸下，我的想法开始转变。我最后说：＂如果我确实感受到上帝为我们祝福的话，我会同意的。＂我们紧紧站在一起，等待着来自天堂的声音。

我从未像现在这样激动，屋里一片寂静，月光格外明亮。突然，我的心好像停止了跳动，我只听到一个从遥远的地方呼唤我的声音：＂简！简！简！＂我哭喊着。＂我来了！等等我！＂这是从哪儿来的声音？这分明是罗切斯特先生的声音，这声音听起来多悲戚，多么伤感。我从圣约翰身边挣脱出来，他跟在我后面追问着。现在该轮到我下命令了，我让他从我身边走开，他只好遵从了。

## Chapter 13

## 注（1）：屋敷の前に着くと，手探りで歩く人がみえた。

Ferndean Manor was a large old house in the middle of a wood．It looked dark and lonely，surrounded by trees．As I approached，the narrow front door opened，and out came a figure I could not fail to recognize，Edward Rochester．

I held my breath as I watched，feeling a mixture of happiness and sadness．He looked as strong as before and his hair was still black，but in his face I saw a bitter，desperate look that I had never seen there before．

He walked slowly and hesitatingly along the path．Although he kept looking up eagerly at the sky，it was obvious that he could see nothing．After a while he stopped，and stood quietly there，the rain falling fast on his bent， uncovered head．Finally he found his way painfully back to the house，and closed the door．When I knocked at the door，Mr．Rochester＇s old servant， John，opened it and recognized me．

He kissed me．＇I＇am no better than the great tree hit by lightning at Thornfield＇he said．＇I can＇t expect to have a fresh young plant like you by my side，all my life＇．＇You are still strong，sir，and young plants need the strength and safety of a tree to support them＇．＇Jane，will you marry me，a poor blind man with one hand，twenty years older than you？＇．＇Yes，Sir，＇＇My darling， we＇ll be marry in three days time，Jane．Thank God！You know I never thought much of religion？Well，lately I＇ve begun to understand that God has been punishing me for my pride and my past wickedness．Last Monday night， in a mood of deep depression，I was sitting by an open window，praying for a little peace and happiness in my dark life．In my heart and I wanted you．I cried out＂Jane！＂three times．＇

枫丹庄园是一幢建在树林中的高大的旧房子，看上去很灰暗，孤单，周围绿树环绕。当我走进房子时，狭窄的前门已被打开了，里面走出的正是我一辈子都忘不掉的爱德华•罗切斯特。我屏住呼吸注视着他，心中悲喜交加。他看上去和过去一样强壮，头发依然乌黑，但在他的脸上看到过去从未见过的痛苦，绝望的表情。

他在小路上走得很慢，充满惆怅。尽管他有时抬起头热情地仰望天空，但很显然，他什么也看不见。过了一会儿，他停住脚步，静静地站立着，雨水指打在他低着的，光光的头上。最后他艰难地找到了回家的路，关上了门。当我敲门等候时，罗切斯特先生的老仆人约翰打开门，并很快认出了我。

他吻吻我，＂我跟特恩费得，就像被雷击打倒的大树没什么两样。我不

能指望像你这样一棵稚嫩的小树陪伴我一辈子。＂我回答他，＂先生，你仍然强壮，小树需要大树的庇护来支撑自己。＂＂简，难道你愿意嫁给一个比你年长 20 岁，只有一只手的，可怜的盲人吗？＂＂是的，先生。＂＂亲爱的简，我们三天内就结婚。感谢上帝！你知道我从来都不太相信宗教。不过，最近我觉得上帝在为我骄傲和邪恶的过去惩罚我。上星期一的晚上，我的情绪很糟糕，坐在敞开的窗户边，祈求上帝给我一点安宁和幸福，从黑暗的生活中解放出来。我从内心深处想得到你，于是喊了三声：‘简’！＂

## 注（2）：夫は私の命であり，私は彼の目であり，手であった。

We had a quiet wedding．I wrote to tell the Rivers the news．Diana and Mary wrote back with delighted congratulations，but St．John did not reply．

Now I have been married for ten years．I know what it is like to love and be loved，No woman has ever been closer to her husband than I am to Edward． I am my husband＇s life，and he is mine．We are always together，and have never had enough of each other＇s company．After two years his sight began to return in one eye．Now he can see a little，and when our first child was born and put into his arms，he was able to see that the boy had inherited his fine large black eyes．

Mrs．Fairfax is retired，and Adele has grown into a charming young woman．Diana and marry are both married，and we visit them once a year．St． John achieved his ambition by going to India as planned，and is still there．He writes to me regularly， He is unmarried and will never marry now．He knows that the end of life is near，but he has no fear of death，and looks forward to gaining his place in heaven．

我们举行了很简单的婚礼。我写信告诉了李维斯一家，戴安娜和玛丽回信祝福我们，但圣约翰没有回信。

现在我已经结婚十年了。我终于懂得什么是爱和被爱，没有任何女人和丈夫，能像我和爱德华那样相爱。我是我丈夫的生命，而他也是我的生命。我们总是在一起，亨受数不尽的彼此的陪伴。两年后，爱德华的一只眼睛回复视力，已经能看得见了。我们的第一个孩子出生时，他亲眼看到

怀里的孩子长得很像他，特别是他那双又大又黑的漂亮眼睛。
费尔法斯太太已退休了，阿黛拉已长大成迷人的姑娘。戴安娜和玛丽也结了婚，我们每年都去看她们一次。圣约翰终于实现了他的远大理想，如期去印度赴任，至今未归。他现在经常写信给我，他说他还是独自一人，也不打算结婚了。他已经知道自己的生命不久就要终结。但是他对死亡毫不畏惧，只期待着在天堂里获得自己的一席之地。

## 熟読玩味

○昼食後冷たい冬の風が，らっとうしい雲を吹きよせ，染み入るような雨が降り出したので，これ以上散歩を続けるのは，もうどだい無理だ った。
○私は，心が浮き立つほど輝かしく，希望に満ちた将来が訪れるように思われた。
○飲むときは暖かく，さわやかな香料入りぶどら酒のようであった。後味は金気があって，舌を刺すような，まるで毒を飲んだような気分だ った。

○学院は高い塀に囲まれ，設備も環境も劣悪で，粗末な食事は，八十人 の生徒を苦しめた。はじめは，慣れない規則や生活習慣にとまどった が，鍛鍊は私の知識を磨き，フランス語も絵画も上級に進めた。
○あなたと知り合えたのに，あなたが結婚されて永久に別れなければな らないのは，恐怖と苦痛に胸が引き裂かれる思いです。別れるのは死 を眺めているのと同じです。
○お茶に呼ばれた私が，精一杯服装を整えて部屋に入ると，暖炉の前に は犬とともに，日に照らされて，どちらかいえば不細工で気むずかし げな顔があった。
○結婚式当日，教会で挙式の最中，牧師の祈祷を低い静かな声がさえぎ った。この男は私の妹と婚姻中です。法律的にもこの結婚は無効です。
○ある夜，悪魔のような声が聞こえ，恐ろしさに戸を開けると，煙が立 ちこめていた。主人の部屋が燃えているのだ。夢中で消しとめ，主人 を起こすと，彼はグレイスのしわざだが，だれにも言わぬよう口止め

した。
○婦人たちの中でイングラム嬢はひときわ美しかったが，高慢だった。家庭教師の私は，一段低く扱われて無視された。

○ がっしりした骨格に，頑健な四肢，肩がいかつく，背丈はあまり高く なく，太ってはいたが，肥満というほどではなかった。顔が大きく，下顎がよく発達していて，額は狭く，顎は大きく突き出ており，目と鼻は普通に整っていた。薄い眉の下に二つの目が無慈悲に光っており，皮膚の色は，どす黒く濁っていた。髪は亜麻色に近かった。

○別離の悪夢から結婚の楽園へ，私は心を奪われていった。だからその夜，庭の大きな木が落雷で真ッ二つに裂けたときも恐ろしくなかった。

○その後の一ヶ月で結婚の準備が進められ，ロンドンから豪華なヴェー ルが届けられた。しかし，婚礼の二日前，夜中に目をさますと，見知 らぬ女がヴェールを引き裂き，踏みにじり，血走った目で私を睨んだ のだ。私は気を失った。
○ジョンは私を仕事の伴侶として愛してはいるが，妻として愛してはい ない。しかも，あの残酷な土地で微弱な私は長くは生きられないだろ う。「妻としてでなければ行く」と私は答えた。

○絶望と苦悩の色濃く座っていたご主人は喜びをみせたあと，自分の障害を認め，またふさぎこんでしまった。

○彼の腕に置かれた男の子が，彼と同じ輝く黒い目を受け継いでいるの をみることができたのだ。このとき，彼は神の慈悲を認めた。

○犠牲者の数の多さが世の中に知れ，学院の実態が暴露されて，学院は刷新された。

○慕っていたテンプル先生が結婚して去ってしまうと，決まりきった生活に飽き，自由になりたいと思らようになった。

○過去へも未来へも思いを馳せてはならなかった。前者は天国のように楽しく，また死ぬほど悲しい一ページであり，その一行を読んでも， それは私の勇気を挫き，元気を無くすことだった。後者は，恐ろしい空白であった。洪水の過ぎ去ったあとの世界に似ていた。
○もし神様が私に，いくらかの美しさと，相当の財産を，恵んで下さっ ていたら，いま私があなたとお別れするのをつらいと思っているよう に，あなたにも，私と別れるのをつらいと思わせることができたでし

ょう。これはあなたにお話しているのではなく，あなたの魂に話しか けているのです。平等に，ありのままに！

○彼女は特別の才能もなければ，性格の上で特に際立ったところもなく，普通の子供のレベルからーインチでも高めるような感情や趣味が，こ とさら発達しているということもなかったが，またレベル以下に引き下げるような欠点も持っていなかった。

○犬を連れた旅人が氷に足を取られ，馬ごと倒れているのを助けた。
○三人の従兄妹を説き伏せ，私は，遺産を四等分にすることにいきがい を感じた。
○彼女は，背が高く，美しい美貌と，すらりとした容姿の持ち主であっ た。優しい光をたたえた茶色の瞳と，描いたように長く揃ったまつ毛 が，ひろい額の白さを浮き立たしていた。服装は流行の型で，紫色の布地で仕立てられ，黒いビロードのスペインふらのアップリケのため に，たいへん引き立って見えた。帯には金時計が光っていた。
○前夜突然天気が変わって，肌を刺すような北東の風が一晚中寝室の窓 の隙間から吹き込んできて洗顔用の水差しの水を凍らせてしまった のだ。

○彼女は，未亡人帽子をかぶり，黒い絹のガウンをつけ，純白のモスリ ンのエプロンをかけた，この上もなく清楚な，小柄な老婦人であった。
○私のような道に迷った小鳥には，彼が撒き散らすパンくずを味わらこ とさえ，楽しいご馳走であったほど，彼には，いつも幸福を伝える力 があったのである。

○それは男に捨てられた女の歌で，その女が恋人の不実を嘆いたあげく，自尊心の助けを求め，一番美しい宝石と豪華な衣装で身を飾り立て， ある舞踏会の夜，その愛を裏切った男に会って，楽しそうな態度をみ せつけ，男に捨てられても露ほども痛手を受けていないことを思い知 らしてやろうと決心する。

○身一つで出てきた私は，もうこの世に一シリングだって持ってはいな かった。一片のパンも分けてもらえず，家々に近づいては，そこを離 れ，また引き返して来ては，再びさまよい去った。その度に，自分に は物を乞う権利もなければ孤独な私の身の上に関心を寄せてくれる ようにと望む権利もないのだという意識のために，そこを追い払われ

るのであった。
○容姿もまだ衰えておらず，髪の毛も，少なくとも蝋燭の明かりでは， まだ黒く，歯もまだ，明らかに，しっかりそろっていた。たいていの人が，その年齢にしては美しい婦人だというのであろう。

○容姿の点から言えば，もちろんそうであったけれども，その表情や動作には，ほとんど，我慢のならない傲慢な感じがあった。この顔だち が傲慢のためにふくれあがり，陰気になっているだけでなく，しわま でよっているように思われた。

○私を人形だとお考えなのですか？感情も持たぬ機械だとお考えなの ですか？そして，口からパン切れを奪いとられ，コップから，命の水 をこぼされるとお考えなのですか？

○私が貧乏で，名もない身分で，ちつぽけな女なので，魂もなければ，愛情も持たないと思ったのですか？私もあなたと同じように魂を持 ち，愛情を持っているのです。

○彼は，一番美しい紫色の高価な絹織りと，華やかなピンク色のサテン に目をとめた。私は小声で，そんな衣装を買うのは，金の冠と銀の帽子を，いつぺんに買うのと同じことだと，なんどもささやいたが，彼 は石のように頑固だった。

## 赤と 黒

（スタンダール—1830年発表）

## 作家と作品

スタンダール（Stendhal，1783～1842）という筆名で知られているアン リ・ベールはフランスの生まれ，高等法院の弁護士の子として生まれる。家族は貴族ではないが，かなり裕福だったという。父はアンリ少年を上流子弟らしく育てようとし，近所の子供たちと自由に遊ばせず，厳格な僧侶を家庭教師にしたため，「三者の圧制（父，母の妹，僧侶の家庭教師）」 に苦しんだ少年は，家庭が牢獄のように感じられたと言っている。母方 の祖父からは，古典教養と啓蒙思想の洗礼を与えられたという。彼は保守的で厳格な家庭に育ちながら，権威や束縛に対する反抗心はこの頃か ら顕著で，ルイ十六世処刑の際に歓声を上げたという。当時，散髪の時間さえ惜しんで学問に打ち込んだのは，「自分の二つの敵，偽善と曖昧の存在を許さぬ」を信じたからである。親戚ダリュの息子が当時，陸軍省事務次官をつとめていた関係から，スタンダールは彼の口利きで陸軍少尉に任官し，イタリア遠征に参加した。母がイタリア系だったこともあ り，イタリアに憧れを持っていた。軍人となったが，実際には馬に乗る事も出来ず，もつぱら女遊びをしていた。その後，軍を辞め，輸入問屋 に勤めたが，大陸封鎖令によって海外貿易が途絶えてしまう。後に陸軍 の財務監査官に昇進するが，ナポレオン没落によって，彼も落ち込む。 1822 年に『恋愛論』，1830年に『赤と黒（The Red and the Black）』を発表 している。特に，神学生による殺人未遂事件を素材に書いた『赤と黒』 は，フランス社会を鋭く批判し，彼の思想の真骨が表現されている。七

月革命後，ローマ駐在フランス領事に赴任。1842年，パリの街で脳出血 で死去。墓には，「生きた，書いた，愛した」の名句が刻まれている。

貧しいベニヤ小屋の三男として生まれたジュリアンは，ごく幼いころ から，その恐ろしく沈んだ様子と，青白い顔をみて，父は，この子は育 つまい，育ったところで一家の厄介ものになるばかりだと思っていた。家で皆からばかにされていた彼は，父と兄を憎んでいた。日曜日に町の広場で遊ぶときにも，彼はいつもぶたれてばかりいた。彼は，家庭教師 を経歴としていたことは恋のためだという，自らの出世後の口実を設け ておくため，夫人を自分のものにしておくことが義務であると考えた。彼は夫人の部屋に忍んでいき，思いを遂げた。後，神学校に進んだ彼は， ラ・モル侯爵の秘書に推薦されるが，マチルドを征服しようと心に誓う。彼女もまた彼の情熱と才能に惹かれるようになり，侯爵は結婚に反対す るが，娘は家出も辞さないため，やむなく彼を陸軍騎兵中尉にとりたて る。そのころレナール夫人は彼との不倫関係を反省し，贖罪の日々を送 っていた。そして，「ジュリアンは良家の妻を誘惑して出世の踏み台にし ている」と侯爵に手紙を書く。侯爵は激怒し，娘の結婚を取り消す。レ ナール夫人の裏切りに憤慨した彼は，ピストルを購入し，彼女を撃つ。彼女は一命を取り留めるが，彼は逮捕される。マチルドは彼を助けるた めに奔走し，彼は自ら望んで死刑を受け入れる。なお，彼が愛するレナ ール夫人は，作者の母がモデルになったと言われている。当時フランス の復古王政による復活と支配階層に対する批判と新興階級への風刺が込 められ，聖職者の僧衣を「黒」，軍服を「赤」としたこの小説は，近代的 な個人の論理的心理描写に成功し，作者は同時代の人々には理解されな く，出版当時は不評を買われたが，二十世紀に入って再評価されるよう になった。

## 登場人物

ジュリアン：（Julien，于连•索雷尔）
主人公はナポレオンを崇拝し，野心に満ちた美青年である。
：（Mr．de Renal，维立叶尔市长德•瑞那／德•莱纳） いかにも偉そうな様子の背の高い男。
レナール夫人 ：（Madame de Renal，德•瑞那夫人／德•莱纳夫人） ジュリアンは夫人と恋におちる。

ピラール神父 ：（Mr．Pirard，彼拉鲁神父／彼拉神父）
自身の告解師として校長のピラール神父を選んだ。
シェラン神父 ：（Mr．Chelan，谢兰神父／谢朗先生） ジュリアンはシェラン神父からラテン語を習った。

アンリ四世 ：（Henri，亨利四世，1589年即位，1610年被暗杀）
マルグリッド ：（Queen Marguerite，玛格丽特王妃） アンリ四世の王妃マルグリッドが愛人であるボニ ファスの処刑後，丘に葬ったという。
ラモール侯爵 ：（Marquis de la Mole，拉木尔侯爵／拉莫尔） マチルドの父。ジュリアンに裏切られ，強い憤り を覚える。

ラモール夫人 ：（Madame de la Mole，拉木尔夫人／拉莫尔夫人）

## マチルド

：（Mathilde，玛特尔小姐／玛蒂尔德）
マチルドはジュリアンの子を身ごもった。

ヴァルノ氏：（Mr．de Vale－nod，阿列诺／瓦勒诺）
エリザ
：（Elisa，爱丽萨） エリザは遺産を相続するが，ジュリアンにふられる。
ブルボン ：（Bourbons，波旁王朝）
1589年，アンリ4世が王権を強化し，絶対主義時代を開いた。

ダリュの息子 ：（诺埃尔•逹吕的儿子）
陸軍省事務次官をつとめていた。
親友フーケ
：（Fuque，于连的挚友富格）
ダントン
：（Danton，丹彤）
政治家。1791年，パリの民衆を指導，恐怖政治を行なう。

1815 年ナポレオンが没落し，ブルボン王朝が復活する王政復古が厳然 としていた時代，フランス東部の小さい町ヴェリエール ${ }^{(1)}$ は，この地方 で最も美しい町の一つに数えられた。赤い瓦の，尖った屋根の白い家々 が丘の斜面に広がっていて，そこへ勢いよく成長した栗の木の茂みが，丘のごくわずかな起伏までくつきり描き出している。ヴェリエールは，高い山に囲まれているが，それはジュラ山脈の一支脈である。鋸の歯の ような山の頂は十月初めて寒さの来るころから雪に覆われる。この町へ一歩踏み込むと人々は，恐ろしい格好をした機械の響きに，どぎもをぬ かれる。急流の水が動かす車輪の力によって持ち上げられた重い鉄槌が，道の敷石を躍らせるほどの響きを立てて落下する。この鉄槌の一つ一つ が毎日何千と数え切れぬくらいの釘を作り出すのだ。生き生きした可愛 い娘たちが，この巨大な鉄槌の打つ下へ鉄片をさし出すと，それがたち まち釘に変わる。一見いかにも荒っぽいこの仕事は，この町へ初めて足 を踏み入れたお客さんをもつとも驚かすものの一つである。町長のレナ ール氏 ${ }^{(2)}$ は，せわしげな，いかにも偉そうな様子の男で，この男の姿を みると，皆がすばやく帽子をぬぐ。ごま塩頭で，ねずみ色の服をきてい る。彼は数個の勲章の佩用者なのだ。額がひろく，わし鼻が，全体とし て一種整った容貌をしている。だから一見したところ，町長らしい貫禄 とともに，五十近くの人にも見かける，あの一種の愛敬をさえたたえて いると思うかも知れない。だがパリの人々はすぐに，何となく浅はかな機転のきかぬ自己満足と，らぬぼれの態度が不愉快になってくるだろう。 ヴェリエール町長のレナール氏とは，こういう人物だ。彼がつい最近，新築した石造りの住まいは，あの釘工場から得たもうけのおかげだ。人 のいうところによると，彼の家はスペイン系の旧家で，ルイ十四世の征服よりずっと昔からこの地方に定住していたらしい。1815年以来，彼は

[^11]工業家たることを恥としている。つまり，1815年から町長になったから である。町中の広大な庭園のあちらこちらを石垣で支えているが，あの絵のような美しい庭園を，フランスに求めてはいけない。ここでは，石垣をたくさん造れば造るだけ，また積み重ねた石で自分の居場所をふさ げばふさぐだけ，多くの尊敬を隣人に求めてよい，ということになって いる。石垣だらけのレナール氏の庭園も，彼がいくつかの小さな場所を金にあかして買占め，その上に造ったものだというので，いっそう評判 が高いのである。

河の岸近く奇妙な場所に『ソレル』という名前が，屋根の上にのっか った看板に，でかい文字が書かれているのに諸君は気がつかれるだろう。 いつも傲慢な町長さんも，ベニヤ板小屋の意地悪で頑固一徹のソレル（1）親爺を向こうにまわすと，いろいろとかけひきをしなければならない。 その小屋をよそへ移すことを承知させるためには，ルイ金貨をどっさり やらねばならなかった。彼はソレルに，五百メートルばかり下流の岸に，一対四の割で土地をやった。そしてこの位置はベニヤ板の取引には，ず っと有利だったのに，ソレルは，隣人が焦燥と土地所有欲に駆られてい るところへらまくつけこんで，六千フランという大金をまきあげた。こ れは四年前のことだが，レナール氏は，三人の息子に取り巻かれたソレ ルが自分を見てにやにや笑っているのを遠くから見かけた。このにやに や笑いが町長には，はっきり不覚を悟らせたが，もら遅い。もっと有利 に交換できたものを，このとき以来レナール氏はそのことばかり考えて いた。レナール氏が運よく，行政官としての名声をあげたのは，例の丘 のすそを絡む散歩道に大きな石垣が必要になったためである。ここは絶好の位置を占めていて，眺めはフランスでもっとも美しいものの一つだ が，惜しいことに毎年春になると雨が道の上に溢れて，歩けなくなる。 この不便を痛感するようになった結果，レナールがぜひとも，高さ二十尺，長さ四十尺の石垣を造らねばならぬことになって，それが彼の実績 を不朽にしたというわけである。

ある日レナールは，「わしは，ベニヤ板小屋のせがれのソレルを家へつ れて来た。子供たちもそろそろわしの手に負えなくなってきたから，あ

注（1）：ベニヤ板小屋のソレル親爺。

れに監督させよう。一人前の若い僧侶，と言ってもいい男で，ラテン語 もよくできるから，子供に力をつけてくれるに違いない。しつかりした人物だと，シェラン神父も言っていた。三百フランやって，食費はこっ ちで持ってやろう」この突然の話を聞かされて，レナール夫人はすっか り考えこんでしまった。彼女は背丈が高く姿がよくて，この山間の人が言う通り，土地の美人だった。身のこなしには，どこかうぶな若々しい ところがあった。パリの人の目からみると，無邪気でぴちぴちしたこの素直な美しさには，いささか肉感的なものを思わせるほどの力があった のかも知れない。だが夫人は，もし自分がそんな方面で成功したことを知ったら，さぞ䎵ずかしがったことだろう。お洒落しようとか，そんな気はてんでなかった。金持ちの収容所長ヴァルノ氏が彼女に言いよった が，ものにならなかった。というのは，このヴァルノ氏というのが色艶 のいい顔をした，頑丈な体格の立派な若者で，地方では美男子と呼ばれ る，粗野で，厚かましくて，うるさい連中の一人だったからだ。レナー ル夫人 ${ }^{(1)}$ は世間知らずではあるが，気立てのやさしい女性であり，しん からうち気で，はた目には大変むら気な性格を持った夫人は，ことにヴ アルノ氏のいつもせかせかした態度とばか声が嫌いだった。ヴェリエー ルの町の人々が楽しみにしていることに，まるで近寄ろうとしないもの だから，あの女は家柄を鼻にかけているんだという評判をたてられた。彼女はそんなつもりではなかったが，町の人々がだんだん自分の家へ近寄らなくなるのは，大変嬉しかった。つつまずに言ってしまえば，夫に対して少しも策略がなく，パリの出来のきれいな帽子を買ってもらえる絶好の機会を，いつも見逃すので，彼女は町の夫人連れからは愚かな女 だと思われていたのである。ただ一人で勝手に我が家の美しい庭をさま よってさえおれば，彼女に決して不満はなかった。彼女は，夫を批評し たり，夫をいやだと考えたりするほど思い上がった気持ちは，かつて一度もなかった。はっきり自分の胸に問うてみたわけはないが，夫婦の間 にこれ以上やさしい交わりはないものと思っていた。彼女は子供たちの将来のことを話すときの夫が一番好きだった。レナールは長男を軍人に，次男を裁判官に，三男を僧侶にするつもりだった。要するに，彼女は自

[^12]分の夫が，自分知っているどの男よりも，ずっとましだと思っていた。
夫人は，自分の周辺にいる男というものを，すべて無骨で低俗なもの
 ひと目みるなり，その矜持の高さと美しい眼に引き込まれていった。彼 は，見たところ弱々しい小柄の若者で，わし鼻の，整ってはいないが，美しい顔だちだった。静かなときには，思慮と情熱を示すその黒い大き な眼は，この瞬間，世にも恐ろしい憎悪の色を燃えいた。濃い栗色の頭髪が，ごく低くまで生え下がっているので，額が狭くて，怒ったときに は意地悪そうに見える。限りなく変化のある人間の容貌のうちでも，こ れ以上眼立った特徴で異彩を放つものは，恐らくまたとなかろう。その すんなりと釣り合いのとれた体つきは力よりもむしろ身軽さを物語って いた。十九歳のジュリアンは色白で小柄 ${ }^{(2)}$ のうえに，ごく幼いころから， その恐ろしく沈んだ様子と，青白い顔をみて，父は，この子は育つまい，育ったところで一家の厄介ものになるばかりだと思っていた。家で皆か らばかにされていた彼は，父と兄を憎んでいた。日曜日に町の広場で， みんなと遊ぶときにも，彼はいつもぶたれてばかりいたのだ。彼の可愛 い顔が，少女仲間の幾人から優しい言葉をかけられるようになってから， まだ一年も経っていないが，その前までは弱虫と言われ皆にばかにされ ていた。聡明で強い自尊心をもった美しい少年であり，ナポレオンの熱狂的な崇拝者 ${ }^{(3)}$ であった。ナポレオンの全盛期であれば，軍人として栄達の道に進みたかったが，今はそれが許される時代ではない。ナポレオ ンの名声が世に鳴り響いたのは，ちょうどフランスが外敵の侵入に怯え ているときだった。だからこそ武勲は必要であり，また流行でもあった んだ。今日では，四十歳の僧侶で十万フランの給料，つまりナポレオン軍の有名な将軍たちの三倍もらっているから，ナポレオンを崇拝してい ることを口に出すことなく，聖職者になる道をめざしながら，かつて， それはジュリアンが神学をはじめてからもう二年も経っているが，胸に燃えている炎がにわかに外に溢れ出たために，思わず本心のばれたこと があった。それはシェラン神父のもとで催された僧侶たちの晚餐会で，

[^13]彼はどうした弾みかナポレオンを熱情的に賛美してしまったのである。 ジュリアンがこの家に来て心が落ち着かないのは，極端に内気な夫人 が，見知らぬ男が職務の命ずるところだなと言って，しょっちゅう自分 と子供たちの間に邪魔をするようになるのだと思うだけでも，すっかり心が混乱してしまらのだった。彼女は今まで子供たちは自分の寝室で一緒に寝かすことにしていた。その日の朝，子供たちの小さな寝台が，家庭教師にあてがわれる部屋の方へ運ばれてゆくのを見たとき，彼女はず いぶん泣いたものだ。せめて一番幼い子の寝台だけでも，自分の寝室へ運び戻してくれるように，夫に頼んでみたが，聞き入れられなかった。夫人は，男の目の届かぬところでは，いつも決まってそうなのだが，き びきびとしかももの優しく，庭に面した客間の窓をひらいて出ようとし た。そのとき，まだ子供っぽさのぬけきらぬ一人の田舎ものが，真っ青 な，いま泣きやんだばかりの顔をして，入り口の前に立っているのを認 めた。この子の色があまり白く，また眼があまり優しいので，いささか小説趣味の夫人は，最初，これは少女が変装して，町長に何かお願いに やってきたのかも知れないと思ったくらいだった。入口の扉の前でもじ もじして，思い切って呼鈴に手をのばすことさえできないらしい，この可憐なものに彼女は同情した。夫人は家庭教師が来るために受けた辛い悲しみも暫く忘れてしまって，近寄って行く。扉のほうを向いていたジ ュリアンは，彼女がそばへ来たのに気が付かなかった。優しい声が耳の間近に聞こえたとき，彼はぶるっと震え上がった。「なに御用，坊ちゃ ん？」そして夫人が，あまりやさしい目差しをしているのに打たれて，気おくれもちょっと忘れてしまった。その美貌に驚いて，彼はすべての ことを，自分は一体何をしに来たのかをさえ忘れてしまった。夫人は問 を繰り返した。「奥様，私は家庭教師にまいりました」と，出来るだけぬ ぐったがまだ残った涙を，深く䎵じらいながら，彼はやっと答えた。夫人はものも言えなかった。二人は非常に近寄ってお互いの顔をじっと見詰め合っていた。ジュリアンは，こんな立派ななりをした人が，ことに こんな眩しいほどの色艶の夫人が，自分にやさしい言葉をかけてくれた りするのは今まで出会ったことがなかった。夫人の方は，はじめはあん なに青かったが，今こんなにバラ色になった，若い田舎者の頬に止まっ ている大粒の涙を，じっと見つめていた。やがて彼女はすっかり小娘の

ようにはしゃいで，笑い出した。自分が可笑しくなった。そして自分の幸福を，計りしれないほどだった。まあ何ということだ！醜いなりをし た汚らしい坊主がきて，子供たちを叱ったり，鞭でぶったりするのだと考えていた，その家庭教師というのが，この少年なんだ！「まあ！ムシ ュー（あなた）」と，彼女は口をきった。このあなたという言葉が，ジュ リアンを大層驚かした。こんな立派な服装をした貴婦人が，しかも本気 で，自分をムシューと呼んでくれる，それはジュリアンのまったく夢に も思いがけぬことだった。彼が若者らしい夢を描くときでも，美しい軍服を身に纏っても，立派な婦人が一人として自分に口をきいてくれまい， そういつも思っていたのだ。夫人の方はまた，ジュリアンの美しい色艶，大きく黒い眼，そしてその愛らしい頭髪，実は頭を泠やすために，さっ き広場の噴水の中へ漬けたものだから，平生よりもずっと縮れていたに， すっかり騙されていた。

こんな美しい貴婦人のこんなに優しいほとんど哀願するような口調は， たちまちジュリアンに，彼がラテン語学者としての名声を保つ必要なこ とを忘れさせた。婦人の顔が彼の顔に近寄ったので，彼は貧乏人にとっ ては実に珍しい，女の夏衣裳の香りをかぐことができた。すっかり赤く なった彼は，溜息をついて力のない声で，「少しもご心配に及びません，奥様。何もかもおっしゃる通りにいたします」子供たちに対する不安が まったく消え去ったこの時になって初めて，夫人はジュリアンの無類の美貌に打たれたのだ。長いおしゃべりの間に，ジュリアンは落ち着きを取り戻し，夫人をじっと見つめていた。非の打ちどころのない容姿の美 しさが，その人柄に生まれつきのもので，ことにその持ち主が自分の美 しさを意識せぬ場合には，こういう効果を生むのである。ジュリアンが たとえ女性美によく通じていたにしても，この瞬間，彼女は二十歳を越 してはいない，と言い切っただろう。彼はとっさに，夫人の手に接吻し ようという不敵な考えを起した。すぐに彼は自分の考えが怖くなった。 が一瞬の後，彼は思った。半年以来に日曜ごとに，少女たちがよく口に するのを耳にした，あの「美少年」という言葉でいくらか自信をつけて いたのだろう。彼は大胆に夫人の手をとって唇へもっていった。この仕草に夫人は驚いてしまった，考えてみると腹が立った。酷い暑さだった ので，彼女の腕はショールの下には何もつけていなかったが，ジュリア

ンがその手を唇へもっていったので，二つの腕がすっかりあらわになっ てしまったのだ。暫く経って，彼女は自分自身を各めた。もっと早く腹 を立てるべきであったと。あの時から何年もの年月が経ったような気が した。レナール氏が話し声を聞いて，書斎から出てきた。
ジュリアンは，抜群の記憶力 ${ }^{(1)}$ で，子どもたちにラテン語を教えてい た。子どもたちは彼になついたが，彼のほらは少しも愛情（®）がもてなか った。子どもがなにをしでかそうと，相手にしない。表面的にはみんな から愛され，立派な家庭教師だったが，心では単なる家庭教師にすぎな いといら劣等感から，上流社会に対する憎しみと嫌悪 ${ }^{(8 を}$ 抱く男でもあ った。夫人は，彼がいつもよりしげしげ小間使いのエリザと話をする のに気づいた。二人がそんなに話を交えるのは，ジュリアンのごく小さ い衣類戸棚の中身が貧弱で，それが原因だということが分かった。彼は下着類をほんの少ししか持っていないものだから，それを始終外へ持ち出して洗わなければならない。そういう用事のために，エリザが面倒を みていたのである。彼女はジュリアンの世話をしているうちに恋心が芽生え，夫人によく彼の話をした。夫人はその話から，ジュリアンが貧し い暮らしをしていることを知った。夫人は彼の境遇に同情し，この甚だ しい貧しさが夫人の心を動かした。そういう品物を買ってやりたいのは山々だったが，思い切ってできなかった。こうして心のうちにじっと忍 ぶこと，これがジュリアンの彼女に与えた最初の辛い思いだった。それ まではジュリアンという名前と，まったく精神的な清い喜びの感情とが，彼女にとっては同義語であった。この若い家庭教師の貧しさを思らと，夫人は涙が出るほど不憫がることがよくあった。夫人は，新たに財産を手に入れたのに，前より幸福そうに見えないエリザとの縁談話を祝福す るが，ジュリアンはそれを断った。そのとき，夫人は彼に恋している自分・に気づくのであった。ヴェルジーにある別荘で，彼女は子どもたち との果樹園＠での昆虫採集を通じて，ジュリアンと次第に親密になって

[^14]いく。酷暑がやってきた。家から数歩のシャルル七世が植えたという大 きな菩提樹の下で，よく夕涼みをするが，そこは闇が深かった。ある酷暑の夜，ジュリアンが勢いこんで話していると，ふとその手が夫人の手 に触れた。夫人はすばやく手を引っこめたが，ジュリアンは引っ込めさ せないようにするのが自分の義務だと考えた。その翌日，また夫人と顔 を合わせたときの，ジュリアンの目は異様に光っていた。彼は今にも相手にして戦わねばならぬ仇敵に対するかのように，彼女を睨みつけた。昨夜とすっかり変わったこの目差しに，夫人は慌ててしまった。あたし は優しくしてあげたのに，この人は腹を立てているらしい。彼女は彼か ら眼をそらすことができなかった。太陽は沈みゆき，いよいよの瞬間が近づくにつれて，ジュリアンの心臓は怪しく高鳴った。夜になった。闇 が深くなっていくのを見てとると，彼は胸の上の大きな重荷を取り除か れたような嬉しさを感じた。あまり興奮してジュリアンが我を忘れたよ らになった期待と焦燥の最後の一瞬の後に，頭上の大時計に十時が鳴り響いた。運命を決する鐘の一打ち一打ちが，彼の胸のらちに反響して，肉体的なショックのごときものを感じさせた。ついに，十時最後の一打 ちがまだ鳴り響いているとき，彼はつと手を伸ばして，夫人の手をとっ た。彼女は手をジュリアンに預けたまま，何も考えないでいた，ただじ っとそうして生きていたのだ。彼女の手（1）を握ることができた彼は歓喜 するが，それは義務を果たせたための喜びであった。

翌朝，彼は五時に起きた。彼は夫人のことなど殆ど考えようともしな かった。自己の義務，しかも英雄的な義務を果たしたのだ，こう思うと彼は喜びでいっぱいになって，部屋へ鍵をかけて閉じこもり，まったく新しい愉悦を覚えながら，崇拝する英雄の軍功談に読みふけった。昼食 の鐘が聞こえるときも，彼はナポレオンに読みふけって，昨夜の自分の勝利をすっかり忘れていた。そうして，子どもたちを半日 ${ }^{(2)}$ ほったらか しておいたことをレナール氏に各められたジュリアンは，逆に待遇面に ついての改善を要求する。ヴァルノ氏による彼の引き抜きを恐れたレナ ール氏はこれを許可し，ジュリアンはより自由に行動することができる

[^15]ようになった。ジュリアンが親友のもと『に行っているあいだ，夫人は落ち着いた生活をすることができなかった。彼女は死にも赴く人のよう に真っ青になって，彼の部屋へ上がって行く。かわいそうに，彼女は今 にも気が遠くなりそうな気がした。しかしどらしても彼のために尽くさ ねばならないと思らと，また力が出てきた。「あたしが愛を感じている！恋している！人妻のあたしが，恋しょうというのか！けれどもあたしは夫に対してさえ，今まで一度だってこんな薄気味悪いほどの情熱を感じ たことはない，彼のことを思わずにじっとしていられないんだもの。ほ んとのところ，あの人はただあたしを心から敬愛しているほんの子供に すぎない。こんな変な気持ちになるのもただの暫くだろう。この無邪気 な魂の持ち主は，かつて覚えたこともない情熱に心をかき乱されていた が，その純潔さは偽善のためにけがされてはいなかった。いかにも彼女 の考えは誤っているが，自分自身で気づかなかったのだ。ただ道徳的本能はやはり脅かされていた」ジュリアンが戻ったその晚，庭に出たとき，彼女の心の中はこういうふらに乱れていたのだ。彼女は彼の声を耳にし たと思らと，殆ど同時に彼は彼女のそばに腰をおろした。彼はもういら いらしてきて，ほかのことは何も考えられない。ただ夫人が自分に手を委ねてくれればいいと，そればかり願っていた。彼女がこの二週間以来， いわば酔い心地に浸っているこの楽しい幸福は，魅惑するよりも，むし ろ彼女を驚かすことが多かった。何もかも彼女に思いがけぬことばかり だった。やがて闇は深くなってきた。夫人は眼を閉じることができなか った。彼女は今まで本当に生きるということの意味を知らなかったよう な気がした。ジュリアンが自分の手を，燃えるような接吻で覆うのを身 に感じた，あの嬉しさは彼女の念頭を去らなかった。

彼は，家庭教師を経歴としていたことは恋のためだという，みずから の出世後の口実を設けておくため，夫人を自分のものにしておくことが義務であると考えた。夕方，彼は夫人の耳もとでささやいた。「奥さん，今夜二時 ${ }^{(2)}$ にお部屋へまいります。ぜひお話したいのです」その晚，彼 は裸足だった。レナール氏の部屋の扉のところで耳をすますと，鼾がは

[^16]つきり聞こえた。彼は何だか情けない気がした。夫人のところへ行かず に済ます口実がもら無くなったのだ。彼は夫人の部屋に忍んでいき，思 いを遂げた。興奮のために，あらゆる刺激に一層敏感になった彼女の顔色の輝きをなお増したようだ。この慎ましやかで人の心を動かす美しさ， しかも下層階級には見られぬ知的な美しさは，ジュリアンの眼に映るこ の美しさに心を奪われて，彼は愛想よく迎えられようなどという期待を すっかり忘れていた。そのときにも彼は理想的にふるまおうとする妙な自尊心にとられ，常に義務の念が目の前にちらついて，幸福感を得るこ とができなかった。この男は役割を演じようと勤めている，そういう悲 しむべき事実に気がついたら，せっかくの彼女の幸福も永久に破壊され たことだろう。そして，それはただ年齢の不釣合いから生まれた痛まし い結果だとしか考えられなかったろう。しかし時がたつにつれ，彼は次第に夫人のひたむきな愛情 ${ }^{(1)}$ にひかれ，野心®を忘れて彼女を愛するよう になっていく。何日も経たないうちに，彼はその年頃に特有な情熱を， すっかり呼び覚まされて，狂気のように恋焦がれるようになった。「確か に，あの女は天使のように善良な心をもっている。それにあんな美しい女はまたとあるまい」と思いこみ，彼は役割を演じるというような考え を，ほとんどすっかり捨ててしまった。忘我の瞬間に自分の心の不安を女に打ち明けさえした。こんな打ち明け話まで聞かされると，女のジュ リアンに対する熱情はもら最高潮に達した。夫人は嬉しくて嬉しくてた まらなかった。野心を忘れた瞬間のジュリアンは，レナール夫人の帽子 や着物のようなものにまで，恍惚として見とれるのだった。彼はそうい らものの香りを，いつまでも嗅ぎ飽かなかった。

以前からジュリアンの陰気な黒い服を脱がせたいと思っていた夫人 は，各方面に働きかけ，ジュリアンが警備隊員に任命されることに成功 した。空色の制服を着て，ノルマンディー産の馬にまたがったその姿は，人にもまごうばかりの美少年であったが，これがジュリアンであること に気づいた人々から，身内の者を抜擢した町長を非難する声が高まった。 この坊主に化けた職人のせがれ，自分の子供の家庭教師だというだけの

[^17]理由で，他の資産家や工業家を差し置いて，厚かましくも警備隊員に任命したんだ！しかし，ジュリアンは自己の姿をナポレオンの将校と重ね て，至福の時を味わっていた。昔，レナール夫人は修道院に仕えたこと があるだけに，もともと信心深い性質ではあったが，ジュリアンとのこ とが神の目にどのように映っているかなど考えたのである。一方，エリ ザはジュリアンにふられたことを恨み，ヴァルノ氏にたびたび告げ口を してきたが，ある日，レナール夫人とジュリアンの情事を打ち明けた。所長のヴァルノ氏®は六年もの間，レナール夫人に言い寄っていたもの の，まったく相手にされなかったのに，ジュリアンと夫人との情事に大 いに自尊心を傷つけられた。ヴァルノ氏は町長に宛て，彼らの家庭内の様子を記した匿名の手紙（2を送った。「夫人，あなたの内証事はすっかり知れている。かくしておきたいと思ら人たちの間にも知れてしまった。私は最後の好意でいう，あの百姓のせがれときっぱり切れてしまいなさ い。もし素直にそれに従うなら，夫君受け取った警告を虚報だと信じて， そのままいつまでも思い違いをしているだろう。私があなたの秘密を握 っていることを忘れぬがよい。恐ろしかろう，かわいそうなものだ。今 となってはあなたは私の言いなりになるよりほかはないのだ」と書いて いた。そのため，レナール氏は，ジュリアンに対して猜疑の目を向ける ようになったが，このことを察したレナール夫人は一計を案じ，手紙 はヴァルノ氏による中傷であると夫に思いこませ，当分のあいだ，ジュ リアンを遠ざけることに成功した。彼女が夫の虚栄心を巧みに操ったこ とは，今までになかった。二時間と経たないうちに，彼女は夫の考えつ いた理屈をみんなうまく利用してとうとう，ヴァルノ氏と仲良くするこ とや，エリザをもう一度呼び返すことまで，夫に納得させてしまった。 ジュリアンの将来を案じるシェラン神父の勧めで，ジュリアンは首都ブ ザンソンの神学校に行くことにした。ブザンソンは，単にフランス国内 で最も美しい町の一つであるばかりでなく，そこには気骨のある人や機智に富んだ人々がたくさん住んでいるはずなのだが，なにしろジュリア ンは，田舎者であったから，そういう立派な人たちに近づきになるすべ

[^18]もなかった。遠くから扉の上の金色に塗った鉄の十字架が見えた。何だ か両足の力が抜けてしまうような気がした。「さあ，いよいよこの世の地獄へやってきた。ここへ入ればもう外へ出られないだろう」と思いなが ら，やっと思い切って鐘をたたいた。ジュリアンは，校長のピラール神父を告解師として選んだが，副校長の勢力が強く，校長はいつその座を奪われるか分からない状況であった。彼は常に首位の成績を独占し，ピ ラール神父は，ジュリアンをラモール侯爵の秘書に推薦した。彼は，い ったんヴェリエールに戻り，レナール夫人と再会し，近況を報告した。夫人は過去の情事のことに苦しむが，ジュリアンの誘惑に抗うことはで きず，またも愛欲に溺れてしまう。ジュリアンは，翌一昼夜，レナール邸に潜んでいたが，レナール氏に気づかれ，危うい（1）ところを助かった のである。

パリのラモール邸には，侯爵夫妻のほかに，娘のマチルド②がおり，彼女はすぐれた美貌と才能に恵まれていた。ジュリアンは，豊かなブロ ンドの髪をもち，ギリシア彫刻のような美しい顔立ちのマチルドに心を奪われた。彼女はただ美しいばかりでなく，大胆な言動にも人々の注目 を集めた。特に，毎年四月三十日には喪服を身につけた。これは，1574年に起こった事件で，アンリ四世の王妃マルグリッドが愛人であるボニ ファスの処刑後，彼の首をもらい丘に葬った事を記念するためであった。彼女は，無気力な社交界の人たちを軽蔑していた。そして，粗野で田舎者と言いながらも，ジュリアンに興味を抱き，いつのまにか恋い慕うよ うになった。ジュリアンはマチルドの手紙を目にして，彼女の思いを知 っているが，数日たつと彼女の方から断るといったやりとりが何度か続 いたあと，ジュリアンはマチルドをあきらめる素振りをして別の女性に言い寄る。自尊心を満足させようとする二人の気持ちが，このような奇妙なかけひきを繰り返させた。ジュリアンは彼女に対して冷静にふるま っていたが，マチルドは初めて彼に恋していると気づく。マチルドが自分の子 ${ }^{(3)}$ を身ごもると，ジュリアンはさらに野心を燃やす。秘書として信用していた男に裏切られたラモール侯爵は，強い憤りを覚えたが，結

[^19]局，二人を祝福するしかなかった。しかし，侯爵がジュリアンの素行調查をしている最中，レナール夫人から手紙が寄せられた。「彼は成功を目指して，いつもその専業主婦を誘惑する」ということに，侯爵は烈火の ごとく怒った。この手紙に激怒したジュリアンは急いでピストルを購入 し，教会で礼扯していたレナール夫人を狙って迕撃った。夫人はその場 に倒れたが，幸い一命は取りとめ，彼は逮捕された。「この牢獄に，マチ ルドの代わりにレナール夫人が来ているとしたら，おれは自制できるだ ろうか？絶望の声をあげたり，激しい後悔に取り乱せば，それはヴァル ノやこの地方のすべての貴族連中の目には，䎵ずべき死の恐怖と見える だろう。このいくじなしたちは金のおかげで誘惑にかかる機会がないも のだから，勇気のありそうな面をしているだけなのだ。誰もナイル河の源を知っているものはない。この河の王をただのささやかな流れの状態 で見ることは人間の眼に不可能のことだ。同様に，気の弱いジュリアン は人間の眼で見ることのできないものだ。第一，彼は弱くなんかないの だ。しかし感じやすい心を持っていて，もっとも平凡な言葉でもそれが真実をこめた調子で言われると，もうおれの声がやさしくなり，ときに は涙まで流れてくる。こういう弱みのために無情のやつらがおれを軽荗 したことは幾度あったか分からない。彼らはおれがお慈悲を求めている ように思らのだ。これが我慢のならぬことだ。ダントンは断頭台に上り かけたとき細君のことを思い出して心が乱れたそうだ。しかしダントン はとにかく，やくざな青二才ばかり固まっている国に力を与え，敵がパ リに迫るのを防いだ男である。このおれは，自分にできることは，自分 が知っているだけで，他人にとってはせいぜい，…かも知れないといっ たくらいしかない男なのだ」と考えた。マチルドや親友のフーケは彼の助命のために奔走したが，彼にとって最もられしかったのは，レナール夫人の無事が確認されたことと，夫人の見舞いであった。ここで夫人が待ってというのに，彼は激しく接吻した。「待ってちょうだい。忘れない らちに，あなたとよく道理を考えておきたいから。あなたの顔を見ると， いろんな義務などといったことは忘れてしまって，私はもう恋しいばか りになって，というより恋しいなどという言葉では弱すぎるくらい。私

はあなたに，本当は神様だけに対して持たなければならない気持ちを持 っているのよ。尊敬と，愛と，服従の心のまざったもの，本当に言えば，私の気持ちを何といっていいか分からない。あなたが看守を刀で突き殺 せと言ったら，私はそのことをよく考えてみる前に，ふらふらっとその罪を犯してしまいそうだわ」彼は喜びに興奮して，毒でも刃物でもピス トルでも炭でも，とにかく何らかの方法で，あなたが自分の命を危らく するようなことはしないと誓うのだ。あなたは私の子供のためにどうし ても生きていなければならぬということを忘れないようにね。あの世に何があるか分かったものじゃない。苦しみがあるかも知れない。まるで何もないかも知れない。

夫人は，あの手紙は，告解師に強要されて書いたものであり，本当の気持ちではないことだったと告白し，ジュリアンの誤解を解いたのだ。 ある夜，彼は本気に自殺することを考えた。レナール夫人の出発以来の激しい不幸な気持ちで心は弱りきっている。現実の世界のことも空想の描くことも，何もかも魅力がなくなった。運動不足が健康を損ないはど め，ドイツの若い学生のような興奮しやすく弱い性格になりかけてきた。以前のように，不幸に陥っている人間を襲うさまざまの妄想を精力的な一喝で追い払ら，あの男性的な気位を失いつつあった。レナール夫人と別れてからずっと悩まされ，小胆に毒された耐え難い苦痛，それがいつ か憂鬱に変質してしまったのだ。だんだん外観にたぶらかされなくなる につれて，おれはパリのサロンはいずれもおれの父親のような堅気な人間，または今の囚人みたいな狡猾な悪漢でいっぱいだ，ということが解 るべきだった。あの囚人たちにも道理がある。社交界の人間は決して朝起きるときに，「今晚どうして飯を食おらか」などという痛切な問題を考 えないんだ。そして彼らは自分たちの廉潔を誇り，陪審員に任じられる と，飢えで倒れそうになってつい銀の食器を盗んだ男を，得々として処罰する。しかし，ここに宮廷があって，そこで一つの職を得るとか失う とかいった場合になると，その同じ廉潔の紳士方も，この囚人たちが飢 えのために犯したのとまったく同じ罪を犯すということになる。「おれは理性を失って無理なことを言っているようだ」とジュリアンは額をたた きながら思った。「おれはこの地下牢屋で孤独だが，しかし今まで地上に孤独で生きてきたのではない。おれは強い義務の観念をもっていた。そ

れが正しかったにせよ間違っていたにせよ，おれが自分に課していた義務は，嵐の中でしがみついていた頑丈な木の軒のようなものであった。 おれは動揺し，落ち着かなかった。要するに一個の人間に過ぎなかった のだから，だが，おれはその義務の軒から遠くへ吹き飛ばされることは なかった。おれをしきりと孤独を思わせるのは，この地下牢屋の湿っぽ い空気のせいだ。いや，偽善を呪詛しながらどうしてまだ心を偽る必要 があろう。おれを意気阻喪させるのは，死でもなければ，地下牢屋でも，湿つぽい空気でもない，夫人がここにいないことだ」彼は自分が愛して いたのは，ほかならぬレナール夫人 ${ }^{(1)}$ であったことに気づく。彼の愛情 の激しさはとうてい言葉をもつて表しがたいものだった。

黄金の力と，名人でかつ裕福な伯母さんの威力を濫用することによっ て，レナール夫人はジュリアンに一日に二度面会できる許可を得た。い ったんは，助命に傾きかけた趨勢であったが，彼はそれを自ら覆したの だ。「陪審員諸君，死に臨んでは今さらそのようなものを恐れまいと考え ていましたが，やはり侮辱されることがいやだから，ここに発言いたし ます。諸君，私は残念ながら，皆さんの階級に属する人間ではありませ ん。あなた方のお目に映る私は，おのれの卑しい身分に反抗して一介の百姓にすぎないのです。私は少しも幻想を持たずに，死が私を待ってい ることを知っています。私はあらゆる尊敬，あらゆる敬意にふさわしき婦人の命を害しようとした人間なのです。レナール夫人は私を母親のよ うにいたわってくださいました。私の犯罪は人非人のやりくちで，しか も計画的であったのです。だから，私は死刑に値します。 万が一私の罪 がより軽くあったにせよ，私は，私の少年時代が同情に値するものであ ったなどは考慮せずして，この私を見せしめに罰し，卑しい身分に生ま れながら，いわば貧困に苦しみつつも，やがて幸運によって立派な教育 を与えられ，進んで大胆にも富者が誇りをもつて社交界と呼んでいる世界にもぐりこもうとする青年どもを戒めようと思っている方々が，おら れることを私は知つているのです」つまり，自分の犯行が計画的 ${ }^{(2)}$ な も のであり，死刑に値することを述べたうえで，卑しい階級に生まれ，貧

[^20]困にいためつけられながらも，幸い立派な教育を受けることのできた青年たちが，社交界へ入ることを徹底的に阻止する偽善に満ちた社会の現状を暴露した。「おれは真理を愛したが，それはどこにあるか？どこもか しこも偽善ばかりで，一般行いの正しい人たち，最も立派な人たちでさ え，やっぱりいかさまをやっている。（彼の唇は激しい嫌悪の情で歪んで いた）いや，人間同士は信頼できるものじゃない」この発言が，ヴァル ノ氏などの陪審員の心証を害し，彼に死刑判決をもたらすのだった。彼 は憂鬱に，しかし腹は立てずにつけ足した。「世の中に自然法などという ものは決してない。そんな言葉はこのあいだおれを追及した検事の言い そうな旧世紀の無意味な言葉だ。あの男の先祖はルイ十四世時代の犯人 の財産没収のおかげで金持ちになったのだというが，法というものはあ る事をすれば罰するという法規があってこそ存在するのだ。法規存立前 には，自然というのはただライオンの腕力，若しくは飢えを感じている または寒さに震えている人間の欲求，つまり一言でいって欲求なのだ。 いわゆる名誉づらをしている人間は，まったく，現行犯で押さえられる ことを幸いに免れている悪党にすぎないのだ。社会が代表として送った おれの糾弾者も䎵ずべき行為で金を儲けた奴ではないか。おれは殺人を犯して政党の裁きを受けた。しかし，この事実だけを除けばおれを処刑 したヴァルノのやつのほうが百倍も社会にとって有害な男だ。おれの父親は，欲深な人だが，ああいうやつらよりはましだ。父親は一度もおれ を愛したことはない。おれはまたおれで，こんな死にざままでして父に不名誉の思いをさせ，さんざん迷惑をかけたわけだ。あの金のためのい らいらした心配，人間の性悪さを極端に誇張して考える見方，つまり呼 んで貪欲という性質だが，これがあったこそ父親はおれが残してやる三百ルイの金のなかに素晴らしい慰めと安心の動機を見出したのだ。いつ か日曜日の晚餐の後にでも，羡ましがるヴェリエールの町の連中に，そ の金を見せびらかして，断頭台にかかる息子を持つのも悪くないと思わ れるでしょう」断頭台にのぼる前に彼は，夫人に，「ずっと以前に，あの森を二人で散歩していたとき，私はずいぶん幸福になれたものを，あの ときは激しい野心が私の心を空想の国へいつも引っ張って行ったのです。私の唇のすぐそばにあったこの美しい可愛い二つの腕を胸にじっと押し当てることもしないで，未来のことばかり考え，あなたを忘れていた。

私はあの頃，偉く出世をするためにやらねばならぬ無数の闘争を心の中 でまじえていたのです。もし，あなたがこの牢屋に来てくれなかったら，私は幸福というものを知らずに死んでしまっただろう」と言った。また，夫人に生きながらえて，マチルドが産む子どもの世話をするという誓い を立てさせた。ジュリアンの方は，ただマチルドが来て邪魔をされる時々 をのぞいて，後はひたすら恋を楽しみ，行く先のこともほとんど考えず に日を送っていた。彼の恋心が激しく少しの偽りもまじえないときには，不思議な作用で，レナール夫人にまでその気持ちが反映して，彼と同じ ように一切の憂いを忘れ，晴れ晴れとなることがあった。最後に彼は，友人のフーケに，「分かるものか。死んだ後にだって，われわれにはなに か感覚があるかも知れないよ。おれはこの町を見下ろしている高い山の小さい洞窟，あそこで眠りたいと思う。幾度かこの洞窟のなかに夜こっ そりと隠れて，フランスの最も富んだ地方をはるか彼方に見渡すと，野心がおれの胸を燃やしたものだった。あの頃，それがおれの生きがいだ ったのだ。つまり，この洞窟はなつかしい。それにこの場所は，思索を愛する人間の心をそそるようにできている」と述べた。処刑は型どおり行なわれ，二十三歳のジュリアンは冷静にこれに臨んだ。彼の死後，マ チルドはアンリ四世の王妃マルグリッドのように彼の首 ${ }^{(1)}$ を理石の小 さなテーブルにのせて，その額にキスをした。そして彼女は，彼の首を大切に墓地に運び，自分の手で埋めたいと言い張った。こうして，ジュ ラ山脈の高峯の頂に達し，そこで無数の蝋燭の光にいみじくも照らされ た例の洞窟のなかで，真夜中に死者を戸うお勤めが，二十人の僧侶によ って営まれたのである。この葬列が通った山間の村落に住む人たちは， この不思議な葬式に引き寄せられてついて来た。人々の中に，マルチド は喪服に包まれて姿を現した。そして式の終わりには，数千枚の五フラ ン貨幣をばらまかせた。マチルドの計らいで，この荒れ果てた洞窟もイ タリアで高い費用をかけて彫らせた大理石によって飾られた。レナール夫人は，ジュリアンの死後三目目にこの世を去った。

注①：首を大理石のテーブルにのせて，キスをした。

## Chapter 1

## 注（1）：この地方で最も美しい町の一つに数えられていた。

The small town of Verrieres may be regarded as one of the most attractive in France．Its white houses with their high roofs of red tiles are spread over the slope of a hill，and the entire town is sheltered on the north by a high mountain．A torrent which comes tearing down from the mountain passes through town provides power for the numerous wood－cutting businesses in the area．No sooner has one entered the town than one is startled by the noise of a particular local factory，where enormous hammers transform little scraps of iron into nails．When asking the townspeople to whom it belongs，he is told：＇It belongs to the Mayor．＇

维里埃是法国最有吸引力的旅游胜地之一。白色的房屋点缀在小山坡上，高高的屋顶由红瓦砌成，整个小城北面都笼罩在一座高山下。一条激流从山上奔泻而下，流经维里埃镇，为当地众多的伐木厂提供动力。人们一走进这座小镇，就会被当地一个特殊的工厂发出的噪声惊呆，在那里巨大的铁锤把小片的碎铁锤成铁钉。当你问起当地市民这个工厂是谁的，他们就会告诉你：＂这是市长先生的。＂

## 注（2）：せわしげな，いかにも偉そうな様子の男である。

Provide the traveler halts for a few moments in the main street of town chances are that he will see a tall man appear，with a busy，important air．At the sight of him every hat is quickly raised．The visitor＇s first impression may be one of dignity．But soon this will change，ultimately resulting in the visitor feeling that this man＇s talent is confined to securing the exact payment of whatever is owed to him and to postponing payment till the last possible moment when he is the debtor．Such is the Mayor of town，Mr．de Renal．

如果旅行者在维里埃的稍作停留，很可能会看到一个高个子的男人，

神情勿勿，态度傲慢。一看到他，所有人都会马上脱帽致意。游客的第一印象是他很严肃。但这种印象很快就会改变，最后会认为他的才能不过就是赚钱。凡是别人欠他的钱，他就会一分不少地按时讨债，而他欠别人钱，能托就托，拖到最后。这就是维里埃市长德•莱纳先生。

## 注（3）：ベニヤ小屋の頑固一徹のソレル親爺。

The stubborn peasant，known as Sorel did not agree to the move unless he was paid handsomely．Mr．de Renal handed over a large sum of cash and the deal was sealed．Sorel become rather wealthy them and began to be known．

这个农夫叫索莱尔，顽固倔强，除非给他一笔可观的钱，他才同意搬走。德•莱纳先生支付了一大笔钱，才成交。索莱尔变成了暴发户，并在镇上小有名气。

## Chapter 2

## 注（1）：世間知らずではあるが，気立てのやさしい女性である。

This sudden decision plunged Madame de Renal deep in thought．She was a tall，well－made woman，who had been the beauty of the place．She was a simple soul，who had never risen even to the point of criticizing her husband， she supposed，without telling herself so，that between husband and wife there could be no more tender relations．She was especially fond of Mr．de Renal when he spoke to her of his plans for their children，one of whom he intended to place in the army，the second on the bench，and the third in the church．In short，she found Mr．de Renal a great deal less boring than any of the other men of her acquaintance．

这个突然的决定，使德•莱纳夫人陷入了沉思。她长得高挑而又均称，一直是当地的美人儿。她思想单纯，从来不会埋怨她的丈夫。她坚信，没

有夫妻比他们更亲密的了。每当他提及对孩子将来的时候，他想让老大当兵，让老二当法官，让老三当神父，她就觉得他特别可爱。总之，她觉得她丈夫与其他男人相比，是最令人快活的。

## 注（2）：彼は色白で小柄だったため，父や兄からばかにされた。

His cheeks were flushed，his eyes downcast．He was a slim youth of eighteen or nineteen，weak in appearance，with irregular but delicate features． His large dark eyes，at this moment，were filled with ferocious hatred．An object of contempt to the rest of the household，he hated his brothers and father；in the games on Sundays，on the public square，he was invariably beaten．It was only during the last year that his good looks had begun to win him a few supporters among the girls．Universally despised as a weak creature， Julien had adored his uncle，an old Surgeon Major．This surgeon used now and then to pay old Sorel＇s wage for his son，and taught him Latin and history．

Julien＇s great dark eyes，filled with tears，found themselves staring into the little grey eyes of the old peasant，who looked as though he sought to penetrate to the depths of his son＇s heart．Presently Julien thought to himself， ＇I must give up all that，rather than let myself be force me；I would sooner die． I have saved fifteen francs．I shall run away tonight；in two days，by keeping to side roads where I need not fear the police，I can enlist as a soldier，and，if necessary，cross the border into Switzerland．But then，good－bye to everything，good－bye to that fine priestly profession which is a stepping stone to everything．＇

于连脸色通红，两眼低垂。他是个 18 岁的弱小青年，看起来很虚弱，但不同寻常，长得很精致。他那双又大又黑的眼睛，时时流露出一股强烈的憎恨。在他们家，他经常被家人欺负。他恨他的父亲和两个哥哥，礼拜天在广场上玩要时，他总是挨打。从去年起，他那张漂亮的脸开始赢得了一些姑娘的青睐。于连受到众人的轻荗，然而他很崇拜他的叔叔，老军医。他为了于连，经常给他爸爸汇钱，并教他拉丁文和历史。

于连的眼睛又大又黑，泪水汪汪，正对视着老农民那双灰色的小眼睛，

而这个老农民似乎想看透他儿子的心事。于连心想：＂我必须放弃所有的一切，也不能让自己沦落到和佣人一起吃饭的地步。我父亲会强迫我，那我马上就死。我已经存了 15 个法郎，今天晚上我就逃走；走小路，我就不用担心碰上警察，两天后，我就可以入伍当兵了，如果有必要的话，就越过边境去瑞士。不过，这样一来，一切都砸了，想当神父的理想也只好放弃了，这可是成功的敲门砖啊！＂

## 注（3）：その矜持の高さと美しい眼に引き込まれた。

Madame de Renal was coming out through the glass door which opened from the drawing room into the garden，when she saw，standing by the front door，a young peasant，almost a boy still，extremely pale and showing traces recent tears．She felt sorry for the poor creature，and had come to a standstill by the front door，and evidently could not summon up courage to ring the bell．

Julien，who was facing the door，did not see her approach．He trembled when a pleasant voice sounded close to his ear：＇What have you come for，my boy？＇Julien turned sharply round，and，struck by the charm of Madame de Renal，forgot part of his shyness．A moment later，amazed by her beauty，he forgot everything，even his purpose in coming．

Madame de Renal had repeated her question．＇I have come to be tutor， Madame．＇Madame de Renal looked at the large tears which lingered on the cheeks of this young peasant．Presently she burst out laughing，with all the wild joy of a girl，she was laughing at herself，and trying in vain to realize the full extent of her happiness．The contrast between her fears and what she now saw before her was a great event．＇Let us go indoors，Sir，＇she said to him with an air of distinct embarrassment．

德•莱纳夫人从客厅通往花园的玻璃大门中走出来时，她看到了门口站着一个年轻的乡下人，他几乎还是个孩子，脸色苍白，脸上还有刚哭过的泪痕。她很同情这个可怜的小家伙，看来他显然是没有勇气按门铃。

于连正面朝着大门，所以没有看到她过来。当一个悦耳的声音在他耳边响起时，他浑身发抖。＂你来这儿做什么，我的孩子？＂于连猛地转过身

来，夫人的表情打动了他，使他不再那么胆怯。很快，他被她的美貌所吸引，什么都记不起来，甚至忘了他来这里的目的。

夫人又重复问。＂我是来当家庭教师的，夫人。＂看到这个年轻的乡下人脸上还残留着大颗泪珠，夫人马上笑了起来，就像快乐的小姑娘一般。她在笑她自己，想把自己全部的快乐表现出来，但却失败了。因为她的担忧和眼前看到的一切竟然有如此大的反差。＂我们进屋去吧，先生，＂她对他说，她明显带有一些滥尬。

## Chapter 3

## 注（1）：ナポレオンの崇拝者であった。

All at once，he ceased to speak of Napoleon，whose name was quite dangerous to speak，announced his intention of becoming a priest，and was constantly to be seen，in his father＇s mill，engaged in learning by heart a Latin Bible which the priest had lent him．The good old man，amazed at his progress，devoted whole evenings to instructing him in religion．Who could have supposed that girlish face of Julien＇s，so pale and gentle，hid the unshakeable determination to expose himself to the risk of a thousand deaths than fail to make his fortune？

To Julien，making a fortune meant，in the first place，leaving Verrieres； he hated his native place．From his earliest boyhood，he dreamed that one day he would be introduced to the beautiful ladies of Paris；he managed to attract their attention by some brilliant action．For many years now，perhaps not an hour of his life had passed without his reminding himself master of the world with his sword．

The building of the church and the sentences passed by the Justice brought Julien sudden enlightenment；an idea which occurred to him drove him almost out of his senses for some weeks．＇The days of military might and respect are gone．Priests in these times make more than the average military man．I must become a priest．＇

他突然缄口不谈，谈拿破仑太危险了，他改口说要成为一名神父。人们经常看到于连在他父亲的工厂里，认真地背诵着神父借给他的那本拉丁文的《圣经》。那个善良的老年人，对他的进步颇为惊叹，把整个晚上都用来教他圣经。有谁能够想到一个像女孩儿似的，苍白而温柔的脸庞之下，居然隐藏着可动摇的决心，宁可死一千次也要赚大钱。

对于他来说，赚大钱首先就意味着离开维里埃，他恨透了他的出生地。自幼年起，他就梦想着有朝一日认识巴黎的漂亮女人，那样他就会有机会吸引她们。多年以来，他一直在提醒自己：波拿巴，一个默默无闻又没有财产的人，凭着他的剑主宰了整个世界。

看到新建立的教堂，法官的威严，这使他恍然大悟。脑子里闪现一个念头，几乎使他神经错乱。崇尚武力的时代已经过去，如今，神父比军人赚得多，所以我必须成为神父。

## Chapter 4

## 注（1）：抜群の記憶力で，ラテン語を教えていた。

With his fiery nature，Julien had one of those astonishing memories so often found in foolish people．To win over the old priest Chelan，whom he saw quite clearly that his own future depended，he had learned by heart the entire Bible in Latin．

于连有一颗火热的心，还有一种常常与愚䗞相伴的惊人的记忆力。他很清楚他的前途依仗在年老神父谢朗。为了赢得神父的欢心，他居然把拉丁文圣经全都背了下来。

## 注（2）：彼になついたが，彼のほうは愛情がもてなかった。

The children adored him，but he did not care for them；his thoughts were elsewhere．Cold，just，and at the same time loved，because his coming had，in a measure，removed dullness from the house，he was a good tutor．For his part， he felt only hatred and horror for the high society in which he was allowed to
occupy the very foot of the table．

尽管孩子们崇拜他，他却不喜欢他们，因为他的心思在别处。他受人冷落，不过同时也受人爱戴，他的到来在某种程度上赶走了这个家的阴影，他是一个好家庭教师。但他对上流社会只有仇恨，因为在上流社会里，他只能坐在餐桌的最末端。

## 注（3）：上流社会に対する憎しみと嫌悪を抱く。

There were certain formal dinners at which he could barely contain his hatred of everything round about him．On Saint Louis＇s day in particular，Mr． Valenod was laying down law at Mr．de Renal；Julien almost gave himself away；he escaped into the garden，saying that he must look after the children． ＇Show respect to that man who obviously has doubled and tripled his fortune since he has been in charge of the relief of the poor？Ha！What monsters！＇

在某些正式的宴会上，他几乎不能克制对周围的仇恨。特别是圣路易节日那天，瓦勒诺先生在德•莱纳先生家里发号施令时，他几乎露出了破绽。他借口去照顾孩子们，逃到花园里去了。难道我还要去尊重一个用穷人的福利金养肥自己的人吗？财产居然增加了两三倍？啊！他们简直就是恶魔！

## 注（4）：エリザは，彼の世話をしているうちに恋心が芽生えた。

Elisa，is maid of Madame de Renal，had not failed to fall in with the young tutor．Madame de Renal observed that Julien was speaking more often than before to Miss Elisa；she learned that these conversations were due to the limitations of his extremely small wardrobe．He had so scanty a supply of linen that he was obliged to send it out constantly to be washed，and it was in performing these little services that Elisa made herself useful to him．

The maid，Elisa，received a legacy and then announced to Madame de Renal and to the priest，Mr．Chelan，her intention to marry Julien．How ever，
informed the priest with a resolute air that Miss Elisa＇s offer could not be accepted．

女佣人爱丽莎，爱上了这位年轻的家庭教师。夫人发现他和爱丽莎的谈话比往常多了，她得知，这只是因为他的衣服太少的缘故。他衣服少的可怜，所以不得不经常送到洗衣店去洗。在这些事情上，爱丽莎经常帮他。

后来，佣人爱丽莎得到了一笔遗产之后，就跟夫人和神父讲了想跟于连结婚的想法，但是于连断然拒绝了爱丽莎的求婚。

## Chapter 5

## 注（1）：夫人は彼に恋している自分に気づくのであった。

Madame de Renal was one of those women to be found in the provinces， one may easily take to be fools until one has known them for a fortnight．She had no experience of life，and made no effort at conversation．Until Julien arrived，she had really paid no attention to anyone but her children．She imagined that all men resembled her husband and Mr．Valenod．Coarse wit and the most brutal insensibility to everything that did not promise money， promotion or a medal，a blind hatred of every argument that went against them seemed to her to be things natural to the male sex．After many long years，Madame de Renal had not yet grown accustomed to these money－hungry creatures among she had to live．

Since the little peasant Julien came．She found much pleasant enjoyment， radiant with the charm of novelty，on the sympathy of this proud and noble spirit．Generosity，nobility of soul，humanity，seemed to her，after a time，to exist only in this young man．Madame de Renal，the wealthy heiress of a religious aunt，married at sixteen to a worthy gentleman，had never in her life felt or seen anything that bore the faintest resemblance to love．Thanks to this ignorance，Madame de Renal，entirely happy，occupied incessantly with the thought of Julien，was far from reproaching herself in the slightest degree．

Madame de Renal believed herself to have fallen ill；a sort of fever
prevented her enjoying any sleep；she was alive only when she had her maid or Julien before her eyes．She could think of nothing but them and the happiness they would find in their married life．

有些外省女人，和她们在相识的头两个星期里很容易把她们当成傻瓜，德•莱纳夫人就是这样一个女人。她毫无人生经验，沉默寡言。于连来之前，她的注意力全部集中在孩子们身上。她认为，所有的男人都和她的丈夫类似。他们智商低，无情地漠视对金钱，升职和奖状无关的事情，盲目的仇恨所有反对意见。在她看来，这些事对男性来说，都是自然的。夫人虽然不喜欢嗜钱如命的人，然而她又不得不生活在他们中间。

自从这个小农民到来之后，她发现了很多乐趣，洋溢着新奇的魅力。过了一段时间之后，在她眼里，慷慨，灵魂的高尚，以及仁慈似乎都只存在与这个年轻人身上。夫人是她姑母的财产继承人， 16 岁时就嫁给了这位绅士。从那以后，她从未体验过恋爱的感觉。幸亏她对爱情一无所知，所以才感到幸福，她不断去关心于连，却绝对不会有半点自责。

夫人自以为她生病了，发烧让她根本无法入睡。只有看到于连在眼前时，她才有精神。她不能接着想下去，因为脑子里闪现的尽是他们两个以及他们婚后的幸福生活。

## 注（2）：昆虫採集を通じて，二人は次第に親密になっていく。

Soon，with the first fine days of spring，Mr．de Renal removed his household to the country；a picturesque little village where he owned an old castle．The country scene appeared to come as a novelty to Madame de Renal． The feeling that filled her gave her a new spirit and determination．On the second day after their removal to the country，Mr．de Renal having returned to town upon some official business，his wife spent her days running about the orchard with her children，and chasing butterflies，Julien read to her the strange habits of these insects from a book she had ordered from Besancon．

And，at last，Madame de Renal and Julien had a subject for conversation； he was no longer exposed to the frightful torture inflicted on him by intervals of silence．They conversed incessantly，and with extreme interest，although
always of the most innocent things．This life，active，occupied and cheerful， suited everyone，except Miss Elisa，who found herself worked to death．Even when there is a party at Verrieres，she said，＇Madame has never taken so， much trouble over her dress；she changes her clothes two or three times a day．＇

不久，迎来春天的晴朗天气，德•莱纳先生一家就移居到小村庄。那是一个风景如画的小村庄。德•莱纳先生在那里拥有一座古城堡。乡村的景色对夫人来说是新奇的，心中涌动的情感赋予了她新的活力。在他们搬到维尼小村庄的第二天，先生就返回城里处理公务了。夫人则天天和孩子们在果园里到处奔跑，抓蝴蝶。于连读完新买来的书，给他们讲这些昆虫的奇特习性。

最后，夫人和他之间总算有了一些话题，他们不再遭受沉默带给他们的可怕折磨。他们不停地交谈，而且越谈越起劲，虽然谈的都是些日常无聊的琐事。但是这种气氛，忙碌而又愉快的生活，使每个人都很开心，除了爱丽莎小姐，她发现自己要忙死了。她说，在维里埃，就算是有聚会，夫人穿衣服也从来没有这么麻烦过，现在她每天要换两三次衣服。

## 注（3）：彼女の手を握るが，それは義務を果した喜びだった。

When he saw Madame de Renal again，the next day，he decided that it was absolutely essential that this evening she should allow her hand to remain in his．Night fell．At last they sat down，Madame de Renal next to Julien． Preoccupied with the attempt he must shortly make，he could think of nothing to say．The conversation suffered．

The violence of the effort which he had to make to control his voice was entirely altered；presently，her voice became shaky also，but he never noticed this．The quarter before ten had sounded from the tower clock．Julien， ashamed of his cowardice，told himself：＇At the precise moment when ten o＇clock strikes，I shall carry out my intention，or I shall go up to my room and blow my brains out．＇

After a final interval of tension and anxiety，the strokes of ten sounded


第二天，当他碰到夫人的时候，他决定今天晚上无论如何一定要牵到她的手，这是绝对有必要的，不能再耽搁。夜幕降临了，他们一起坐了下来。夫人坐在他的身边。因为他一心想着今晚要做的事，竟然想不出话题，使他们的谈话陷入尴尬的局面。

于连不得不尽最大的努力来克制自己，但即使努力也很难克制，致使他的声音都变了。过了不久，夫人的声音也颤抖起来，但是于连根本没有注意到。城堡的时钟刚刚敲过了九点三刻，他对自己的懦弱感到羞愧，于是对自己说：＂十点的钟声一响，我就实施计划，否则我就回到自己的房间把自己的头撞破。＂

当紧张和焦虑的时刻过去之后，头顶上的钟开始敲响十点，每一个钟声都会在他的心中回荡一次。直到最后致命的钟声回荡在空中时，他伸出了他的手，抓住了夫人的手。但是，她马上把手缩了回去。他自己也不清楚究竟在做什么，他重新又抓住了她的手，他用力按住她的手，免得她再收回她的手。她最后又一次试想收回去，但已经为时过晚。他的心被欢乐淹没了，不过，这不是因为他爱夫人，而是因为可怕的折磨终于结束了。

## 注（4）：子どもたちを半日ほったらかしておいた。

That night，happiness robbed Madame de Renal of sleep；while a sleep like lead carried off Julien，utterly worn out by the battle that had been raging all day in his heart between shyness and pride．The next morning，he spent reading his book，thinking not at all of Madame de Renal．It was only at lunch time and in passing that the careless thought came to him：＇I must tell this
woman that I love her．＇
Instead of that gaze charged with passion which he expected to meet，he found the stern face of Mr．de Renal，who，having arrived a couple of hours earlier from Verrieres，did not conceal his displeasure on finding that Julien was wasting the whole morning without attending to the children．He was still so absorbed with the great events he had been reading about in his book，that he could hardly pay attention to the voice of Mr．de Renal．

The only thing that prevented the Mayor from dismissing the young man then and there was the thought that Valenod may take him on，or else the boy will marry Elisa，and，in either case，he could afford to laugh at him in his heart．

那天晚上，幸福使夫人难以入眠。而于连却睡得很熟，胆怯和自尊在他心中交战了整整一天，使他已经筋疲力尽。第二天，他读了一上午的书，把夫人抛到九霄云外。只有在午饭时间和走路经过的时候，他才有了一个草率的想法，我必须告诉这个女人，我爱她。

他原以为马上会看到含情脉脉的目光，但是不料迎接他的却是德•莱纳先生那张严厉的面孔。他从维里埃回来，发现他一上午都没有照顾孩子们，毫不客气批评于连。他还沉浸在刚刚读过的书中所描写的故事情节中，几乎没有注意去听先生说的话。

此时此刻，唯一让市长先生没有辞退于连的理由就是怕瓦勒诺先生雇佣他，或者于连会跟爱丽莎结婚，不管怎样，他都会从心底里嘲笑他。

## 注（5）：夫人は落ち着いた生活をすることができなかった。

As she watched him go，her eldest son came running up from the other end of the garden，saying：＇We have a holiday．Mr．Julien is going on a journey．＇At these words，Madame de Renal felt herself frozen by a deadly chill；she was unhappy in her virtue，and still in her weakness．This latest development now occupied the whole of her imagination．It was a question no longer of resisting this charming lover，but of losing him forever．

During Julien＇s absence，life had been for Madame de Renal nothing
more than a succession of torments，each different but all alike intolerable； she was really ill．

第二天，当她看着他离开的时候，她的大儿子从公园的另一边跑过来说：＂我们放假了，于连先生旅行去了。＂听到这些话，夫人感到自己的身体死一般的冰凉，僵硬了。她的贞洁感给她带来了不快，她的软弱却给她带来了更大的不快。现在对他的思念占据了她的全部，问题已经不是抵制这个小情人，而是她将永远失去他了。

于连不在的日子里，对夫人来说，生活只不过就是一连串的折磨，每种折磨方式虽不一样，但是却都同样地无法忍受；她真的是病了。

## Chapter 6

## 注（1）：今夜二時にお部屋へまいります。 ぜひお話したいのです。

Towards evening，a ridiculous idea occurred to him，and he imparted it to Madame de Renal with a rare courage．No sooner had they sat down in the garden than，without waiting for a sufficient cloak of darkness，Julien put his lips to her ear，and，at the risk of compromising her horribly，said to her： ＇Tonight，Madame，at two o＇clock，I am coming to your room，I have something to say to you．＇

That night＇I told her that I should come to her at two o＇clock，＇he said to himself as he rose；＇I may be inexperienced and coarse，but I will not be week．＇He went to listen at his door，through which he could hear him snoring． This dismayed him．He had no longer any excuse for not going to her．But， great God！What should he do when he got there？He had no plan，and even if he had one，he was in such distress of mind that he would not have been in a fit state to put it into practice．Finally，with an extreme anguish，he entered the little corridor that led to her room．He opened the door with a trembling hand，making a fearful noise as he did so．

Some hours later，when he emerged from her room，one might have said， in the language of romance，that there was nothing more left for him to wish．

In mortal terror at the apparition of Julien，Madame de Renal was soon a prey to the cruelest alarms．His tears and despair distressed her greatly，Indeed， when she had no longer anything to refuse him，she thrust him from her，with genuine indignation，and then flung herself into his arms．No purpose was apparent in all this behavior．She thought herself damned and sought to shut out the vision of hell by showering the most passionate caresses on him．
＇The heavens，is to be happy，to be loved，no more than that？＇Such was Julien＇s first thought on his return to his own room，He was in that state of astonishment and uneasy misgivings into which a heart falls when it has just obtained what it has long desired．

那天晚上，他突然想到一个荒谬的主意，并拿出很大的勇气告诉了夫人。他们在花园里坐着，还没有等天黑下来，于连就把嘴贴到夫人的耳边，不顾名声，对她说：＂夫人，今天晚上两点，到您房间去，我有话跟您讲。＂

夜里，他一边站起来，一边自言自语道：＂也许我经验不足，也许我很庸俗，但是我绝不会懦弱。＂他先来到先生的房门前，听到他在打鼾。这使他感到更不安，因为他没有借口退缩了。但是，上帝啊！进去之后能做什么呢？他没有任何计划，即使有，他现在如此紧张不安，这样糟糕的心态是无法实施计划的。最后，他万分痛苦地走进了通往夫人房间的走廊。他用颤抖的手推开了房门，那房门发出了可怕的响声。

几个小时之后，于连从夫人的房间出来了。人们也许会说，就＂浪漫＂这个词而言，于连已经别无所求了。他的出现，使夫人极度恐惧。于连的泪水和绝望让她心碎。实际上，当她不再拒绝任何要求时，她也曾真正愤怒地把他推得远远的。但是，她又主动投怀送抱。所有这些行为中都没有明显的目的。她认为自己罪该万死，为了减轻罪恶感，她对他倾注了所有的爱抚。

上帝！这就是幸福，没有比被人爱更幸福？这是涌到他心上的第一个念头。他感到惊奇，不安，忧虑，这就是一个人在得到了最渴望的东西后常有的心态。

## 注（2）：彼は次第に夫人のひたむきな愛情にひかれる。

When he saw Madame de Renal at lunch the next day，his behavior was a miracle of prudence．As for her，she could not look at him without blushing to the whites of her eyes，and could not live for an instant without looking at him．

The said husband had noticed nothing；Madame de Renal trembled at the thought that he might not come that night．She left the garden early，and went up to wait in her room．But，beside herself with impatience，she rose and went to glue her ear to Julien＇s door．Despite the uncertainty and passion that were devouring her，she did not dare enter．

The servants were not all in bed．Prudence obliged her finally to return to her own room．Two hours of waiting were two centuries of torment．As one o＇clock struck，he slipped quietly from his room，made sure that the master of the house was sound asleep，and appeared before Madame de Renal．On this occasion，he found greater happiness with his mistress for he was less continually thinking of the part he had to play．

In a few days，he was madly in love．But his love was still founded in ambition：it was the joy of possessing，a poor creature so unfortunate and so despised，so noble and beautiful a woman．

第二天，当于连吃午饭看到夫人时，他的行为谨慎的令人惊奇。而对她来说，她一见他，就满脸通红，一直红到白眼球。她不看他，却又一秒钟也活不下去。

对这一切，这个丈夫丝毫没有察觉，夫人一想到于连今夜来不了她的房间就浑身颤抖。她早早地离开花园，回到房间。但是，她急躁不安，就起来跑到于连的房间门口，把耳朵贴在门上听他在不在。疑虑和情欲吞噬着她，可她还是不敢进他的屋。

并不是所有的佣人们都睡着了，谨慎终于迫使她回到自己的房间里，但是两个小时的等待居然就是两个世纪的折磨。一点的钟声敲响了，于连悄悄地溜出自己的房门，确信主人已经睡着了，就来到夫人面前。这一次，他在他的女主人这里得到了更大的幸福，因为他不用再苦苦地考虑扮演什

么角色了。
几天来，他疯狂地沉醉在爱河之中。但是他的爱仍旧是由野心点燃的，这是一种占有的喜悦，一个不幸的，遭人蒇视的可怜虫，居然占有了如此高贵，如此美貌的女人。

## 注（3）：野心を忘れて彼女を愛するようになっていく。

Madame de Renal shed a few tears at her husband departure，and soon it seemed to her that her happiness was doubled．By the withdrawal of her husband she found herself left alone with her lover almost all day long．He gave himself all the more readily to the pleasant society of his mistress．In the first days of this new life，there were moments when he，who had never loved，who had never been loved by anyone，found so exquisite a pleasure in being sincere，that he was on the point of confessing to Madame de Renal the ambition which until then had been the very essence of his existence．
＇Ah！＇cried Julien one evening，＇Napoleon，indeed，the man sent by God to help the youth of France！Who is to take his place？What will the poor do without him，even those who are richer than I，but haven＇t enough money launch themselves in a career！＇He saw Madame de Renal frown suddenly；she assumed a cold，disdainful air；this line of thought seemed to her worthy of a servant．Brought up in the idea that she was extremely rich，it seemed to her a thing to be taken for granted that he was also，She loved Julien a thousand times more than life itself，and money to her meant nothing．

His revelations about the world，brought forth by Madame de Renal， changed the nature of the sentiment that united him to her．His love was no longer merely admiration of her beauty，pride in the possession of her．Their joy was，from then on，of a far higher nature，the flame that devoured them was more intense．Their happiness would have seemed great in the eyes of other people．The days passed for them with lightning rapidity．Julien lost the habit of reflection．

夫人在丈夫离开时，掉了几滴眼泪，但是马上感觉到她的幸福在成倍

的增长。丈夫的离开，使她发现，自己几乎整天单独地跟情人在一起。于连更是全身心地沉浸在他情妇的温柔的怀抱里。在新生活刚开始的头几天里，他这样一个从未爱过，也从未被爱过的人，时不时地发现真诚是一种多么美妙的快乐！他几乎忘乎所以，差一点向夫人吐露真情，告诉他的野心，那是迄今为止他赖以生存的全部。

有一天晚上，他叫到，＂拿破仑是上帝派来拯救法国青年的！谁会取代他的位置呢？没有他，穷人们会怎么样呢？即使是那些比我有钱的人们，也没有足够的钱找到一个好职业。＂他看到夫人突然皱了皱眉，她还流露出一种冷冰冰的，荗视的神情。在她看来，这种想法仅仅是佣人们该有的。从小到大，她一直认为她很富有，就理所当然地认为他也跟她一样富有。她爱他胜过爱她自己，钱，在她眼中，却什么都不是。

夫人给于连带来了对世界的新的启示，这改变了把他和他女主人结合在一起的情感的本质。他对她的爱情不再仅仅是倾倒在她的美丽和占有她的那份骄傲了。从那时起，他们的快乐具有了一种更加崇高的性质。吞噬他们的爱情烈火也燃烧的更加旺盛。在别人眼中，看起来他们幸福无比。在他们看来，日子过得像闪电一样快，他也不再有思考的习惯。

## Chapter 7

## 注（1）：夫人に言い寄っていたものの，相手にされなかった。

This woman，Madame de Renal，the most distinguished in the place，Mr． Valenod，whom for six years he had surrounded with every attention，and， unluckily，before the eyes of all the world；this proudest of women，whose disdain had so often made him blush，had taken an her lover a little journeyman dressed up as a tutor．

这个女人，德•莱纳夫人，本地最高贵的女人，六年来，瓦勒诺先生一直向她献殷勤，而且不幸的是，大家对此有目共睹。而这个如此高傲的女人，她的荗视经常让他面红耳赤，现在居然找了一个伪装成家庭教师的年轻工匠当情人。

## 注（2）：レーナル氏宛てに匿名の手紙を送った。

That same evening，Mr．de Renal received from the town，with his newspaper，a long anonymous letter which informed him in the fullest detail of all that was going on under his roof．He saw him turn pale as he read this letter，which was written on blue paper，and cast angry glances at Julien．For the rest of the evening the Mayor never recovered his peace of mind．As they left the drawing room about midnight，he found time to say to his mistress： ＇Do not let us meet tonight，your husband has suspicions；I would swear that long letter he was reading with such displeasure is an anonymous one．＇

当天晚上，先生收到从城里寄来的报纸，同时还收到一封匿名信。这封信把他家里所发生的一切，如实地告诉了他。于连看到先生读这封蓝色纸张的信时，脸色变得苍白，并且恶狠狠地盯着于连看了几眼。整个晚上，市长一直烦躁不安。午夜时分，当他们离开客厅时，于连找到机会对他的女主人说：＂今晚我们不要见面，你的丈夫起了疑心。我可以断言，他那么不开心地读那封长信，那肯定是一封匿名信。＂

## 注（3）：手紙はヴァルノ氏による中傷であると夫に思いこませる。

The whole purpose of my scheme is to make my husband think that the letter comes from Mr．Valenod；I have no doubt that he is its author．If you leave the house，do not fail to go and establish yourself at Verrieres．Make friends with everyone，even the Liberals．Do not go and quarrel with Mr． Valenod．The essential thing is that it should be known throughout town that you are going to Valenod＇s，or to some other house，for the children＇s education．

That is what my husband will never stand．Should he resign himself to it， well，at least you will be living in this town，and I shall see you sometimes． Well，you understand what you must do；be gentle，polite，never contemptuous with these vulgar people，they are to decide our destiny．Doubt not for a moment that my husband in dealing with you will conform to whatever public
opinion may prescribe．
It is you that are going to provide me with this anonymous letter；arm yourself with patience and a pair of scissors．Cut out of a book the words you will see below；past them together with glue on the sheet of blue paper that I send you；it came to me from Mr．Valenod．

Here is what you ought to write：MADAME，All your little goings on we are known；but the persons to whose interest it is to check them have been warned．From a lingering affection for yourself，I beg you to detach yourself entirely from the little peasant．If you have the wisdom to do this，your husband will believe that the warning he has received was misleading，and he will be left in his error．Bear in mind that $I$ know your secret；tremble， unhappy woman；from now on you must tread a straight path，driven by me．

我的目的就是让我丈夫相信那封信是瓦勒诺先生写的，我确定那封信是就是他写的。如果你离开这里，一定要住在维里埃。要广交朋友，甚至跟那些自由党人士。不要去跟瓦勒诺先生吵架，最重要的是，你要让全维里埃的人知道，你将会到瓦勒诺先生或者其他什么人家，当家庭教师。

这是我丈夫所不能容忍的。如果他甘心忍受了，那么，至少你会在维里埃，有时间，我会去看你。你知道你应该怎么做了吧！温和一些，礼貌一些，不要鄙视那些粗俗的人，他们决定我们的命运。请不要有任何怀疑，我的丈夫将会按照公众舆论来对待你。

你必须写好这封匿名信给我。请耐心点，准备一把剪刀，把你看到的字从一本书上剪下来，用胶水把它们粘在这张蓝色的纸张上，这纸张是从瓦勒诺先生那里得来的。

夫人，你所玩的那些小伎俩都已经被人识破。但是，那些想制止的人已经受到警告。由于我对你还有一丝爱意，所以请求你断绝和那个小农民的来往。如果你很明智地这么做，你的丈夫将会认为他所收到的那个警告欺骗了他，这样就让他继续错下去。记住，我知道你的秘密；发抖吧，不幸的女人；从现在起，你必须按照我所说的做。

注（4）：レーナル氏に気づかれ，危ういところを助かった。
＇I can surprise that young peasant with my wife，and kill the pair of them；in that event，the tragic outcome of my misfortune may perhaps make it less absurd．，This idea appealed to him：he worked it out in the fullest detail． ＇The law system is on my side，and，whatever happens，our Congregation and my friends on the jury will save me．＇He examined his hunting knife，which had a sharp blade；but the thought of blood frightened him．＇If I do not kill my wife，if I drive her form the house，she has her aunt at Besancon，who will hand over the whole of her fortune to her on the quiet．My wife will go and live in Paris with Julien；Verrieres will hear of it，and I shall be regarded as a fool．＇After so many hours of thinking while walking on his garden，he came upon that wife whom he would have liked to see dead．
＇Do you wish to create a scandal that will dishonor me and yourself as well？You＇ll be giving a fine treat to many people in town．True，they are jealous of you．Oh，that young man no manners，＇went on Madame de Renal； ＇I have never had any opinion of him since he refused to marry Elisa，it was a fortune ready made；and because now and again she pays a secret visit to Mr ． Valenod．＇＇Ah！＇said Mr．de Renal，＇I knew nothing about these visits！There are things going on in my house of which I know nothing．What！There has been something between Elisa and Valenod？＇＇Oh，that＇s an old story，my dear friend，＇Madame de Renal said laughing，＇It was in the days when your good friend Valenod would not have been sorry to have it thought in town that there was a little love exchanged between him and me．＇
＂我可以当场抓住那个年轻乡下人和我妻子，然后把他们统统杀掉。如果那样的话，悲剧就没这么荒唐。＂这个想法正合他的意，他设计出了种种的细节。＂法律也会站在我这一边的，不管发生了什么，我们的圣会和陪审团的朋友们都会救我的。＂他仔细检查了他的猎刀，刀口很锋利，但是一想到血，他就感到害怕。＂如果我不杀我妻子，赶出家门，她的姑妈就会把所有的财产秘密地移交给她。然后，她将和于连住在巴黎生活，维里埃的人们将会听到这一切，而我被认为是俊瓜。＂他一边走，一边思考。几小时

过去了，他遇见了妻子。他想，宁愿看到她已经死了。
＂你想制造一个丑闻，让我们去丢脸吗？这样的话，正合维里埃很多人的胃口。＂夫人继续说道：＂是的，他们都很嫉妒你。啊！那个年轻人一点规矩也没有。自从他拒绝娶爱丽莎之后，我就对他没有好印象。这可是一笔已经到手的财富啊！啊，他还说，这全都是因为爱丽莎经常和瓦勒诺先生偷偷约会造成的。＂＂哦？＂先生说：＂我对这些一无所知，在我家里居然还有我不知道的事情。怎么？爱丽莎和瓦勒诺之间有什么关系吗？＂夫人笑着回答说：＂啊，我亲爱的朋友，这是个老掉牙的故事了。瓦勒诺正希望，维里埃的人们也认为他和我之间有过短暂的爱情故事。＂

## 注（5）：マチルドは，すぐれた美貌と才能に恵まれていた。

In course of time his conversations with this girl，whose manner was at once so imposing and so easy，became more interesting．He found her learned and indeed rational．Her opinions in the garden differed widely from those which she maintained in the drawing room．He became so comfortable with her，that he admitted his love of Napoleon．Something he never revealed to anyone．Less than a month later，Julien was strolling in the garden．He had just come from the door of the drawing room to which he had escorted Miss de La Mole，who pretended that she had hurt her foot when running with her brother．＇She is damned pretty！＇he went on，with the glare of a tiger．＇I will have her，I shall then depart and pity to him that impedes me in my flight！＇

随着时间的流逝，他们之间的谈话变得越来越投机。德•拉莫尔小姐即使人难忘，平易近人。他发现她不仅博学，而且很有理性。她在花园和客厅里说的话截然不同。他跟她在一起感觉自在，甚至向她坦白了他对拿破仑的崇拜，而这是对任何人都不能讲的。后来不到一个月，于连在花园里散步，他刚从客厅那边过来。小姐和她哥哥跑步时，假装扭伤了脚，于连刚好把她送到房间。＂她太漂亮了！＂于连接着想，像老虎一样盯着她。 ＂我要得到她，然后跟她分手。谁阻止我追求她，谁就会不幸！＂

## Chapter 8

## 注（1）：自分の子を身ごもると，彼はさらに野心を燃やす。

Very soon，Mathilde became occupied by the sincere resistance with which our hero received a number of her ideas；she thought about him；she reported to her cousin the pettiest details of their conversations，and found that she could never succeed in displaying them in every aspect．Suddenly an idea dawned upon her：＇I have the good fortune to be in love，I am in love，it is quite clear！，she told herself one day，with an indescribable transport of joy．She turned over in her mind，＇What he lacks，name and fortune？He would make a name for himself，he would acquire a fortune．＇There is already something grand and bold in daring to love a man placed so far beneath me in social position．Let me see；will he continue to deserve me？At the first sign of weakness that I observe in him，I abandon him．

At five o＇clock，Julien received a third letter；it was flung at him from the library door．Mademoiselle de La Mole again fled．＇I have to speak to you． I must speak to you，tonight；when one o＇clock strikes，be in the garden．Take the gardener＇s long ladder from beside the well；place it against my window and come up to my room，There is a moon；no matter．＇He went to fetch the huge ladder and at five minutes past one placed the ladder against her window． He climbed quietly，pistol in hand，astonished not to find himself was attacked．As he reached the window，she opened it silently：And then quickly took her into his arms．She only half struggled．He was astonished at the absence of happiness that he found in himself．This was not，it is true，that spiritual ecstasy which he had found at times in the company of Madame de Renal．What he felt was the keenest gratification of his ambition，and Julian was above all things ambitious．

She had made up her mind that if he ventured to come to her with the aid of the gardener＇s ladder，as she had bidden him，she would give herself to him． But never were things so tender said in a colder and more formal tone．So far， their intercourse was icy．It was enough to make one hate the thought of love．
 that she was performing a duty towards herself and towards her lover．In the morning，she accompanied her mother to mass，the maids soon left the apartment，and Julien，who was hidden deep inside her wardrobe，easily made his escape before they returned to complete their labors．He thought，＇the tale of my adventures is finished，and the credit is all mine．I have contrived to make myself loved by this monster of pride，＇he added，looking at her；＇her father cannot live without her，nor she without me．＇

A few days later，the Fifteenth Regiment，one of the smartest in the Army， was drawn up in order of battle on the parade ground．He was mounted upon the finest horse in army．His serious air，his severe and almost cruel eyes，his unalterable coolness won him a reputation from the first day．In a short time， his perfect and entirely measured courtesy，his skill with the pistol and sword， which he made known without showing with the moved all temptation to joke audibly at his expense．Julien was intoxicated with ambition and not with vanity．Though only just a Lieutenant，promoted by favor and after two day＇s service，he was already calculating that，in order to be Commander in Chief at thirty，at latest，like all the great Generals，he would need at Twenty－three to be something more than Lieutenant．He could think of nothing but glory．

很快，他得知了玛蒂尔德的很多想法。她情不自禁地想他，给她的堂兄讲她和于连谈话的细节时，却发现跟他们永远讲不清楚。有一天，她突然恍然大悟。她对自己说，我无法用语言描述此时的喜悦。＂我幸运地坠入了爱河，这太明显了。＂她反复想了想：＂于连缺少的是什么呢？名声和财产。他会为自己赢得名声，也会赢得财富。＂胆敢爱上一个社会地位比我低的人，这已经是一种不寻常的行为。让我想想：他还值得我爱吗？只要让我看到他的弱点，我会甩了他。

五点钟时，于连收到了三封信。拉莫尔小姐在图书馆门口把信扔给他，就跑掉了。＂今天晚上，我必须跟你讲。当一点的钟声响起时，你到花园里来。把井口边的长梯子搬过来，把它放在我窗户边上，爬到我房间里来。今晚有月亮，不用怕。＂他过去搬了那个长梯子，在一点过五分的时候，把梯子放在她的窗户边。悄悄地爬上梯子，手里握着枪，竟然没有人袭击他。

当他到达窗户边时，她轻轻地打开了窗户。然后，他迅速地把她楼在怀中，她只是半推半就。他很惊讶，他的心中一点幸福感都没有，这不是他和德•莱纳夫人在一起时能感受到的那种心灵上的狂喜。他所感觉到的，仅仅是野心得到了最大的满足而已。

她已经下定决心，如果他敢用园丁的梯子爬到她房间来，她就会委身与他。但是，从来没有人如此冷静，如此乏味。到现在为止，他们之间的交流还是冷冰冰的，足以让一个人对爱情产生憎恨。在长时间犹豫之后，她最终成为他的情妇，并决心为情人应尽义务。早上，她陪她妈妈做弥撒去了，仆人们也很快离开了房间。于连藏在她衣柜的深处，很容易地在他们回来之前从房间溜走。他想，＂我的冒险已经结束，所有的功劳都属于我自己。我已经设法让这个极其傲慢的人爱上了我。＂他看了看她，继续想： ＂她的爸爸没有她，就活不了。而她没有我，也不能活了。＂

几天后，第十五骑兵团，在操场演戏作战。于连骑士骑着全部队最漂亮的马。他那严肃的神情，始终如一的冷静，为他赢得了声望。很快，他那完美而得体的礼貌，他那无需炫耀就能让大家都知道的射击和击剑技术，打消了别人想嘲笑他的所有念头。于连陶醉在野心里面，而不是虚荣里。虽然他现在仅仅是一个中尉，而且是靠恩惠得来的，但是工作两天之后，他就已经在盘算，为了最迟在三十岁之前当上军队总司令官，像所有伟大的军事家一样，他到二十三岁时就应该在中尉之上。他脑子里想得全是这种㭉誉。

## 注（2）：ピストルを購入し，礼拝していた夫人を狙って撃った。

He leaving the shop of the local gun seller，he heard the church bells announce the start of service．He entered the new church．He found himself standing a few yards behind Madame de her bench．He had the impression that she was praying with great seriousness．The sight of this woman who had loved him so dearly made Julien＇s arm tremble so violently that he could not at first carry out his design．＇I cannot，＇he said to himself；＇I am physically incapable of it．＇At that moment，the young clerk who was serving mass rang the bell for the Elevation．Madame de Renal bowed her head，which，for a moment，was almost entirely concealed by the folds of her shawl．Her aspect
was less familiar to him；he fired a shot at her with one pistol and missed her， he fired a second shot；she fell．

他离开当地一家买枪的小店时，听到了教堂的钟声，宗教仪式已经开始。他走进了新教堂，发现自己就站在德•莱纳夫人后面几码远的地方。他感到，夫人正在虔诚地祈祷。一看到这个曾经深爱他的女人，于连的胳膊就直发抖，以至于起初不能实施他的计划。他自言自语，＇我不能，我实在下不了手！’正在这时，主持弥撒的年轻神父为高举圣杯仪式摇铃。夫人低下了头，她的头几乎被披肩的皱褶挡住了。于连从未见过这种举动，于是朝她开一枪，没打中她。他又开了一枪，她倒下了。

## Chapter 9

注（1）：自分が愛していたのは，夫人であったことに気づく。
＇It is strange，＇he said to himself one day as Mathilde was leaving his prison，＇that so warm a passion，and one of which I am the object，leaves me so unmoved！And I worshipped her two months ago！I have indeed read that at the approach of death we lose interest in everything；but it is frightful to feel one self ungrateful and to be unable to change．＇As a matter of fact，he was hopelessly in love with Madame de Renal again．He found a strange happiness when，left absolutely alone and without any fear of being disturbed，he could abandon himself entirely to the memory of the happy days which he had spent in the past at Verrieres．He never gave a thought to his Paris successes；they bored him．

Julien said to Madame de Renal，＇When I might have been so happy during our walks in the woods of the country，a burning ambition led my soul into imaginary tracts．Instead of my pressing to my heart this lovely arm which was so near to my lips，the thought of my future tore me away from you．＇Some charitable soul doubtless informed Mr．de Renal of the long visits which his wife was paying to Julien＇s prison；for，after three days，he sent his carriage for her，with express orders that she was to return immediately to

Verrieres．His spirit was exhausted by the profound sadness into which the departure of Madame de Renal had cast him．Nothing pleased him anymore， either in real life or in imagination．Want of exercise was beginning to affect his health and to give him a weak and excitable character．The absence of Madame de Renal is crushing me！Ah！If God existed，I should say to God； restore to me her whom I love！

有一天，当玛蒂尔德离开监狱时，于连自言自语，＂很奇怪，她对我的亲热，却使我无动于衷。两个月前，我还是崇拜她的。我的确在一本书上读到过，在临近死亡时，我们对一切都会失去兴趣，但感觉自己太过分，忘恩负义，却又无法改变自己，这实在是可怕。＂事实上，于连又重新死去活来地爱上了德•莱纳夫人。他发现当他一个人独处，不用担心被别人打扰时，他会找到一种离奇的快乐，他会完全沉浸在维里埃或者在维尼度过的那些幸福的回忆之中。他从来就没有想到过在巴黎成功的野心，这使他很烦恼。

于连对夫人说，＂当我们一起在维尼的小树林里散步的时候，我本来可以很幸福的。但是燃烧着的野心，把我的灵魂带入了幻想的王国。我非但没有把这个离我如此之近的可爱的胳膊紧紧楼在我的胸口，反而让我的野心把我从你身边夺走。＂一个仁慈的人无疑通知了先生，说他的妻子去牢房长时间探望他。因为三天之后，先生派来了马车，并且下达命令让她马上回到维里埃。夫人的离开把他抛入了深深的痛苦之中，他的心也因此而枯竭了。无论是在现实中，还是想象中，再也没有东西能够使他感兴趣。由于缺少锻炼，不仅是他的健康每况愈下，而且他的性格也变得十分脆弱和敏感。夫人的离开，使我完全崩溃了！啊！如果上帝存在的话，我会对他说，请把我爱的女人还给我吧！

## 注（2）：自分の犯行が計画的なものであると述べた。

Towards midnight，both parties finished up their arguments and Julien was given the opportunity to speak．＇Gentlemen of the jury，I ask you for no mercy，I am under no illusion；death is in store for me；it will be a just punishment．Even were I less guilty，I see before me men who，without
pausing to consider what pity may be due to my youth，will seek to punish in me and to discourage forever that class of young men who，born in an inferior station have the good fortune to secure a sound education，and the arrogance to mingle with what the pride of rich people calls society．That is my crime， Gentlemen，and it will be punished with all the more severity inasmuch as actually I am not being tried by my peers．I do not see，anywhere among the jury，a peasant who has grown rich，but only indignant upper－class men．＇

临近午夜时分，双方律师结束了辩护，于连终于等到了发言的机会。 ＂各位陪审员先生，我不请求你们的宽恕。我没有任何幻想，死亡在等着我。这不过是一种惩罚，即使我的罪过没那么严重，我也会看到许多人不会因为我年少而同情，他们仍然会通过惩罚来杀一橵百，永远阻止这个阶级的年轻人发达。他们虽然出身卑微，但却有幸受到良好的教育，并且敢于混入有钱人的所谓＂上流社会＂圈子里。先生们，这就是我所犯的罪恶。它将受到最严厉的惩罚，因为我没有受到同等人的审判。在陪审团中，我没有看到一个富裕起来的农民，全都是愤怒的上层社会的人们。＂

## Chapter 10

## 注（1）：彼の首をテーブルにのせて，その額にキスをした。

The next day，Mathilde followed her lover to the tomb which he had chosen for himself．A great number of priests escorted the remains and， unknown to all，alone in her carriage，she carried upon her knees the head of the man whom she had so dearly loved．

第二天，玛蒂尔德来到了他为自己选择的墓地。很多神父陪护着于连的遗体，却没有人知道，她独自一人坐在马车里。还把自己深爱过的男人的头颅放在膝盖上。

## 熟読玩味

○赤い瓦の，尖った屋根の白い家々が丘の斜面に広がっていて，そこへ勢いよく成長した栗の木の茂みが，丘のごくわずかな起伏までもくつ きり描き出している。

○家から数歩のシャルル七世が植えたという大きな菩提樹の下で，よく夕涼みをするが，そこは闇が深かった。
○この町へ一歩踏み込むと人々は，恐ろしいかっこうをした機械の響き に，どぎもをぬかれるだろう。急流の水が動かす車輪の力によって持 ち上げられた重い鉄槌が，道の敷石を躍らせるほどの響きを立てて落下する。
○粗野で田舎者といわれながらも，障害にひたむきにぶちあたるジュリ アンに興味を抱き，いつしか恋い慕らようになった。
○ごま塩頭で，ねずみ色の服をきている。彼は数個の勲章の佩用者なの だ。額がひろく，わし鼻が，全体として一種整った容貌をしている。 だから一見したところ，町長らしい貫禄とともに，五十近くの人にも見かける，あの一種の愛敬さえたたえていると思うかも知れない。だ がパリの人々はすぐに，なんとなくあさはかな機転のきかぬ自己満足 と，らぬぼれの態度が不愉快になってくるだろう。
○ソレルは，隣人が焦燥と土地所有欲に駆られているところへうまくつ けこんで，六千フランという大金をまきあげた。
○ レーナル夫人は世間知らずではあるが，気立てのやさしい女性であり，男というものを，夫をはじめ自分の周辺にいる男のように無骨で低俗なものだと考えていた。ジュリアンもそうした輩だと想像してい たのだが，彼をひと目みるなり，その矜持の高さと美しい眼に引き込まれた。
－彼女は背大が高く姿がよくて，この山間の人が言ら通り，土地の美人 だった。身のこなしには，どこからぶな若々しいところがあった。パ リの人の目からみると，無邪気でぴちぴちしたこの素直な美しさには， いささか肉感的なものを思わせるほどの力があったのかも知れない。

○金持ちの収容所長ヴァルノ氏が彼女に言いよったが，ものにならなか った。というのは，このヴァルノ氏というのが色艶のいい顔をした，頑丈な体格の立派な若者で，地方では美男子と呼ばれる，粗野で，厚 かましくて，うるさい連中の一人だったからだ。

○ 十九歳の彼は色白で小柄だったため，父や兄からばかにされたが，聡明で強い自尊心をもった美しい少年であり，ナポレオンの熱狂的な崇拝者であった。
○ ナポレオンの全盛期であれば，軍人として栄達の道を進みたかったが，今はそれが許される時代ではない。

○表面的にはみんなから愛され，立派な家庭教師だったが，心では単な る家庭教師にすぎないという劣等感から，上流社会に対する憎しみと嫌悪を抱く男でもあった。
○しんかららち気で，はた目には大変むら気な性格を持った夫人は，こ とにヴァルノ氏のいつもせかせかした態度とばか声が嫌いだった。町 の人々にまるで近寄ろうとしないものだから，あの女は家柄を鼻にか けているんだといら評判をたてられた。

○彼女は，夫を批評したり，夫をいやだと考えたりするほど思い上がっ た気持ちには，かつて一度もなかった。

○夫人は彼の境遇に同情し，エリザとの縁談話を祝福するが，彼はそれ を断った。そのとき，夫人は彼に恋している自分に気づくのであった。

○ジュリアンは，豊かなブロンドの髪をもち，ギリシア彫刻のような美 しい顔立ちのマチルドに心を奪われた。

○彼は，見たところ弱々しい小柄の若者で，わし鼻の，整ってはいない が，美しい顔だちだった。静かなときには，思慮と情熱を示すその黒 い大きな眼は，この瞬間，世にも恐ろしい憎悪の色を燃えいた。濃い栗色の頭髪が，ごく低くまで生え下がっているので，額が狭くて，怒 ったときには意地悪そうに見える。
○レナール夫人は，男の目の届かぬところでは，いつも決まってそうな のだが，きびきびとしかももの優しい。

○彼にふられたことを恨み，ヴァルノ氏に告げロをしてきた。
○あまりやさしい目差しをしているのに打たれて，気おくれもちょっと忘れてしまった。その美貌に驚いて，彼はすべてのことを，自分は一

体何をしに来たのかをさえ忘れてしまった。
○こんな立派ななりをした人が，ことにこんな眩しいほどの色艶の夫人 が，自分にやさしい言葉をかけてくれたのは今まで出会ったことがな かった。夫人の方は，はじめはあんなに青かったが，今こんなにバラ色になった，若い田舎者の頬に止まっている大粒の涙を，じっと見つ めていた。やがて彼女はすっかり小娘のようにはしゃいで，笑い出し だ。自分が可笑しくなった。そして自分の幸福を，計りしれないほど だった。
○信用していた男に裏切られたラモール侯爵は，強い憤りを覚えたが，娘の愛情にほだされて，二人を祝福することにした。
○いったんは助命に傾きかけた趨勢であったが，ジュリアンはそれをみ ずからくつがえしたのだ。
○このあなたという言葉が，ジュリアンを大層驚かした。こんな立派な服装をした貴婦人が，しかも本気で，自分をムシューと呼んでくれる， それはジュリアンのまったく夢にも思いがけぬことだった。
○レナール夫人の方はまた，ジュリアンの美しい色艶，大きく黒い眼， そしてその愛らしい頭髪，実は頭を泠やすために，さっき広場の噴水盤の中へ漬けたものだから，平生よりもずっと縮れていたに，すっか り騙されていた。

○自分の犯行が計画的なものであり，死刑に相当することを述べたらえ で，卑しい階級に生まれ，貧困にいためつけられながらも，幸い立派 な教育を受けることのできた青年たちが，社交界へ入ることを徽底的 に阻止する偽善に満ちた社会の現状を暴露した。この発言が，ヴァル ノ氏などの陪審員の心証を害し，ジュリアンに死刑判決をもたらすの だった。
○ジュリアンはマチルドの手紙を目にして，彼女の思いを知るが，数日 たつと彼女のほうから拒否するといったやりとりが何度か続いたあ と，ジュリアンはマチルドをあきらめる素振りをして別の女性に言い寄る。自尊心を満足させようとする二人の気持ちが，このような奇妙 なかけひきを繰り返させた。
○武器商でピストルを購入し，教会で礼拝していたレーナル夫人を狙っ て撃った。夫人はその場に倒れたが，幸い一命は取りとめ，ジュリア

ンは逮捕された。
○長いおしゃべりの間に，彼は落ち着きを取り戻し，夫人をじっと見つ めていた。非の打ちどころのない容姿の美しさが，その人柄に生まれ つきのもので，ことにその持ち主が自分の美しさを意識せぬ場合には， こういう効果を生むのである。

# ジャン・クリスルコ 

（ロマン・ロラン—1904年発表）

## 作家と作品

ロマン・ロラン（Romains Rolland）は『ジャン・クリストフ（Jean Christophe）』 を書く事により，物質文明•機械文明によって破壊された人間性を暴こ うとした。彼は，人間が理性を失わないで，人間らしく平和に生きてい く事を理想とし，そのために文学を通じて戦った。第一次世界大戦で， フランスの中にドイツに対する増しみの感情が渦巻き，偏狭な愛国主義 の風潮が高まっている中，彼は，フランスにもドイツにも味方しない絶対平和主義の立場を取り，人類と文明とを戦争から守ろうと決心した。 そこで彼はフランスを去って，スイスに行き，新聞を通して，この戦争 は決して正義の戦争ではないことを主張した。そのため彼は，ドイツか ら非難を浴び，特に祖国のフランスからは裏切り者と捺印された。しか し，生命の力とその闘争，それが彼の生涯を彩るものであった。絶食を余儀なくされるまでの貧困，愛する人々の死より来る無惨な悲哀，愚昧 なる周囲から道徳的破産を宣告させられる恥辱，すべて巻き込まんとす る虚偽粉飾の生温い空気，その他あらゆるものに彼の霊肉はさいなまれ た。しかしながら彼は，自分の信念を道づれとして勇ましく自分の道を切り開いていった。いかにつまずき倒れても，再び猛然と奮い立つだけ の力，苦しめば苦しむほど，その力はますます大きくなっていった。彼 は友人に当てた手紙でこう言っている。「誰でもひたすら忍耐強く，未来 を信じればいいのです。私は，数十年を，数世紀さえも，先んじて生き る事になれています。私は胸を痛める必要はありません。人類は遅々と

ではありますが，やはり前進しているからです」と。
ドイツのライン川のほとりの小さな町でクリストフが生まれる。父は音楽家，母は女中，父は彼の才能を食い物にして，音楽の名人に仕立て ようとするが，彼の夢は作曲家である。父親が酒飲みのために破産して しまった一家は，彼によって生計を立てなければならなくなる。彼は宮廷の常任ピアニストとして客があるたびに赴き，音楽がわかるとはいえ ない人々のために演奏しなければならず，自尊心の苦しみを抱えていた。金があればすぐ酒代に充てる父，彼は十四歳にして家長としての責任を負わされた。ミンナとの初恋は，身分が釣り合わないために失われてし まう。こうした事から彼は，人間が生きているのは幸福になるためでは なく，一人の「人間」であるためだ，という事に気付く。彼の心の中に は，無限の創造力が芽生え始める。愛情の上では，ザビーネとの恋が続 く。彼とジャンナンとの最初の出会いで，この出会いが二人の人生に大 きな影響をもたらすことになる。彼は自然で自由な心の芽生えによって， さまざまな嘘で固めた社会や芸術と戦い，フランスの自由な精神を見い出し，ドイツを去って，パリへ向から。しかし，パリの社会も濁ってい て，彼は失望する。スイスで友人の妻アンナを恋するが，やがてそれか ら逃れて，再び昔の彼に立ち戻る。彼は，自分に対しても他人に対して も徹底的に誠実であろうとした理想主義的な作家で，『ベートーヴェンの生涯』『魅せられたる魂』などの優れた作品がある。主人公の人生を交響曲に仕立てており，その内容はベートーヴェンの伝記を思わせる。ドイ ツ人の主人公が，フランスの精神を理解し，イタリアの美を理解すると いう，国境を越えた調和を謳う作品となっている。クリストフは打ち勝 った。彼の名前は世を圧した。彼の髪は白くなった。老年がやってきた。 しかし，それを彼は気にかけない。

## 登場人物

ジャン・ミシェル：（Jean Michel，詹•米希尔／曼希沃） クリストフの祖父，宮廷劇場の指揮者。

宮廷劇場のヴァイオリニスト。

| ケイリッヒ | ：（Mrs．Kerich，克里赫太太／弥娜的妈妈） ミンナのお母さん。 |
| :---: | :---: |
| クリストフ | ：（Jean Christophe，约翰•克里斯朵夫）宮廷の常任ピアニスト。 |
| ザビーネ | ：（Sabine，萨皮纳） <br> 二十歳の若い絈婦。 |
| ルイザ（女中） | ：（Louisa，路易莎／鲁意莎） クリストフの母。 |
| ミンナ | ：（Minna，弥娜） <br> クリストフの初恋。 |
| アーダ | ：（Ada，阿达／帽子铺里的女店员） クリストフの恋人。 |
| ミラ | ：（Myrrha，弥拉／阿达的室友） |
| ハスレル | ：（Hassler，哈斯莱／哈斯勒，德国音乐家） |
| オリヴィエ | ：（Olivier，奥利维） オリヴィエの家で共同生活を始めた。 |
| グラチア | ：（Grazia，葛拉齐亚） <br> ピアノを教えた弟子で，恋人でもあった。 |
| タディー・モーク | ：（Tady Mock 塔迪•莫克） <br> 彼らを助けてくれたのは，ユダヤ人。 |
| エマニュエル | ：（Emanuel，伊曼妞尔）印刷工になり，オリヴィエを師と敬う少年。 |
| ジャックリーヌ | ：（Jacquelinue，亚克利那） <br> カトリック教の家庭に育った女性。 |
| フランソアーズ | ：（Francoise，弗朗索瓦•乌东） |
| $コ リ ン 又 ~$ | ：（Corinne，科琳娜／高丽纳，剧团女演员） |

## あらすじ

河の水音は家の後ろに高まっている。雨は朝から窓に降り注いでいる。

窓ガラスのひびのはいった片隅には，水の滴りが流れている。室内は生 ぬるくどんよりしている。赤子は揺り篦のなかでうごめいている。老人 は戸口に靴を脱ぎ捨てて入ってきたが，歩く拍子に床板がきしったので，赤子はむずかり出す。母親は寝台の外に身を乗り出して，それをすかそ うとする。祖父は赤子が夜の暗がりを怖がるといけないと思って，手探 りでランプをつける。老人は摇籃のそばに近寄ってゆく。その外套は雨 に濡れた匂いがしている。ルイザは近寄ってはいけないと彼に手真似を する。彼女は白いといってもいいほどの金髪で，顔立ちはやつれていて，羊のようなやさしい顔には赤あざがあり，唇は蒼ざめて厚ぼったく，め ったに合わさらず，浮かべる微笑もおずおずとしている。彼女は赤子を見守っている。ごく青いぼんやりした眼で，その瞳は極めて小さいがい たって物優しい。赤子は目を覚まして泣く。その定かならぬまなざしは乱される。なんという恐ろしさだろ！深い闇，ランプの荒々しい光，混沌の中から出てきたばかりの頭脳の幻覚，周囲にたちこめている息苦し いざわめく夜，底知れぬ影，その影の中からは，眩しい光線のように強 く浮かび出してくる。赤子は声をたてる力もない。彼は身動きもせず，眼を見開き，ロを開け，喉の奥で息をしながら，恐怖のために釘付けに される。ジャン・ミシェルの息子のクラフトは宮廷劇場のヴァイオリニ ストで，ルイザと結婚 ${ }^{(1) し, ~ 子 と ゙ も を も う け た 。 て ゙, ~ そ の ~}{ }^{(1)}$ 結婚には誰も驚いたが，とくに彼女自身が驚いた。クラフトの家に財産はなかったが，約半世紀前からこの町ではかなり尊敬されていた。彼らは親子代々の音楽家で，その地方の音楽家仲間に名声が知れ渡っていた。だから，この老人は息子に大きな希望をかけていただけに，その結婚に深い䎵辱を感 じた。つまりこの無謀な結婚が，この老人の望みをさんざん打ち壊して しまったのである。クラフトが何に駆られてそういう結婚をしたのか，誰も理解するこたができなかったが，誰よりも彼自身に訳が分からなか った。彼のようなヴァイオリニストが，財産も教育も容色もない賎しい娘を，しかも向こうからもちかけても来なかった娘を，突然妻に選ぼう とは，まったく賭け事みたいな沙汰らしく見えるのであった。結婚する とすぐに，彼は自分のしたことに落胆したような様子をした。彼はその

注（1）：クラフトはルイザと結婚した。

ことを哀れなルイザにも隠さなかった。ルイザはいかにも慎ましやかに，彼に許しを求めた。彼は悪い男ではなかった，そして快く彼女を許して やった。しかしすぐその後で，金持ちの女の家に行ったりすると，再び悔恨の念に捕らえられた。

赤児のクリストフ，彼がもの心ついたころ，父親の飲酒的が原因で，家計は苦しかった。家ではひどく生活に困窮することが時々あった。そ れが次第に頻繁になってきた。クリストフほどそれによく気づく者は誰 もいなかった。母親のルイザ③は，やむをえない用で出かける時には， もう六歳の彼によく二人の弟の世話を頼んだ。クリストフはそれが辛か った。なぜならその務めのために，彼は野原の楽しい午後の散歩をやめ なければならなかった。しかしまた彼は，一人前に取り扱われるのが得意になって，立派にその仕事をやってのけた。子供たちに色んなことを して見せて，できるだけ面白がらせた。小さな弟を胸から落とすまいと して，力いっぱいに抱きしめ，歯をくいしばりながらも，腰がよく伸び なかった。また，母が料理人として働いていた屋敷で，そこの子どもた ちと遊ばされたときも，自分が悪いわけではないのに，子どもたちを泣 かせたといって，母親は彼を叩き，父も怒鳴った。このような日々ので きごとが，彼に不正に対する反抗心を抱かせた。祖父はしばしば夕方の散歩に彼を連れていった。彼は祖父に手を引かれて，小股に足を早めな がら並んで歩いた。彼らはいつも，快い強い匂いの田圃を横切って，小道を通っていった。蟋螺が鳴いていた。道にはだかって横顔を見せてい る大型の鴉が，遠くから二人の来るのを眺めていたが，間近になると重々 しく飛び去った。祖父はよく咳払いをした。クリストフはその意味をよ く知っていた。老人は何か話を聞かせたくてたまらなかったが，まず子供の方からせがんでもらいたがったのである。するとクリストフはきっ と話をせがんだ。二人の気持ちは互いによく通じ合っていた。老人は孫 に対して深い愛情をいだいていた。そして孫のうちに熱心な聴衆を見出 すことは，彼の喜びであった。自分の経験話や，古今の偉人の話を，彼 は好んで語って聞かした。彼はいつも夢中になって自ら自分の言葉に聞

[^21] ないこともあった。しかし彼はその失望に慣れていた。雄弁の発作と同 じくらいに何度も繰り返されたからである。そして話が始まるといつも その失望を忘れてしまらから，いつまでもそれを諦めることができなか った。その後，クリストフがだんだん大きくなって，ついに祖父の手段 を見破るようになった。すると彼はもら意地悪くも，話の続きにたいし て泠淡な風を装うことを努めた。哀れな老人はそれに困らされた。彼の心は，また老人の心は，勇ましい手柄話になると，あたかもそれをした のは自分たちであるかのように，自慢の念にふくれ上がった。なぜなら，老人も子供も共に等しく赤ん坊だったから。祖父が勇壮な話の中途に，心に大切にしまっている議論の一つを挟むときには，クリストフはあま り嬉しくなかった。それは主に道徳上の意見であって，正しくはあるが やや陳腐な一つの思想にたいていつづめられるようなものだ。たとえば，「温和は過激に勝る」，「名誉は生命より尊し」，「邪悪なるは善良なるに如かず」などと。そしていつも心ゆく限り大げさな調子で口をきいた。少しも憚れずに，同じ文句を繰り返したり，中途で言葉が途切れたり， また議論の途中でまごつく時には，思想の破綻をふさごらとして，何で も頭に浮ぶことをでたらめに言ったりした。そして言葉をいっそう力強 くするためには，その意味と矛盾する身振りをさえ添えた。子供はごく かしこまって耳を傾けていた。そして祖父は非常に雄弁だが多少退屈だ と，彼は考えていた。もし，子供の精神の中に正義の観念をうち立てる のを目的としていたなら，それは的はずれのものであったというべきで ある。なぜなら，子供の論理は次のように結論しやすかったから。「もし あんな偉い人が徳義を持っていなかったとするならば，徳義などという ことは大したものではない，最も大事なのは，偉い人になるということ だ」しかし老人は，自分のそばにようやく一人立ちをしかけている幼い思想については，露ほどの察しもなかった。

家には，祖父 ${ }^{(1)}$ の古いピアノがあり，みんなの邪魔になっていたが， クリストフだけは，だれもいないとき，指先をキーにあてた。今彼の

[^22]一番大きな喜びは，母が一日雇われて出かけてゆく時か，町に出かける時であった。彼は階段を下りてゆく足音に耳を傾ける。足音は次第に遠 ざかってゆく。彼は一人きりである。ピアノを開き，椅子を近寄せ，そ の上に坐る。肩がピアノのキーの高さになる。それだけでももう十分だ。指先をあてると，胸がどきどきする。時々，指を半ば埋め，また外して他のキーの上に置く。どんな音が出てくるのか，わからない。突然音が高まる。深い音，鋭い音，響く音，唸る音，それらの音がかすかになっ て消えてゆくのを，彼は長く聞き取れる。それらは鐘の音のように揺ら いでいる，野の中にいる人の耳に，風がもたらしてまた遠くへ吹き送る鐘の音のように。一番おもしろいのは，同時に二本の指を二つのキーに乗せるときである。どんなことが起こるか前から決して分からない。と きには精霊が敵どうしになることもあれば，互いに愛しあうこともあり，何度やっても飽きない。ピアノは彼の親しく，やさしい友達であった。 ある日，クリストフがいつものようにピアノに向かっていると，父がや ってきたが，不思議なことに彼を叱りつけなかった。むしろ上機嫌で笑 い，ピアノ（1）の前に座って稽古を始めた。そしてある輝かしい思いが彼 の頭に浮んだのである。「神童だ！どうして今まで気づかなかったんだろ う。一家にとってこの上もない幸せだ！こいつは母のように百姓の子に すぎないと思い込んでいたが，しかし試してみたつて別に損するわけじ やない。運が向いてきたぞ！ドイツ中を連れ回り，外国へも連れ回って やろう。面白いしかも高尚な世渡りだ！」その日以来，父は彼を音楽会 へ連れていったりして，彼を演奏家にしたかったが，彼は音楽を書いて みようと思うようになった。ある日の夜，クリストフの精神に決定的な影響を与えたのは，ドイツの若い芸術家で，ベルリンに住んでいるハス レル。ハスレルは彼の生きた手本となって，その上に彼は眼を据えてい た。わずか六歳の少年が，自分もまた音楽を書いてみようと決心したの は，この手本に基づいてであった。クリストフは遠慮なくハスレルに自分の夢をささやいた。自分も彼のように音楽家になりたいこと，彼よう に立派なものを作りたいこと，彼のような偉い人になりたいこと。本当 のことを言えば，彼はすでに以前から，自ら知らないで作曲していた。

注（1）：上機嫌で笑い，ピアノの前に座つて稽古を始めた。

音楽家の心にとっては，すべてが音楽である。震え揺らぎはためく全て のもの，照りわたった夏の日，風の吹く夜，流れる光，星の閃き，小鳥 の歌，虫の羽音，夜の静寂の中に動脈を膨らす血液の音，戸のきしる音， すべて存在するものはみんな音楽である。彼が見るものすべて，彼が感 ずるものすべて，音楽に変わっていた。彼はあたかも騒がしい蜂の巣の ようであった。しかし誰もそれに気づかなかった。彼自身も気づかなか った。その日以来彼は，作曲家であったから，作曲にとりかかった。字 を書くこともろくに知らないうちから，家計簿の紙をもぎ取り，四分音符や八分音符を一生懸命に書き散らした。しかし，自分が考えているこ とを知るために，またそれをはつきり書き表わすために，非常に骨折っ ていたので，ついには，何かを考えようとするとき以外には，もう何も考えなくなってしまった。

作曲家でもある音楽家クリストフは，こうして誕生し，八歳のとき，宮廷楽団のピアニストに任命された。クリストフは，宮廷の常任ピアニ ストとして客があるたびにおもむき，音楽が分かるとは言えない人々の ために演奏しなければならず，自尊心の苦しみを抱えていた。金があれ ばすぐ酒代に充てる父，ピアノまで売り払われるというひどい状況の中，彼は十四歳にして家長としての責任を負わされた。クリストフの家のほ ど近くに，ケイリッヒ家があり，夫人と娘 ${ }^{(1)}$ が住んでいた。ある日彼は，好奇心に駆られて，例の眺め場所に上り，庭の中を覗いて見た。ところ が眼にはいるものはただ，動かない木立が，太陽のなごりの光のらちに眠っているようだ。暫くすると彼は，好奇心の的をすっかり忘れてしま って，眼も口も開いたまま夢想していた。突然，彼は愕然とした。前の曲がり角のところに，二人の女が立って，こちらを眺めていた。一人は，黒い服の若い夫人で，ほっそりとした不揃い顔立ちをし，灰色がかった金髪をもち，背が高く，優美で，取り澄まさない自然の首つきをしてい たが，親切そうな揶揄的な眼で彼を見守っていた。もう一人の方は，十五歳ばかりの娘で，同じく喪服をしていたが，母親の少し後ろの方で，両手の内に口を隠して，無理やりに笑いを押さえるようだった。色白な桃色の丸い顔をした小娘だった。やや太く小さな鼻と口，ふっくらした

注（1）：家のほど近くに，夫人と娘が住んでいた。

小さな頤，細やかな眉毛，清らかな目，豊かな金髪。その髪はあじろに編まれて，頭のまわりにくるりと巻きつけられ，丸い首筋と艶のいい白 い額とを現していた。夫人も笑いながら言った。「私どもが着きました日 に，お尋ねくださいましたね」その言葉を聞いて，娘はますます笑った。 そしてクリストフがいかにも物哀れな様子をしたので，ミンナはそれを見ると，なお激しく笑った。まるで狂人笑いだった。あまり笑って涙を流していた。夫人はそれをやめさせようとしたが，自分でも笑いを押さ えることができなかった。彼は当惑していたが，それでも笑いに感染し てしまった。彼女らの上機嫌は押さえることのできないもので，怒るわ けにはゆかなかった。暫くして夫人は，ピアノについてくれと頼んだ。彼はモーツァルトのアダジオ（Adagioアンダンとラルゴの中間，「ゆる やかに」の意味）をひいた。しかし彼のはにかみや，二人の婦人のそば で彼の心が感じ始めた不安や，彼の胸を満たして，彼を同時に嬉しくま た悲しくしていた純朴な情緒などは，その曲に含まれている情愛とうぶ な羞恥とに調子を合わせて，その曲に青春の魅力を添えた。一緒に食事 をしてゆくようにと，夫人に言われたとき，彼の恐縮は幸福に変わった。彼の席は母と娘との間に設けられた。ピアノよりも食卓の腕前の方がず つとまずいと，一同から判断された。この方面で彼の教養はひどくなお ざりにしていた。食卓では，飲食が肝心なことで，作法なんかは重要な ことではないと，信じている傾きがあった。それできれい好きなミンナ は，むつとしたしかめ面で彼を眺めていた。食事の後には彼はすぐ辞し去ることと，皆は予期していた。しかし彼は二人の後について，小さな客間に入り，一緒に座り込んで，帰ることは頭に浮かべなかった。ミン ナは欠伸を抑えながら，母の方に合図をした。彼はそれに気づかなかっ た。幸福に酔ってしまって，皆も自分と同じ心理だと。なぜなら，ミン ナは彼を眺めながら，やはりいつもの癖で流し目を使っていたから。

夜，彼が自分の寝床の中で，夢想に耽っている時にも，昼間，彼が奏楽席の譜面台につき，半ばまぶたを閉じて機械的に演奏しながら，夢想 に耽っている時にも。彼は二人のどちらにも，愛情をいだいていた。そ して恋愛が何物であるかを知らなかったので，自分は恋しているのだと思っていた。しかし彼は，母親の方に恋しているのか娘の方に恋してい るのか，それが自らよく分からなかった。霧の深い三月のある朝，細か

な雪が羽毛のように灰色の空中に飛び舞っていた時，ミンナは音符を一 つ間違えた。彼は楽譜の上に身をかがめ，問題の楽譜を間近に見ようと した。彼女は譜面台の上に片手を置いていて，それをのけようともしな かった。彼の口はその手のそばに近づいた。彼は楽譜を読もうとしたが読めなかった，ほかの物を見ていたのである。花弁のようなしなやかな透き通った物を。そして突然，彼は力いっぱいに，その愛くるしい手に唇を押し当てた。二人ともそれにびっくりした。彼は後ろに飛びのき，彼女は手を引込めた。二人とも真赤になりながら，二人は一言も交わさ なかった。彼女はまたピアノを弾きはじめた。胸が押さえつけられてい るように軽く喘いでいた。やたらに音符を間違えた。彼はその間違いに気づかなかった。彼女よりいっそう心が乱れていた。こめかみがぴんぴ んして，何も耳には入らなかった。愛には不思議な遡及的な作用がある。彼はミンナ ${ }^{(1)}$ に恋をした。彼はミンナを愛していると知った瞬間に，同 じくまた，前から常にミンナを愛しているのだと知った。三ヶ月以前か ら，彼はほとんど毎日のように顔をあわせていたが，彼はその愛を夢に も気づかなかったが，今は彼女を愛しているのに気づいた。過去現在未来永久に彼女を愛しているのを発見したのは，彼にとって安心だ。彼は実に久しい以前から，誰とも知らずに愛していたのである。一定の対象 のない恋愛くらい破壊的なものはない。それはあらゆる力を腐蝕し溶解 する。しかしはっきり分かっている情熱は，精神を極度に緊張させる。 けれども対象のない空虚よりはましである。夫人はまもなく，子供たち の素振りに気づき，二人の交際をきっぱりと断わった。二人は巧みに やったつもりだが，実はごく拙劣だった。ある日，ミンナが不都合なほ ど彼に近寄って話していると，不意に母が入ってきた。扉の音を聞いて，二人は下手にまごつき，慌てて飛びのいた。が，その時からミンナは，母に感づかれたのではないかと思った。二人は低くすすり泣いた。人に聞かれないように，㾠攣的な努力をした。足音が近づいて来るので，互 いに離れた。彼はうまく，彼女の落としたハンカチを盗み取った。よご れた，皺くちゃの，涙に濡れた，小さなハンカチだった。彼は初めて，

[^23]分かれていることの恐ろしい苦しみを知った。恋するあらゆる心にとつ ては耐え難い苦痛である。世の中は空しく，生活は空しく，すべてが空 しい。もはや呼吸もできない。死ぬほど辛い。ことに，恋人の身にまつ わった具体的な事物がなお周囲に残存している時，周囲の事物が絶えず恋人の姿を描き出させる時，一緒に暮らした親しい背景の中に一人残っ ている時，その同じ場所に消え去った幸福を蘇らせようと焦るとき，そ れはあたかも，足下に深淵が開けたようなものである。身をかがめて覗 き込み，眩暈を感じ，まさに落ち込まんとし，そして実際落ち込んでし まう。目の当たり死を見るような心地がである。そして正しく死を見て いるのである。恋人の不在は，死の仮面の一つにすぎない。自分の心の最も大事な部分が消えらせるのを，生きながら見るのである。生命は消 えてゆく。真っ暗な穴である。虚無である。

庭の向こう側に，ザビーネ ${ }^{(1)}$ という二十歳の若い寡婦が住んでいた。彼は時々，彼女が長い肌着をつけ素足のままで室内をうろうろしたり，長い間鏡の前に坐っていたりするのを，窓ガラス越しに見かけることが あった。彼女はカーテンを下ろすのを忘れるほど無頓着だった。そして気がついても，無精のあまりわざわざカーテンを下ろしに行こうともし なかった。彼は彼女よりずっとうぶだったから，向こうをきまり悪がら せまいと思って窓から離れた。しかし誘惑は強かった。少し顔を赤めな がらも，彼女を横目で見やった。クリストフはその快い光景をただ通り がかりにうっかり見たばかりであって，そのために音楽上の瞑想が少し も邪魔されることはなかった，と思い込んでいた。ところが，彼はそれ に興味を覚えて，ザビーネが化粧に費やしたのと同じだけの時間を，彼女を眺めて空費するようになった。彼女はフランスの若い女のような顔 つきをしていた。くつきりした高い眉毛，眉毛の下に半ば開いている灰色の眼，少し脹れた下まぶた，小さな鼻は，軽やかな曲線を描いて先の方で高まっている。顔色は少し曇っていた。髪は薄い栗色で，ごたごた束ねてあり，後ろの方はもじゃもじゃしていた。身体はきゃしゃで，骨組みが細く，動作が手ぬるかった。けれど，その若々しい優美さ，物や さしさ，本能の愛敬，などで人の心を惹いていた。通りかかりの若者ら

注（1）：ザビーネという二十歳の若い寡婦。

はそれに見とれた。そして彼女は，彼らを少しも気にかけなかったが，見られているのを感ずるあらゆる女の眼がするように，感謝と喜びの色 を浮かべた。そしてこう言っているようだった。「ありがとう！もっと見 てちょうだい！」でも，人に好かれることが嬉しかったにせよ，彼女は本来の無精から，少しも好かれようと努めたことはなかった。クリスト フは彼女に恋をした。しかし，音楽会のため旅に出かけて家に戻ったと き，ザビーネはもら死んでいた。彼女は，以前から病んでいたのである。思いを伝えることができなかった彼は，ザビーネを求めて田舎を歩き回 った。その後，アーダなど何人かの女性 ${ }^{(1)}$ とも付き合らが，安らかな愛情や友情を得ることはできない。雨がちな夏のあとに，秋が輝いていた。果樹園の中には，果実が枝の上に群れをなしていた。赤いリンゴが，象牙玉のように光っていた。ある木は早くも，晚秋の燦爛たる衣をまとっ ていた。火の色，果実の色，熟した瓜や，オレンジや，シトロンや，美味な料理や，焼肉などの，種々の彩り。林の中の至る所に閃いていた。 そして牧場からは，透き通ったサフランの小さなバラ色の炎が立ちのぼ っていた。日曜日の午後だった。彼は道の曲り角で，金髪の大きな娘に， ぱったり出会った。娘は壁の上に乗って，大きな枝を力任せに引っ張り ながら，紫色の小さな梅の実を，うまそうに食っていた。彼らは二人と も同じようにびっくりした。彼女はどぎまぎして，口いっぱい頬張りな がら彼を眺めた。それから笑い出した。彼女は，光の粉を散らしたよう な，縮れた金髪で縁取られた丸顔，赤いふっくらとした煩，青い大きな眼，横柄にそっくり返っているやや太い鼻，突き出た強い系切歯供えた真っ白な歯並が見えている。ごく赤い小さな口，貣欲的な頤，それから，丈夫な骨組みの体格のよい，大きな脂ぎった豊饒な身体。彼女は手の届 く限りの立派な梅の実を摘み取って，膨らんだチョッキにいっぱい詰め た。彼女は壁の上に身をかがめ，彼の腕に飛び込んだ。彼は頑丈ではあ ったが，その重みを支えかねて，彼女と共に後ろざまに倒れかけた。二人は同じくらい身長だった。顔が触れ合った。梅の汁に濡れた甘い唇に，彼は接吻した。彼女も同じく遠慮なく接吻を返した。夜明けの光が，濡 れた窓ガラスをかすめる。生命の光が，ものらい身体の中にまたともっ

注（1）：アーダなど何人かの女性とも付き合う。

てくる。彼は眼を覚ます。アーダの眼が彼を見ている。二人の頭は同じ枕の上にもたれている。二人の腕は絡み合っている。二人の唇は相触れ ている。二人はまた眠りの時代に陥ってゆく。そして耳慣れたあけぼの の音が，遠い鐘，過ぎてゆく小船，水のしたたる二本の櫂，道行く人の足音が，二人に生きていることを思い起こさせながら，それを二人に味 わせながら，そのまどろむ幸福を，乱すことなく愛撫してゆく。クリス トフはアーダと一緒になると，どうも気がゆったりしなかった。彼女の奇怪な会話，放恣な行動，特に物の見方や淫らな話し方，不謹慎で譊舌 な女の好奇心，とりとめもないことを語り合い，馬鹿げた笑い方をし，嬉しそうに眼を輝きながら，淫逸な話を続けるので，すべてそういう曖昧な多少獣的な雰囲気に，彼は恐ろしく困らされた。アーダには恐らく精神的価値はなかったと仮定しても，彼女に対する彼の愛は，どうして それだけ純潔の度が少ないと言えただろうか？愛は愛する者のうちにあ るので，愛される者のうちにあるのではない。純潔な者にあっては，す べて純潔だ。健全な者にあっては，すべてが純潔だ。愛は，ある種の小鳥をその最も美しい色彩で飾りたてるものであり，正直な魂から，その最も高尚なものを引き出してくる。愛人に相応しくないものは何一つ示 したくないといら欲求から，人はもはや，愛が刻んだ美しい像に調和す る思想や行為にしか，喜びを見出さなくなる。

ある日，クリストフが劇場に入ろらとすると，入って行く人々を舟ま しそうに眺める若い女がいた。簡素な黒い服に，ほっそりとした顔立ち のしとやかな人だった。彼が自分と一緒に見るように勧めると，彼女は顔を赤らめ，まごつきながらついてきた。舞台が気に入らないと罵声を浴びせ，美しい声が聞こえると耳をそばだてる彼は，周囲の好奇の的に なる。これが彼とアントアネット・ジャンナンとの最初の出会いで，こ の出会いが二人の人生に大きな影響をもたらすことになる。ジャンナン の家は，数世紀以来田舎の一地方に定住して，少しも外来の混血を受け ないでいる，フランスの古い一家族だった。そういう家族は，社会に種々 の変化が襲来したにも関わらず，その土地に結びつけられているのであ って，一大変動がない以上は，そこから彼らを引き抜くことはできない。彼らのそういう執着には，なんらの理由もないし，また利害関係もほと んどない。ジャンナン家の人たちが住んでいる地方は，まさにその通り
映している。居眠っている古くて小さな町，美景もなく，塔もなく，古跡もない。人の心を惹きつけるようなものは何もない。しかし，そこに は人を引き留める一つの力が潜んでいる。それは長年すつかり沁み込ま れた事物の沈滞，その和やかな倦总，その単調さは，彼らにとつて一つ の魅力であり，深い甘美である。アントアネットはきれいな栗色髪の子 で，上品で正直なフランス式の小さな丸顔，敏捷な目つき，突き出た額， ほっそりとした頣，真っ直ぐな小さな鼻。フランスのある古い肖像画が いみじくも言ったとおり，「極めて美しい上品な鼻の一つ，顔つき全体を活気だたせるような，また，話したり聴いたりするにつれて内部に起こ る感情を示すような，あるかすかな細かい動きを見せる鼻」であった。彼女は快活さと無頓着さとを父から受けていた。彼女は大きくなるにつ れて，ますます綺麗になった。人からそう言われ，自分でもそれをよく知っていた。そのために楽しくて，すでに未来のロマンスまで自ら描い ていた。弟のオリヴィエは病身で陰気で，外界と接触するごとに苛立ち を感じていた。

クリストフは曲を書きながら指揮棒も取っていたが，彼の音楽は世間 から受け入れられなかった。気に入らない評論に，彼は反論 ${ }^{(1)}$ したが， それがまた批判の矢を浴び，数多くの敵が現われた。その中，彼が書い た評論が更に周りの機嫌を損ね，これ以上楽団にいることができなくな った。ドイツ（2）では自分の音楽がどうも理解されないと思い，パリへ向 かったのだが，パリでは形式にとらわれた音楽や因習的な文学が横行し たために，無名人の作品が入りこむ余地もない。彼は自分を認めてもら らために奔走もせず，家に閉じこもって作曲に没頭した。孤独だったが，失望はしなかった。ただピアノの教授の口がなくなってからは，母へ出 す手紙の切手代すらなかった。翌年，友人の心配りで音楽会の招待状が手に入った。ところがそこに集まった人間たちの軽薄さに激しい嫌悪 ${ }^{(3)}$ を感じた彼は，最初の曲が終わり次第帰ろうと決心した。そのとき，ア ントアネットの弟で，生涯の親友になる男と出会う。オリヴィエは両親

[^24]の死後，官費で師範学校に通い，後教職につく。ある日，弟は音楽会へ行った。ドイツの音楽家が指揮者として出てきた時，彼の胸はどきりと した。音楽会では，彼の音楽は受け入れられず，聴衆の態度も悪かった。彼は聴衆に向かって憤怒の気持ちをあらわにし，嘲罵のさなかに姿を消 したが，オリヴィエはその音楽を理解し，聴衆に憤慨した。その夜，ア ントアネットは体調を崩し，クリストフのことを思い続け，手紙を書き はじめたが，急性の肺結核で世を去ってしまう。オリヴィエは，姉が書 いた手紙を読み，姉がクリストフを愛していたことをはじめて知った。姉の死後，親交の始まった二人は，オリヴィエの家で共同生活を始めた が，彼は学校の職を辞してしまい，家計は急に悪化した。生計に困って いた彼らを助けてくれたのは，タディー・モークというユダヤ人だった。 オリヴィエは彼の音楽をフランスで認めさせるために奔走し，彼は綫細 なオリヴィエを精神的に支える日々を過ごした。多年の艱難のあと，つ いに一通の吉報が届けられた。それは，クリストフに対する上演の依頼 であった。彼は音楽家として受け入れられ，今や名士となっていた。そ んなとき，女子音楽家 ${ }^{(1)}$ の友達ができ，また，フランソアーズ・ウード ンという女優との交際も進行した。しかし，二人とも激しい気質のため， しばしば衝突を来たし，長く続くことはなかった。暫くして彼女は彼の もとを去り，彼は再び芸術へ戻った。彼は川の流れに逆らって進み，強壮な四肢をもっている体は，いわおのごとく水の上に浮き出している。彼は熱と夢とで重々しい状態から目覚めた。目覚めた後も残っている不思議な夢だった。そして，いま彼は，自分の身を顧み，自分の身体にさ わり，自分自身を捜し求め，もら自分で自分が分らなかった。あたかも「もら一人の者」になったかのような気がした。自分自身よりもいっそ ら親愛なもら一人の者。それは一体誰だったか？夢のなかでその者が自分のらちに化身したかのようだ。

注（1）：女子音楽家の友達ができた。

## Chapter 1

注（1）：彼は宮廷劇場のヴァイオリニストで，女中と結婚した。

If Melchior had been a kind－hearted man，it would have been credible that he should prefer Louisa＇s simple goodness to every other advantage；but a vainer man never was．It seemed incredible that a young man of his kidney， fairly good－looking，and quite conscious of it，very foolish，but not without talent，and in a position to look for some wealthy match，should suddenly have chosen a girl of the people：poor，uneducated，without beauty，a girl who could in no way advance his career．But Melchior was one of those men who always do the opposite of what is expected of them and of what they expect of themselves．

倘若曼希沃是个心地善良的人，那么他看中鲁意莎的朴实无华，还说得过去，然而他是最虚荣不过了。像他那样的男子，长得相当帅，而且也知道自己长得帅，喜欢摆架子，也不能说没有才华，完全可以攀一门有钱的亲，不料他突然和一个既穷，又没受过教育，长得也不漂亮，对他的事业也不会有任何帮助的小户人家的女儿结婚。不过曼希沃总是能做得出出人意料，甚至出乎自己意料的事情来。

## 注（2）：父親の飲酒が原因で，家計は苦しかった。

He was an affectionate man，but health was the strongest thing in him． What ever might be his grief，he did not drink one drop the less，nor one bite at table，and his band never had one day off，Under his direction the Court orchestra won a small celebrity in the Rhine country．But now he neglected his playing，so secure in his own superiority that very soon he lost it．Other violinists came to succeed him in public favor．That was bitter to him，but instead of rousing his energy，these defeats only discouraged him．And if this blow struck most at his vanity，it touched his purse even more．For several years the resources of his household had grown less and less，following on
various reverses of fortune．After having known plenty，want came，and every day increased．Melchior refused to take notice of it；he did not spend one penny the less on his toilet or his pleasures．He was not a bad man，but a half－good man，which is perhaps worse．

他是富于情感的人，他的优点就是身体健康。不论他有多伤心的事，他也绝不会少喝一杯酒或少吃一口饭，音乐是他永不放弃的。在他的指挥下，管弦乐队在莱茵河地区获得小有名气。但是他现在不用功，深信自己的能力高人一等，结果把原来的优势很快就丢掉了。别的演奏家接踵而至，很快被捧红，他感到很伤心；但他并不努力追赶，反倒更加灰心。这个打击固然伤害了他的自尊心，但影响更大的则是他的财源。几年来，因为时运不济，家庭收入越来越少。真正富足的日子已过去，窘境接踵而来，而且每天在加剧。曼希沃只是不当回事儿，他在打扮享受这方面不肯少花一文钱。他不是一个坏人，不好不坏，这也许更糟。

## 注（3）：母親のルイザは，六歳の彼によく二人の弟の世話を頼んだ。

Louisa，when she had to go out，left them with Jean Christophe，now six years old．He was proud of being treated as a man，and gravely fulfilled his task．He amused the children as best he could by showing them his games，and he set himself to talk to them as he had heard his mother talking to the baby． Or he would carry them in his arms，one after another，as he had seen her do； he bent under their weight，and clenched his teeth，and with all his strength clutched his little brother to his breast，so as to prevent his falling．They made him very unhappy，and he was often troubled about them．He did not know what to do．They took advantage of him．Sometimes he wanted to slap them，but he thought，＇they are little；they do not know，＇and he let them pinch him，and beat him，and tease him．

鲁意莎要出门，就得把两个小的交给克里斯多夫，他现在已经有六岁了。他很得意人家拿他当大人看，便认真履行他的义务。他竭力哄小兄弟们玩儿，给他们玩个游戏，用母亲和小娃娃的话跟他们讲。再不然他就学

## Chapter 2

## 注（1）：家には，祖父の古いピアノがあった。

When Christophe grew older，his grandfather used often to take him with on his evening walks．The little boy used to trot by his side and give him his hand．They used to go by the roads，across plowed fields，which smelled strong and good．His grandfather would cough．Christophe knew quite well what that meant．The old man was burning with the desire to tell a story；but he wanted it to appear that the child had asked him for one．Jean Christophe did not fail him；they understood each other．The old man had a tremendous affection for his grandson，and it was a great joy to find in him a willing audience．He is like to tell of episodes in his own life，or stories of great men， ancient and modern alike．The boy used to listen with profound respect，and thought his grandfather very eloquent，but a little tiresome．

His grandfather gave the children an old piano，which one of his clients， anxious to be rid of it，had asked him to take．His patient ingenuity had almost put it in order．The present had not been very well received．Louisa thought her room already too small，without filling it up any more；and Melchior said that Jean Michel had not ruined himself over it：just firewood． Only Jean Christophe was glad of it without exactly knowing why．It seemed to him a magic box，full of marvelous stories．When no one was nearby， Christophe would go to the piano and raise the lid，softly pressing down a key， just as if he were moving with his finger the living shell of some great insect； he wanted to push out the creature that was locked up in it．

约翰•克里斯朵夫稍微长大一点，祖父在黄昏散步的时候常带他一块

儿去。孩子拉着老人的手在旁边急急忙忙迈着小步，沿着大路，穿过锄得松软的田地，边走边闻从田间里吹来的又香又浓的味道。祖父咳嗽了几声，克里斯朵夫就明白了这是什么意思。老人特别想讲故事，但要孩子先向他开口要听故事才行。克里斯朵夫立刻凑上前去，他们两彼此很默契。老人非常疼爱孙子，有个愿意听他说话的人更使他快乐。他喜欢讲自己以前的事，或者是古今伟人的故事。孩子毕恭毕敬地听着，认为祖父很有口才，就是沉闷了一点。

祖父给孩子们一架钢琴，那是他的一个客户准备扔掉，而他祖父花了很多心血修理后留下来的。可是，这件礼物并没有受到大家的欢迎。鲁意莎觉得屋里已经太挤了，用不着添其它东西；曼希沃说爸爸米希尔并没有白费劲，那不过是堆烧火用的木材。唯有小克里斯朵夫不知为什么对这件东西这么感兴趣，在他看来，这是一只魔法匣子，里面充满了神秘的故事。所以当没有人在旁边的时候，他便揭开琴盖，轻轻地按下键，就像用手指碰什么大虫的绿壳一样，试想把关在里面的怪物放出来。

## 注（2）：だれもいないとき，指先をキーにあてた。

Now his greatest joy is when his mother would go out for a day＇s service， or pay some visit in the town．He listens as she goes down the stairs，and into the street，and away．He is alone．He opens the piano，and brings up a chair， and perches on it．His shoulders just about reach the keyboard；it is enough for what he wants．Why does he wait until he is alone？No one would prevent his playing so long as he did not make too much noise．But he is ashamed before the others，and dare not．And then they talk and move about：that spoils his pleasure．

如今他最快乐的是，母亲整天出去帮佣或者上街买东西的时候。他看着她下楼，确定走远了，就只有他一个人了。于是他打开钢琴，拖着一把椅子来，再爬到上面。他的肩膀刚和键盘一样高，这就可以玩了。不过，为什么他一定要等到大人不在家呢？平常也没人拦着他，只要声音不太大就可以了。但是当着别人的面总是不好意思，于是他不敢。更何况他们说话，走动，会破坏他的兴致。

## Chapter 3

## 注（1）：上機嫌で笑い，ピアノの前に座って稽古を始めた。

One day Melchior came upon him thus．He made him jump with fear at the sound of his great voice．Christophe，thinking he was doing wrong， quickly put his hands up to his ears to ward off the blows he feared．But Melchior did not scold him，strange to say；he was in a good temper，and laughed．＇You like that，boy？＇he asked，patting his head kindly．＇Would you like me to teach you to play it？＇Would he like！Delighted，he murmured： ＇Yes．＇The two of them sat down at the piano，Christophe perched this time on a pile of big books，and very attentively took his first lesson．He learned first of all that the buzzing spirits have strange names，like Chinese names，of one syllable，or even of one letter．He was astonished；he imagined them to be different from that：beautiful，caressing names，like the princesses in fairy stories．

He set himself to learn，for it was not tiresome，and he was surprised at his father＇s patience．Melchior did not weary of it either；he made him begin the same thing over again ten times．Christophe did not understand why he should take so much trouble；his father loved him then．That was good！The boy worked away；his heart was filled with gratitude．He would have been less obliging had he known what thoughts were springing into being in his father＇s head．From that day on，Melchior took him to the house of a neighbor， where three times a week their was chamber music．Melchior played first violin，Jean Michel the cello．The other two were a bank clerk and the old watchmaker．They began at five，and went on till nine．Between each piece they drank beer．Neighbors used to come in and out，and listen without a word， leaving against the wall，and nodding their heads，and beating time with their feet，and filling the room with clouds of tobacco smoke．On the day when Melchior，stealing on tiptoe，had surprised the boy at the keyboard that was too high for him，he had stayed to watch him for a moment，and suddenly
there had flashed upon him：＇A little prodigy！Why had he not thought of it？ What luck for the family！＇No doubt he had thought that the boy would be a little peasant like his mother．＇It would cost nothing to try．What a great thing it would be！He would take him all over Germany，perhaps abroad．It would be a jolly life，and noble to boot．＇

Every morning for three hours，and three hours every evening， Christophe was set before the instrument of torture．All on edge with attention and weariness，with large tears rolling down his cheeks and nose，he moved his little red hands over the black and white keys，under the threatening ruler，which descended at every false note，and the scolding of his master，which were more hateful to him than the blow．He thought that he hated music．But certain words of his grandfather had made an impression on him．The old man，seeing his grandson weeping，had told him，with that gravity which he always maintained for the boy，that it was worth while suffering a little for the most beautiful and noble art given to men for their consolation and glory．And Christophe was secretly touched by these simple words．

有一天，他被父亲撞见了。他的大嗓门，把他吓得直接跳了起来。克里斯朵夫以为自己做错了什么事，马上用手抱着耳朵，挡一下可怕的一巴掌。可是出乎意料的是父亲不仅没有骂他，情绪反常地笑着问：‘你喜欢这个吗，孩子？＇说着还亲切地拍拍孩子的头，＇要不要我教你？’ 为什么不呢？他高兴极了，嘟囔着说：‘要的。’两个人便一起坐在钢琴前。克里斯朵夫坐在一大堆厚厚的书上面，很用心地听讲第一课。他先听说这些咿吚鸣鸣的精灵都有很古怪的名字，类似于中国的名字，单音节的，甚至是单字的。他觉得很诧异，他另外也说出一些美丽动人的名字，类似于神话里的公主一般。

他很用功，因为那些并不乏味。父亲的耐性使他莫不着头脑。曼希沃不厌其烦地叫他反复练习。他不明白爸爸的用意：难道是喜欢他吗？那太好了！孩子一边用功一边感激爸爸。要是他知道父亲的心思，就不会这么感激了。从那天起，他把孩子带到一个邻居家里。那边有室内音乐会，每星期演奏三次。曼希沃当第一小提琴手，约翰•米希尔当大提琴手。另外

还有一个银行职员和钟表匠。他们五点开始演奏，九点散场。演奏会结束，大家喝些啤酒，左右街坊进进出出，有的靠墙站着，默默地听，打着拍子摇头顿足，还有抽烟的，把屋子弄得乌烟瘴气。有一天，他踮着脚尖进来，看见孩子坐在很高的键盘前面，他打量了一下，忽然心中一亮：‘神童！怎么才想到呢？这可是家族的荣誉！’毫无疑问，他一向认为这孩子和他妈妈一样，不过是乡下人。＇可以试一下也无妨，这倒是个机会！他将来可以带着儿子走遍德国，兴许还能到国外演出，真是令人愉快而又高尚的生活不是吗？，

每天早上三小时，晚上三小时，他必须坐在这架刑具前面。既要用心，又觉得很烦，大滴大滴的眼泪沿着鼻子和脸上淌下来，红肿的小手在黑白的键盘上移动，弹错一个音，戒尺就打下来。同时还要听老师的咆哮，他觉得这比在家挨打更痛苦，他想他对音乐恨透了。不过，他的祖父有说过几句话给他留下深刻的印象。老人看见小孙子哭得很伤心，就郑重其事地对他说，为了人间最美，最高尚的艺术吃些苦是很值得的。他为他祖父的那些朴实的话语而感动。

## 注（2）：家のほど近くに，夫人と娘が住んでいた。

One evening，he sat on the wall，dreaming with his eyes open，and could not have told how long he had been dreaming，for he saw nothing，his heart suddenly leaped．In front of him，at a bend in an avenue，were two women＇s faces looking at him．Once，a young lady in black，with fine irregular features and fair hair，tail，elegant，with carelessness and indifference in the poise of her head，was looking at him with kind，laughing eyes．The other，a girl of fifteen，also in deep mourning，looked as though she were going to burst out a fit of wild laughter；she was standing a little behind her mother，who，without looking at her，signed to her to be quiet．She covered her lips with her hands， as if she were hard put to it not to burst out laughing．As he away，he heard a kind voice calling him，＇Little boy！＇and a shout of childish laughter，clear and liquid as the song of a bird．

One morning when he came back to dinner Louisa proudly told him that a letter had been left for him．The letter was from Mrs．Kerich，who requested
the pleasure of the young musician＇s company at her home that evening． Christophe，dressed up in an absurd coat，which made him look like a country preacher，arrived at the house quite ill with shyness．When the mother and daughter saw him they exchanged a sly look．She smiled cheerfully，and held out her hand．＇Good day，my dear neighbor，＇she said．＇I am glad to see you． Since I heard you at the concert I have wanted to tell you how much pleasure you gave me．And as the only way of telling you was to invite you here，I hope you will forgive me for having done so．My daughter wanted so much to meet you．＇＇But mum，it is not the first time that we have seen each other．＇ said Min－na，and laughing aloud．＇you paid us a visit the day we came．＇At these words the girl laughed again，and he looked so pitiful that when she looked at him she laughed more than ever．She could not control herself，and she laughed until she cried．

Christophe，in spite of his constraint，fall victim to the infectious laughter．Their merriment was irresistible；it was impossible to take offense at it．Madame then questioned him amiably about his life．But he did not gain confidence．He could not sit down；he could not hold his cup，which threatened to upset；and whenever they offered him water，milk，sugar or cakes，he thought that he had to get up hurriedly and bow his thanks．Madam＇s warmth of manner and innumerable questions soon put Christophe at his ease． The warmth and kindness of the two ladies touched his heart；he exaggerated their easy urbanity，their worldly graciousness，in his desire to think it heartfelt and deep．

一天傍晚，他坐在墙上，睁着眼睛做着梦，说不出他幻想了多长时间，因为他什么都没看见。忽然他的心一跳，在他面前的一条小径拐弯的地方，有两个女人正望着他。一个是穿着孝服的少妇，面目并不端正，金黄色的头发盘在头顶，显得典雅，她很随意地侧着头，用一种和善而又俏皮的眼神瞅着。另外一个是十五岁的小姑娘，站在母亲背后，也穿着孝服，脸上的表情活像个爱俊笑的女孩儿。母亲—边望着克里斯朵夫，一边做手势叫小姑娘不要做声；她用手掩着嘴巴，好像很勉强忍住才笑出来。当他逃跑的时候，他听见她们和蔼亲切地叫了他一声＂孩子！＂，接着又一阵儿童的

笑声，轻快清脆，像鸟的歌声。
有一天上午，他回家吃饭，妈妈得意洋洋地告诉他，说有人送给他一封信。信是克里赫夫人寄来的，邀请这位年轻的宫廷乐师下午去她家。他穿着不得体的礼服，活像一个乡下牧师，有些腼腆地来到她们家。母女俩一看见他，就很狡狯地相互递了眼色。克里赫太太愉快地笑着，向他伸出手来。＂你好，亲爱的邻居，我很高兴认识你。自从那次音乐会以后，我就想告诉你，我们听了你的演奏是多么愉快。既然告诉你的唯一方法是请你来这儿，希望你原谅我的冒昧。这是我的女儿，弥娜，她也很想见见你。＂ ＂可是妈妈，我们并不是第一次见面啊。我们搬来的那天，你来看过我们的。＂弥娜说着笑了起来，而看到他的窘相时使她笑个不停。那是一种狂笑，笑得连眼泪都出来了。

克里斯朵夫局促不安，也不由得跟着一起笑。她们那种高兴是情不自禁的，叫人无法生气。随后夫人很亲切地问问他的生活情况，但他的心还没有冷静下来。他不知道怎么坐，不知道怎么拿茶杯，这使他很监尬。他认为每次人家给你倒水，倒茶，加糖和点心时赶紧站起来，行礼道谢。太太的热情款待，使他很快觉得轻松自如了。两位女士的热情触动了他的心，他夸大了交际场上的所谓好意和殷勤，一厢情愿地认为那是令人刻骨铭心的友谊。

## Chapter 4

## 注（1）：何回か通ううちに，彼は娘のミンナに恋をした。

They thought that he would go immediately after supper．But he followed them into the little room，and sat with them，and had no idea of going．Minna stifled her yawns，and made signs to her mother．He did not notice them because he was dumb with his happiness．He would have stayed all night had Mrs．Kerich sent him away herself，without ceremony，but kindly．He went， carrying in his heart the soft light of the brown eyes of Madame and the blue eyes of her daughter．Her heart，as was his，was at the age when we delight the senses with sweet fluttering dreams．She was forever absorbed in thoughts of love，filled with a curiosity which was only innocent from ignorance．And she
only thought of love，as a well－taught young lady should，in terms of marriage． Naturally Christophe did not in the least understand the complicated mechanism of a young girl＇s heart．A word or an affectionate look from either one of the women plunged him in delight．Twice a week，from nine to ten in the morning，he superintended daughter＇s scales and exercises．

One misty morning in March，when little flakes of snow were flying，like feathers，in the gray air，they were in the studio．It was hardly daylight．Her hand was on the rack，and she did not move it．His lips were near her hand．He tried to read and could not．Suddenly，he did not know what he was thinking of；he pressed his lips as hard as he could on the little hand．In the evening， when she went to her room，it was a long time before she went to bed．She went on looking at herself in the mirror，trying to remember，and having thought all through the day of the same thing，sitting on the bed，trying to remember what Christophe was like．It was a Christophe of fantasy who appeared，and now he did not seem nearly so uncivil to her．
＇He loves me！What happiness！How good of him to love me！How I love him！＇She kissed her pillow and went fast asleep．They passed through a period of waiting．They watched each other，desired each other，and were fearful of each other．They were uneasy．Each was busy constructing their love in silence．Love has curious effects．As soon as Christophe discovered that he loved her daughter，he discovered at the same time that he had always loved her．For three months they had been seeing each other almost every day without ever suspecting the existence of their love．But from the day when he did actually love her，he was absolutely convinced that he had loved her from all eternity．

她们认为他吃过饭就会走的，但是他觉得还没尽兴，就跟着她们进入小客厅，和她们一起坐下了。弥娜几次强忍着呵欠，向妈妈示意，而他完全没有察觉，因为太开心而有些忘乎所以了。要不是太太亲自客气地送他到门口，他会这样坐到天亮的。他走了，太太的褐色眼睛，弥娜的蓝色眼睛，都留在了他的心里。她同他一样正是一个人用愉快而得意的梦境来麻醉自己的年龄。她时时刻刻想着爱情，充满浓厚的兴趣和好奇心，而这种

心情来自于爱情的天真无邪。而且，作为有教养的小姐，她只知道婚姻等于爱情，他自然也不懂得女孩子的这种复杂心里。只要听到几句奉承话，或者是偶尔看到可爱的眼神，他就会快乐到极点。每周上两次课，从早上九点到十点，要监督她的弹音节和其它练习。

三月里的一个白茫茫的早晨，雪花像羽毛般在灰色的空中飘舞，他们两在琴房里，天色很黑。她一只手放在乐谱架上，不拿开，他的嘴巴离她的手很近，他想看乐谱却看不见。突然间，他自己也不知道此刻到底想到了什么，他把自己的嘴唇紧贴到那只小手指上。晚上她回到卧室，过了好久才上床。她老对着镜子回忆，一整天都在想着同一件事情，结果是什么都没想起来。她慢慢地脱衣服，又不时地停下来，坐在床上回忆起克里斯朵夫的样子。在脑海里出现的却是她想象中的克里斯朵夫，看起来也没觉得怎么粗俗了。
＂他爱我！多快活啊！他会爱上我，可见他有多好！我也真心爱他！＂然后，她亲了一下枕头就睡着了。他们正在经历一场拉锯战。相互观察，相互渴望，可是又互相畏惧对方。他们都时时烦躁不安，都在默默地培育自己的爱情。爱情会产生神奇的力量，他发现自己已经爱上弥娜，就好像很早以前就爱上她了。交往三个月以来，他们几乎天天见面，他从来没有想到他们会相爱。但是自从发现自己爱上她那天起，他很确信他会永远爱她。

## 注（2）：夫人は，二人の交際をきっぱり断わった。

They were filled with love，sweet，profound，absurd．Everything else had vanished．No more egoism，no more vanity，no more reservation．After a desperate murmuring of words and passionate promises to belong to each other forever，after kisses and incoherent words of delight，they saw that it was late，and the two reluctantly parted for the night．They contrived to meet again in the garden the next morning and spoke of their love once more，but now the divine unconsciousness of it all was gone．She was playing the part of the girl in love，and he，though more sincere，was also playing a part．They talked of what their life should be．He regretted his poverty and humble estate． She affected to be generous，and enjoyed her generosity．She said that she
cared nothing for money．That was true，for she knew nothing about it，having never known the lack of it．He promised that he would become a great artist； that she thought fine and amusing，like a novel．

With ironic deliberation，as Mrs．Kerich did not take him altogether seriously，she told him that he had no fortune，and that she had different tastes．He protested that made no difference that he would be rich，famous， that he would win honors，money，all that Minna could desire．Mother looked skeptical．She was amused by his self－confidence，and only shook her head by way of saying no．His eyes were opened．He saw irony of the friendly smile， he saw the coldness of the kindly look，he understood suddenly what it was that separated him from this woman whom he loved as a son，this woman who seemed to treat him like a mother；he was conscious of all that was patronizing and disdainful in her affection．He nearly died of his heartache． He thought of killing himself．He thought of murder．At least，he imagined that he thought of it．It was the most terrible crisis of his childhood．It ended his childhood．It stiffened his will．But it came near to breaking it forever．

两个人心里都充满了爱意，甜蜜，深遂，荒唐和可笑，其余的一切都消失了。自私，虚荣，心计也消失了。在他们你怜我爱地一番倾诉后，发誓对爱情忠贞不渝，接着亲吻，再说了一些莫名其妙的欣喜若狂的话语后，才发现已经夜深了，便依依不舍地分手了。第二天早上，他们又在花园里见面了，彼此把爱的誓言重复了一遍，可是已不像昨晚那样的自然。她扮演着恋爱中的女孩儿角色，他虽然比较真诚，但是也在扮演一个角色。两个人谈到将来的时候，他为自己的清贫而懊恼。而她却表现的慷慨大方，同时为自己的大方而得意。她说她不在乎钱，因为她不知道钱是什么东西，也不知道没有钱是怎么回事。他对她许愿，要成为一个大艺术家。她觉得很有意思，很快乐，就像小说里的故事情节一样有趣。

克里赫太太卙酌着，持半信半疑的态度，因为她并不把他完全当真，她说他没有财产，弥娜还喜欢很多别的东西。他表示不服，坚持说那没有关系，金钱，名誉，凡是弥娜想要的，将来他都会给。但克里赫太太并不相信，看他这么自信觉得好笑，她摇摇头说，不。他终于醒悟了，他看得出友好的笑容原来不过是讱讽，和蔼的目光原来不过是冷淡；他突然意识的事情来发泄。他的童年结束了，他的意志经受过考验，可是他的人生也差一点被毁掉。

## Chapter 5

## 注（1）：若い寡婦が住んでいたが，彼は彼女に恋した。

In the wing of the house，on the other side of the yard，there lodged on the ground floor a young woman of twenty，some months a widow，with a little girl．Sabine kept a little tailor＇s shop which might have had customers enough，thanks to its position in a street of shops in the center of the town， but she did not bother about it any more than about her garden．Instead of doing her housework herself，she had hired a little servant，a girl of fifteen， who came in for a few hours in the morning to clean the rooms and look after the shop，while the young woman lay in bed．Christophe used to see Sabine sometimes，through his windows，walking about her room，or sitting for hours together before her mirror，for she was so careless that she used to forget to draw her curtains，and when she saw him，she was so lazy that she could not take the trouble to go and lower them．He would pretend that he only saw these pleasant sights accidentally as he happened to pass the window，but he liked，and in the end he wasted as much time in watching Sabine，as she did over her toilet．Not that she was a flirt，she was rather careless，generally，and did not take anything like the meticulous care with her appearance．If she wasted time in front of her dressing table it was from pure laziness．While she made little pitiful faces at herself in the mirrors，she was never quite properly dressed at the end of the day．

One evening when they were sitting there，while his mother was talking， he saw of the tailor＇s shop open．A woman came out silently and sat nearby． Her chair was only a few yards from Louisa．She was sitting in the darkest
shadow．He could not see her face，but he recognized her．The air seemed sweeter to him．When he left off talking to her he was at his case and comfortable．It was enough for him to see her．He was rid of his anxieties，and irritations，and the nervous trouble that made him sick at heart．When he was talking to her he was beyond care．At night he slept as he had never done．It was a Sunday afternoon when everybody was at church．He had gone out too to make his final preparations for the journey．Sabine was sitting in her tiny garden warming herself in the last rays of the sun，looking a bit ill．He came home：he was in a hurry and his first inclination when he saw her was to bow and pass on．But something held him back as he was passing；perhaps it was Sabine＇s paleness，or some indefinable feeling．He longed to go down on his knees and say，＇I love you．＇

在院子对面屋子的偏房底层，住着一个二十岁的新寡妇和一个孩子。寡妇萨皮纳开着一个小针线铺，在城市中心商业繁华的的街上，原本可以生意红火，但她对铺子并不比对花园更感兴趣。她自己不做家务，雇了一个十五岁的女孩子，每天早上来做几个钟点的零活，打扫屋子，看管铺子，而她自己却懒洋洋地躺在床上。有时他从玻璃窗户看到她在屋里走来走去，或者是连续几小时在镜子前面发呆，因为她太粗心了经常忘记把窗帘拉下来，即使发觉了他在看她，也懒得走过去把窗帘放下来。可是他上了瘾，结果他偷看萨皮纳的时间和她为梳妆花费的时间一样多。她并非卖弄风情，平时倒是随随便便的，对外表也不太讲究。

有一天晚上，他和母亲在外面坐着说话，他看见隔壁针线铺开门了，一个女子悄悄地走出来，坐在他们附近。她的椅子和妈妈的椅子只差几步路，她坐在黑影里，他看不清她的脸，但是凭感觉认出她是谁了。空气仿佛更加甜美了。他跟她谈过话，心里觉得很平静很舒服，他只要看见她就行了。他没有焦虑和烦恼，使他抽搐般的紧张和苦恼都消除了。他跟她说话的时候从不心乱，晚上睡觉比平时更踏实了。那是一个星期天的下午，大家都到教堂去了。他为了准备出差的事忙着。她坐在小院子里晒太阳，她看上去脸色不太好。他回到家里，出来看到她，勿忙点了点头就想走了。但他快要出发的时候，不知为什么又停了下来：也许是她的脸色不好，或许是某种说不出的情感。他真想扑在她脚下对她说：‘我爱你’。

## 注（2）：その後，アーダなど何人かの女性とも付き合う。

Ada，she was good to see，with her round face framed in fair curly hair， her full pink cheeks，her wide blue eyes，her rather large nose，impertinently turned up，and her full figure，large and plump，well built，solidly put together．He knows that he does not love her．And he is filled with a bitter sorrow when he thinks that he kissed those strange lips，in the first moment with her，that he has taken this beautiful body for which he cares nothing on the first night of their meeting．When he alone with Ada，they still spoke different languages，though they made attempts to understand each other．In fact，she was little concerned with thought．She was concerned with eating， drinking，singing，dancing，crying，laughing，and sleeping．She wanted to be happy，and that would have been all right if she had succeeded．But although she had every gift for it，she was greedy，lazy，sensual，and frankly egoistic in a way that revolted and amused Christophe．

She seemed to be driven always to say stupid things，to repeat senseless words again and again，to irritable Christophe，set his nerves on edge，and make him almost beside himself．And her flirtations as soon as anybody，no matter whom，appeared on the road！Then she would talk excitedly，laugh noisily，make faces，and draw attention to herself．She would become sentimental，uncontrollable，just as she did everything，in a voice．Christophe would suffer．Least of all could he forgave her lack of sincerity．He did not yet know that sincerity is a gift as rare as intelligence or beauty and that it cannot justly be expected of everybody．He could not bear a lie，and Ada gave him lies in full measure．She was always lying，quite calmly，in spite of evidence to the contrary．She had that surprising faculty for forgetting what is displeasing to them，or even what has been pleasing to them，which those women possess who live from moment to moment．

她的模样招人喜欢，圆圆的脸，金黄的头发，粉红的腮帮很饱满，一双蓝色的大眼睛，鼻子大了点，鼻尖向上翘着，长得又胖又高，非常健壮。他知道他并不爱她。一想到初次见面就亲吻了这陌生的嘴唇，第一天相遇

的晚上就接触了他并不在意的肉体，他就感到一阵阵的忧伤，痛苦。他和阿达单独在一起时，仍旧说着两种不同的语言，虽然他们努力理解对方。事实上，她根本不想用什么头脑。她所关心的不过是吃，喝，唱歌，跳舞，叫喊，嬉笑和睡觉，她希望活的快活。虽然她有快活的条件，可是贪吃，懒做，肉欲强，还有她明目张胆的自私自利行为，使他觉得又来气又好笑。她总是鬼使神差地说一些偲话，把毫无意义的话重复几十遍，来惹恼他，刺激他，使他无地自容。在路上不管遇到什么人，不管是谁，她都卖弄风情，然后激动的大声说话，大声地笑着，不断地做鬼脸，来引人注目。她多情却毫无节制，正如她做每一件事都很夸张一样。他难受极了，最让他不能原谅的是她的不真诚。迄今他还知道真诚与聪明和美丽一样是少有的天赋，而硬要所有的人真诚也是一种不公平。但是他受不了人家说谎，而阿达偏偏是撒谎的高手。她总是撒谎，尽管很明显和事实不符，她仍然毫无顾忌地在撒谎。她很容易忘记使她不愉快的事，甚至也容易忘记使她高兴的事，像一切得过且过的女人一样。

## Chapter 6

## 注（1）：気に入らない評論を書かれると，彼は反論を発表した。

＇Ah！my friend．It is the best of all，my Lieder，if you could hear it！ Devil take me，it is too beautiful！There has never been anything like it．God help the poor audience！They will only long for one thing when they have heard it：to die．＇The little circle of musicians chuckled over him，and every one was impatient for the opportunity of judging the unhappy compositions． They were all judged beforehand．He was grateful to the people for their hostility；he could work in peace．

Christophe had made no secret of his feeling．Since he had become aware of German hypocrisy，which refuses to see things as they are，he had made it a law for himself that he should be absolutely，continually，uncompromisingly sincere in everything without regard for anything or anybody or himself．And as he could do nothing without going to extremes，he was extravagant in his sincerity：he would say outrageous things and offend people a thousand times
less educated in music．He never dreamed that it might annoy them．When he realized the idiocy of some respected composition he would make haste to impart his discovery to everybody he encountered：musicians of the orchestra， or amateurs of his acquaintance．He would pronounce the most absurd judgments with a beaming face．At first no one took him seriously：they laughed at his oddities．But it was not long before they found that he was always referring to them，insisting on them in a way that was really bad taste．
＇Too much music，too much drinking，too much eating，＇wrote Christophe． Without eating，drinking，hearing，without hunger，thirst，or need，from sheer habitual devouring．Talk of German gaiety！These people do not know what gaiety means：they are always gay！Their gaiety，like their sorrow，drops like their joy is dust：there is neither life nor force in it．They would stay for hours smilingly and vaguely drinking in sounds，sounds，sounds．They think of nothing：they feel nothing：they are sponges．Too much music！You are slaying each other and it．If you choose to murder each other that is your affair：I can＇t help it．But where music is concerned，hands off！I will not suffer you to debase the loveliness of the world by heaping up in the same basket things holy and things shameful，by giving，as you do at present．You pretend to love music．What sort of music do you love？Good or bad？You applaud both equally．Well，then，choose！What exactly do you want？You do not know yourselves．You do not want to know：you are too fearful of taking sides and compromising yourselves，to the devil with your caution！＇
＂噢！朋友，这一作品可是登峰造极了，我的抒情曲，要是你听到的话！咳，太美了！从来没有听到过如此美妙的乐曲，简直是天赐之曲！大家听过以后就是死了也值了。＂大家先在音乐圈找机会挖苦他，然后迫不及待地等时机批判那些可怜的作品，这些作品不曾问世就已经盖棺定论了。不过他很感激人们对他的敌意，因为这样才能安静地工作。

自从了解了德国人的虚伪，他决心不隐瞒自己的情感。他对什么都是，看到真相之前，他就要表露自己的真诚，绝对的，不间断地，毫不妥协地针对任何人，任何作品，包括他自己的也毫无保留。他做什么都爱走极端，又过分真诚，所以他总是说一些气人的话，他无数次激怒了音乐方面不如

他的人。总之，他万万没有想到他得罪了那么多人。当发觉某一部名作里头有一点垠疪，他就老想着挑毛病，逢人就说，不管听的人是音乐家还是业余爱好者。他总是得意洋洋地发表他的怪论。起初没有人拿他当回事，听了他的胡说八道只是笑笑。可是不久他们发现他老是说这一套，而且毫不客气地坚持己见。他的怪论显然不是嘴上说说而已，居然这样，大家就不觉得有趣了。

克里斯朵夫写道：＂音乐太多了，吃的东西太多了，喝的东西太多了！大家不饥而食，不渴而喝，不需要听而听，只是习惯性的狼吞虎咽。有人还说德国式的欢乐！其实什么叫做欢乐他们一无所知，他们永远是狂欢的！他们的狂欢和他们的悲哀一样多，就像雨水般不知流向何处，是溅入泥土的欢乐，既没有生命也没有力量。他们愣头愣脑地欢笑着，不停地吸收声音，声音，声音。他们一无所思，一无所感，就像海绵吸水一样。音乐太多了！你们相互残杀，糟蹋音乐。你们残杀自己，我无能为力。可是涉及到音乐，不要胡来！我不允许你们践踏世界上最美，最圣洁的音乐，把它和恶浊的东西放在一个篮子里，就像你们现在所做的一样。你们自以为喜欢音乐，却不知道什么音乐。好的还是不好的？好的坏的你们同样拍手鼓掌。你们先挑一下行不行？你们究竟要哪一种？你们自己也不知道。你们不想知道：你们怕决定，怕闹笑话，让你们的谨慎，胆小怕事见鬼去吧！＂

## 注（2）：ドイツでは理解されないと考え，フランスへ向かう。

His beloved masterpiece，his Lieder，was to be played．The public had not shown much interest in the piece，as quite a third of the hall was empty． Christophe could not help thinking bitterly of the crowded halls at his concerts when he was a child．He would not have been surprised by the change if he had more experience：it would have seemed natural to him that there were fewer people come to hear him when he made good music than when he made bad：for it is not music but the musician in which the greater part of the public is interested，and it is obvious that a musician who is a man and like everybody else is much less interesting than a musician in a child＇s body，who tickles sentimentality or amuses idleness．

After waiting in vain for the hall to fill，he decided to begin．His pieces
 overflowing with love．But there was nothing in this．Utter sleep blankness． Every phrase seemed to drop into depths of indifference．With his back turned to the audience，busy with orchestra，He was fully aware of everything that was happening in the hall，so that he knows whether what he is playing is waking an echo in the hearts about him．He went on conducting and growing excited while he was frozen by the cold mist of boredom rising from the stalls and the boxes behind him．

At last the piece was ended，and the audience applauded，it applauded coldly，politely，and was then silent．His compositions met with absolute and astonished lack of comprehension from the most kindly disposed critics： veiled hostility from those who did not like him，and were arming themselves for later ventures：and from the general public，guided by neither friendly nor hostile critics，silence．Left to its own thoughts the general public does not think at all：that goes without saying．But he was afraid of nothing．He was determined to clean up German taste．But it was utterly impossible．His foolish confidence in the public and in success which he thought he could easily gain because he deserved it，crumbled away．

他非常喜欢的这部抒情曲上演了，观众对他的作品不大感兴趣，三分之一的座位是空的。他不由地感到—阵心酸，想起他童年音乐会的盛况。要是他有前车之鉴，就不会对此变化感到诧异了。他一定会懂得演奏高尚音乐，听众自然少于同火速音乐，因为大部分人感兴趣的是音乐家而不是音乐本身；很显然，人们对跟一个普通人没有多大区别的音乐家的兴趣远不如一个儿童音乐家高，因为儿童音乐家能调节观众的情绪，让優瓜们也能开心。

克里斯朵夫等了一段时间，观众还是寥寥无几，于是决定开始演奏了。一曲接一曲尽管演奏下去，音乐厅寂静无声。有时候寂静无声是因为听众的热情正在高涨，快要爆发前的寂静。但是眼前的寂静简直是一种可怕的寂静，一无所有。大家仿佛都睡着了，空荡荡的，每一段音乐都掉进了无尽的深渊。克里斯朵夫背对着听众，还是全身心地指挥着乐队，可是他的努力毫无结果。他很清楚，他的音乐没有引起听众的共鸣。他坚持，还是

保持着兴奋状态，但是从乐池和包厢里却传来了问闪不乐的声音，他的心都凉透了。

曲子终于演奏完了，大家礼节性地鼓掌，冷冰冰的，接着又是沉默。看得出听众绝对不欣赏他的作品，就连对他一直有好感的评论家们也如此；而那些不喜欢他的人摆出阴险的仇视态度；至于平民百姓，既没有善意的鼓励，也没有恶意的诽谤，干脆一言不发。让大家自己去思考的时候，他们干脆不想。但他无所畏惧，决心要把德国人的口味彻底洗刷一番，但那是不可能的。他对公众的信心和他能轻而易举获得成功的愿望都被粉碎了。

## 注（3）：そこに集まった人間たちの軽薄さに激しい嫌悪を感じた。

The veil was rent：he saw the German lie．Every race，every art has its hypocrisy．The world is fed with a little truth and many lies．The human mind is feeble：pure truth agrees with it but ill：its religion，its morality，its states， its poets，its artists，must all be presented to it enveloped in lies．These lies are adapted to the mind of each race：they vary from one to the other；it is they that make it so difficult for nations to understand each other，and so easy for them to despise each other．Christophe went to concerts，listened in amazement to discover there was nothing new in it all to him．

He knew these concerts，the orchestra，and audience．But suddenly it all seemed to him false．He saw German art stripped．It was all so foolish，so childish often，that he could not believe that it never occurred to the audience． He looked about him，but he saw only gaping faces，convinced in advance of the beauties they were hearing and the pleasure that ought to find in it．How could they admit their own right to judge for themselves？They were filled with respect for these well－respected names．

面纱撕开了，他看到了德国人的虚伪。一切民族，一切艺术都有它的虚伪性。人世间多半是谎言，只有极少真言。人的精神是非常脆弱的，担当不起纯粹的真理；宗教，道德，政治，诗人，艺术家，都必须在真理以外包上一层谎言。这些谎言尽管各不相同，但适合每一个民族：正是这些谎言使得各民族之间那么难于沟通了解，那么容易造成彼此荗视。他去参

加音乐会，他诧异地发现没什么新鲜的。
他对这些音乐会，乐队和听众都很熟，但是突然他觉得一切似乎都是假的。他把德国艺术彻底看透了。一切都是那么荒唐幼稚，他不相信听众会感觉不出来。但他向周围瞧了一眼，只看见一些恬然自得的脸，早就相信他们所听到的一定是美的，而且他们一定能从中得到乐趣。他们怎么能妄加评论呢？他们崇拜名人。

## 注（4）：女子音楽家の友達ができた。

Corinne，the beautiful actress，wanted to know about his compositions． She sat by him and insisted on his playing everything that he had composed． It was not only on politeness on her part；she adored music and had art admirable instinct for it which supplied the deficiencies of her education．At first he did not take her seriously and played his easiest melodies．But when he played a passage by which he set more store and saw that she preferred it too，although he had not said anything about it，he was joyfully surprised．

With the innocent astonishment of the Germans when they meet a Frenchman who is a good musician he said：＇Odd．How good your taste is！I should never have thought it．＇She waited，smiling，she waited．He did not understand the invitation．He was in his way，that was all he thought of． Mechanically he broke free from her and moved his chair．And when，a moment later，he turned to speak to Corinne，he saw that she was choking with laughter．And，indeed，once she had seen that he was fond of her，but not at all in love，she begin to be fond of him，too，without love，as a good friend．

高丽纳，一个漂亮的女演员，她想知道有关他的作曲。她坐在他身边，坚持要他弹他的每一首曲子。她不仅仅是出于礼貌，她偏爱音乐，她天生对音乐有悟性，因此弥补了没受音乐教育的缺陷。但是当他演奏了一段自己所喜欢的作品时，他又惊又喜。虽然他并没有告诉她曲子的含义，他发现她也喜欢。

一般德国人遇到懂音乐的法国人都会表示一种天真的诧异一样，他也是这样：＂奇怪了！想不到你有这么高的品味！＂她微笑着等待着，他不懂

这是什么暗示，只觉得她这样，他弹琴不方便。他无意识地挣脱了身子，把椅子挪一挪。过了一会儿，他回过头跟她说话，发现她拼命地想笑，却又据着嘴。其实，她已看出虽然他喜欢她，但并不爱她之后，她也开始喜欢他了，不过不是男女之爱，而是亲密无间的友情。

## 熟読玩味

○彼女は白いといってもいいほどの金髪で，顔立ちはやつれていて，羊 のようなやさしい顔には赤あざがあり，唇は蒼ざめて厚ぼったく，め ったに合わさらず，浮かべる微笑もおずおずとしている。ごく青いぼ んやりした眼で，その瞳は極めてちいさいがいたって物優しい。
○人とも激しい気質のため，しばしば衝突をきたし，美しい共同生活は長く続くことはなかった。彼女は去り，彼は再び芸術へ戻った。
○つまりこの無謀な結婚が，この老人の望みをさんざん打ち壊してしま ったのである。彼が何に駆られてそういう結婚をしたのか，誰も理解 するこたができなかったが，誰よりも彼自身に訳が分からなかった。
○少年は軽率で，忘れっぽくて，無邪気な利己主義で，彼を困らせたが，人なつこい。彼は少年に振り回されながらもやさしく許し，見守った。

○深い闇，ランプの荒々しい光，混沌の中から出てきたばかりの頭脳の幻覚，周囲にたちこめている息苦しいざわめく夜，底知れぬ影，その影の中からは，眩しい光線のように強く浮かび出してくる。

○結核にかかった息子の看病に献身していたが，健康を損ない，精神的均衡はひどく害されていた。

○彼のようなヴァイオリニストが，財産も教育も容色もない賎しい娘を， しかも向こらからもちかけても来なかった娘を，突然妻に選ぼうとは， まったく賭け事みたいな沙汰らしく見えるのであった。

○彼は病臥した。やがて死が訪れるとき，幻覚の中で祈りの鐘を聞きな がら偉大な生涯を閉じるのであった。

○彼らはいつも，快い強い匂いの田諫を横切って，小道を通っていった。蟋螺が鳴いていた。道にはだかって横顔を見せている大型の鴉が，遠くから二人の来るのを眺めていたが，間近になると重々しく飛び

去った。
○赤児は摇りかごの中でうごめいている。ごく青いぼんやりした眼で， その瞳はきわめて小さいが，いたってものやさしい。

○彼はいつも夢中になって自ら自分の言葉に聞き取れているらしかっ た。語ろうとするときにあいにく言葉が見つからないこともあった。 しかし彼はその失望に慣れていた。雄弁の発作と同じくらいに何度も繰り返されたからである。そして話始まるといつもその失望を忘れて しまらから，いつまでもそれを諦めることができなかった。
－彼がもの心ついたころ，父親の飲酒が原因で，家計は苦しかった。
○老人の心は，勇ましい手柄話になると，あたかもそれをしたのは自分 たちであるかのように，自慢の念にふくれ上がった。なぜなら，老人 も子供も共に等しく赤ん坊だったから。
○弟の世話を頼んだために，彼は野原への楽しい散歩をやめなければな らなかった。弟たちのあらん限りの悪戯の相手をしてやっても，母は ねぎらいもしない。
○「温和は過激に勝る」，「名誉は生命より尊し」，「邪悪なるは善良なる に如かず」などと，いつも心ゆく限り大げさな調子で口をきいた。少 しも憚れずに，同じ文句を繰り返したり，中途で言葉が途切れたり， また議論の途中でまごつく時には，思想の破綻をふさごうとして，何 でも頭に浮ぶことをでたらめに言ったりした。

○母親の少し後ろの方で，両手の内に口を隠して，無理やりに笑いを押 さえるようだった。色白な桃色の丸い顔をした小娘だった。やや太く小さな鼻と口，ふっくらした小さな願，細やかな眉毛，清らかな目，豊かな金髪。
○老人は，自分のそばにようやく一人立ちをしかけている幼い思想につ いては，露ほどの察しもなかった。
○多年の艱難のあと，ついに一通の吉報が届けられた。それは，彼に対 するドレスデンからの上演の依頼であった。
○ミンナは欠伸を抑えながら，母の方に合図をした。彼はそれに気づか なかった。幸福に酔ってしまって，皆も自分と同じ心理だと。なぜな ら，ミンナは彼を眺めながら，やはりいつもの癖で流し目を使ってい たから。

○彼は自分を認めてもらうことに奔走せず，家に閉じこもって作曲に没頭した。彼は孤独であったが，失望はしていなかった。しかし，ピア ノの教授の口もなくなり，彼は母へ出す手紙の切手代にすら事欠くよ うになっていた。

○音楽家の心にとっては，すべてが音楽である。震え摇らぎはためく全 てのもの，照りわたった夏の日，風の吹く夜，流れる光，星の閃き，小鳥の歌，虫の羽音，夜の静寂の中に動脈を膨らす血液の音，戸のき しる音，すべて存在するものはみんな音楽である。彼が見るものすべ て，彼が感ずるものすべて，音楽に変わっていた。彼はあたかも騒が しい蜂の巣のようであった。しかし誰もそれに気づかなかった。彼自身も気づかなかった。
○やがて死が訪れ，幻覚の中で祈りの鐘を聞きながら生涯を閉じる。
○自分が考えていることを知るために，またそれをはっきり書き表わす ために，非常に骨折っていたので，ついには，何かを考えようとする とき以外には，もう何も考えなくなってしまった。

○長いあいだ幾多の困難を乗り越え，彼は打ち勝った。彼は名声の中に いたが，同時に，静かな老境の時間もやってきた。しかし，彼の心は常に若々しく，自分の力と信念とを少しも捨てなかった。

○彼が見張り場所から落ち，群集に突き飛ばされて地面にころがったの をみて，思わず助けに駆け寄り，暴動に巻き込まれて不慮の死をとげ てしまう。

○ピアニストとして賓客があるたびにおもむき，音楽がわかるとはいえ ない人々のために演奏しなければならず，自尊心の苦しみを抱えて いた。

○フランスの中にドイツに対する憎しみの感情が渦巻き，偏狭な愛国主義の風潮が高まっていく。

○苦悩に耐え，不正と戦い，一歩でも理想に近づこうと努力した。
○数十年を数世紀さえも先んじて生きる事になれているから，胸を痛め る必要はない。

○人の心を惹きつけるようなものは何もない。しかし，そこには人を引 き留める一つの力が潜んでいる。それは長年すっかり沁み込まれた事物の沈滞，その和やかな倦怠，その単調さは，彼らにとって一つの魅

力であり，深い甘美である。
○黒い服の若い夫人で，ほっそりとした不揃い顔立ちをし，灰色がかっ た金髪をもち，背が高く，優美で，取り澄まさない自然の首つきをし ていたが，親切そうな揶揄的な眼で彼を見守っていた。
○彼はその間違いに気づかなかった。彼女よりいつそう心が乱れていた。 こめかみがぴんぴんして，何も耳には入らなかった。愛には不思議な遡及的な作用がある。

## 作家と作品

ウィリアム・シェークスピア（Shakespeare，1564～1616）は，ストラ トフォードの生まれ。父親は「手袋製造業者」，ちなみに当時，手袋は高価な贅沢品だったという。ほかにも羊毛，穀物の取引まで手広く行なっ ていたが，まもなく没落。満足な教育を受けることができなかったと考 えられているが，「文法学校」でラテン語とローマ文学を叩き込まれたこ とには，疑問の余地がない。1585年，ロンドン～出て，劇団の幹部とし て活躍していたが，1611年ごろ筆を折つて故郷へ帰る。おもな作品に『ロ ミオとジュリエット（Romeo and Juliet）』『ハムレット（Hamlet）』『マクベ ス（Macbeth）』などがある。『原ハムレット』は1600年前後に執筆された が，それより十年以上前，『ハムレット』と題した悲劇が上演されていた という記録も残っている。1594年王宮で公演を行なったが，その報酬を受け取った幹部俳優として，彼の名前が宮廷の記録に残っている。ハム レットというデンマーク王子の物語自体は古くからある伝説なので，こ れを題材とした別の作家による先行作品が存在し，彼はこれを参考にし たと考えられている。この先行作品は研究者の間で『原ハムレット』と呼ばれているが，彼の初期作品だと考えている学者も若干いる。この『ハ ムレット』が彼の処女作であり，このデンマーク王子という主題に彼は何度も立ち返り，改稿を加えつづけていたと言われている。

リア王は，ジェフリーの『プリタニア（Britannia）列王史』に登場する，伝説的なブリテン（Britain）人の王。その話はシェークスピアの『リア王
（King Lear）』の素材となった。リア王の伝説は『ウェールズ（Welsh）』神話から始まり，後に歴史的背景が与えられたものと考えられている。 また，アイルランドの伝説とも関連がある。『ブリタニア列王史』では， リアは父の後を継いでブリタニア王となり，六十年間統治しながら，川沿いに『レイア』という町を建てた。リア王は息子がいなく，娘だけが三人いた。長女ゴルノリラ，次女レガウ，それに三女コルディラである。 リアは，三女を最も溺愛した。年老いたリアは，王国を三人の娘とその婿たちに分配しようと考えた。長女と次女は父親を愛していると言って機嫌を取った。しかし三女は，娘が父親を愛するのは当然のことで，わ ざわざロに出して言うものではないと言い，父親を激怒させた。リアは，長女と次女にはそれぞれ王国を二分して与えた。三女には何も与えなか った。しかし，二人の娘たちの心にもない言葉に騙されていたと知った リア王は叫んだ。「このような荒れ狂った暴風雨の晚に，年を重ねた父を追い出すとは！」嵐の中，どこにも行くあてがなくなったリアは，三女 のいるフランスに海を渡った。三女は温かく父を迎え，リアの栄光を取 り戻すことを約束した。後にリアは大軍を率いてブリテンに進軍し，二人の娘とその婿を倒した。リアはそれから三年間，王としてブリテンを統治した。リアの死後，三女が王位を継承した。三女は地下室を作り， そこに父親を埋葬した。リア王と三人の娘たちとのストーリーが主であ るが，悪人エドマンドの策略が本筋になっている。同時代に匿名で発表 された戯曲で，後年になってからシェークスピアのものではないかとい ら説が唱えられるが，これらの説はいずれも根拠に乏しく，真偽の疑わ しい眉唾物であることには注意が必要である。

## 登場人物

リア王 ：（King Lear，李尔王／不列颠国王） レア王とも言う。ブリテン王，生来の気性が荒い。 コーディリア ：（Cardelia，考黛利娅／考狄利娅）。 コルディラとも呼ぶ。リア王の三女である。

リア王の長女，オールバニ公の妻である。
リーガン ：（Regan，芮良／里根）
リア王の次女。コーンウォール公の妻。
ケント伯：（Kent，肯特公爵／后称卡厄斯）
リア王の忠臣。リアに諫言したために追放される。
グロスター ：（Gloucester，葛罗斯特伯爵）
エドガーとエドマンドの父。エドマンドの姦計に
よってエドガーを勘当してしまう。
エドガー ：（Edgar，爱德加）
弟エドマンドの姦計によって父から勘当される。
エドマンド ：（Edmund，爱德孟／爱德蒙）
グロスター伯の庶子。野心家で，エドガーの追放 に成功する。
オルバニー ：（Albany，奥本尼公爵）
ゴネリルの夫。
エドガーと共に乱れたこの国を立て直していくこ
とを心に誓う。
コーンウォール ：（Cornwall，康瓦尔／康华尔公爵）
リーガンの夫。
バーガンディー ：（Burgundy，勃艮第公爵）
持参金のないことを知った公爵は結婚を断る。
フランス王 ：（King of France，法兰西国王）
勘当され持参金を持たないコーディリアを喜んで王妃とする。

オズワルド ：（Oswald，奥斯瓦尔德）
ゴネリルの執事。彼女の言いつけ通り，リア王を陥れる。

道化師
：（Fool，弄人）
リア王付きの道化師。

## あらすじ

年老いたリア王は，王位を退くと同時に，これまで胸に秘めてきた計画を，みんなに語って聞かせる。わしは，わが王国を三つに分けた。そ して，固く心に定めたのである。この老いの身から一切の煩わしい務め を振り捨て，若くカのある肩に譲って重荷を下ろし，ゆっくりと死への旅路をたどろう。わが婿のコーンウォール，それに，同様に，父たる私 を気遣ってくれるオルバニー，わしはここに，娘らそれぞれに遺す財産 を明らかにし，将来の争いの種を断とうと思う。フランス王とバーガン ディー公爵，すでに長らくこの宮廷に留まって，わが三女の愛を得よう と競い合ってきた仲だが，あの二人にも，今日はいよいよ返答をせねば ならぬ。さて，そこで娘たちよ。わしはいま，権力も，国土もお前らに任せるつもりだが，誰がもつとわしを愛しているか。もつとも相応しい者に，もつとも大きな贈り物を与えよう。長女ゴナリル，次女リーガン，三女コーディリアに領地を譲り，静かに余生を過ごそうと決め，三人の娘 ${ }^{(1)}$ と，ゴナリルの夫オルバニー公爵，リーガンの夫コーンウォール伯爵らを集めた。そして，ただ一人，未婚であるコーディリアの結婚も取 り決めようとしていた。コーディリアは，フランス王とバーガンディー公爵から求婚されていたのだ。王は三人の娘たちに，だれが最も自分を愛しているかを聞かせてほしいと言った。その度合いによって，領地を与えようとしたのである。ゴナリル① ，長女として，まずお前から言っ たほうがよい。長女のゴネリルは，「私のお父様に対する愛は，どんな言葉をもってしても言いつくせるものではございません。私のこの目より も，限りない自由よりも，この世でもっとも貴重な幸運，健康，美貌，名誉よりも，命そのものにもまして大切な方。かつてお父様の子として受けたあらゆる愛，いかなる言葉も力を失い，いかに語ろうとも語りつ くせぬ深い愛，そのすべてを超えて，私はお父様を敬い，お慕い申しあ げております」と発言した。次女リーガン®も，「私も姉上とまったく同

[^25]じ思いですが，姉上よりもつと強い思いがございます。私は，ありとあ らゆる歓楽をも仇と退け，ただひとえにお父様を愛することのほかには ございません」と，甘い言葉を並べて王の機嫌をとった。

そこで王は，一番かわいがっていた三女コーディリアの話を聞く。「お前とお前の子孫とに，わが王国の三分の一を，領地として分け与え よう。その広さ，豊かさ，楽しみ，どれ一つを取ろうと，姉たちに与え た土地に寸分劣らぬ。さて，わが喜び，末っ子ではあるが，愛しさにお いては決して誰にも負けぬ。その若々しい愛を得ようと，フランス王と バーガンディー公爵とが，互いに競い合って譲らぬが，そのお前は，姉 たちよりもさらに豊かな三分の一を引き当てるにあたって，さあ，なん と言ってくれるな？」しかし，彼女はそっけなく言いきった。「なにも言 うことはございません」なにもないところからは，なにも生まれないと いう王の話に，「私は，不幸せなことに，心にあることを口に出すことが できません。私は私の義務に相当してあなたを愛します。それより，多 くもなく，少なくもなく」と発言し，続いて，「父上は，私を生んで，か わいがって，育ててくださいました。そのお礼に，子どもとして命令に従い，愛し，心より敬います。お姉様たちは，すべての愛をお父様に捧 げるとおっしゃるのなら，なぜ夫をお迎えなされましたか？ほんとらに父上だけを愛されるのであれば，私はけっしてお姉様たちのように結婚 はいたしません。嫁いだらえは，愛情も心遣いも日々の務めも，その半分は，夫に捧げるのが当然と考えます」と説明した。その言葉は王を怒 らせ，「よかろう。ならば，その真実を持参金にするがよい。日輪の聖な る輝きにかけて，われらの生と死を支配する天球の運行にかけて，わし は誓ら。いまよりお前は，わが娘ではない。お前に対する父としての心遣いも，血の繋がりも，そのことごとくを，ただいまここに断ち切った ぞ。いまよりお前は，わしと縁もゆかりもない赤の他人。野蛮なスキタ イ人は，おのれの食欲を満たすためなら，血を分けたわが子の肉さえ貣 り食らうという。だが，かつて娘であったお前を愛しむなら，かえつて そんな野蛮人を可愛がり，憐れみ，慰めを得るほうがましというもの」 ケントは，「何を言われる，陛下」と言うと，リアは，「黙れ，ケント！

注（1）：三女コーディリア。

竜の怒りの前に立ちはだかる気か！いままでわしは，この子のことを，一番愛しいと思ってきたのに，この子のやさしい世話に委ねようと，楽 しみにしておったものを，行け，消えたまえ！せめて墓に入る時には，安らかに眠りにつきたい。だからこそ，こいつとは，父親としての思い のたけを断ち切るのだ。残る三分の一の領土は，コーンウォールとオル バニー，二人で分けるがよい。わが国王たる権威も，至上の王位に伴う さまざまな栄誉の印の，ことごとくおぬしら二人に譲り与える。わしの手元には，百名の騎士のみ残し，その維持に要する費用は，御主ら二人 の負担とするが，この身に留めおくのはただ，王としての称号と，当然受けるべき敬意と礼儀とのみ。その他，権力の行使はすべて，おぬしら二人のものだ」ケントは，「なら，王が狂えば，ケントも礼節をお捨てね ばならぬ。何をしようというおつもりか，この老人は！権力が追従に身 を屈するとき，忠節が恐れて口を閉ざすとでもお考えか。王が愚行に走 るとき，真実を直言することこそ臣下の忠節。お取り消しなさい，いま の宣告を。命にかけて，あえて申しあげる。三女の陛下を思らお心は，姉たちにいささかも劣りはしない」と語るが，リアは，「いやしくも臣下 とあらば，謹んで聞け，わしに聖なる誓いを破らせよというのか。王の権力とはいかなるものか，しかと思い知らせてやる。六目目には，その憎む心゙き背を向けて，わが王国を立ち去るのだぞ。かりにもわが領内に見つかるときは，即刻死刑だ。行け！ジュピターにかけて誓ら。この宣告は取り消さぬぞ」と言ってケントを追放し，三女も勘当 ${ }^{(1) さ れ て し ま ~}$ った。王は，二人の姉に所領を分配し，ひと月交代で，自分の面倒をみ てもらうことにした。

忠臣ケント ${ }^{(21}$ は，リア王を主君として敬い，父とも慕ってお仕えし，王の判断に対し諌言するが，逆に怒りを買い，王のもとを去っていった。王は三女の求婚者の二人を呼び寄せた。彼女の勘当を知り，持参金がな いことを知ったバーガンディー公爵 ${ }^{(3)}$ は結婚を断るが，コーディリアの純粋で誠実な姿に心を打たれたフランス王は彼女を后として迎える。フ ランス王は次のように語る。「美しいコーディリア。あなたはいま，無一

[^26]文になってこそ最も富み，見捨てられてこそ最も尊ばれ，さげすまれて最も深く愛される人となられたのだ。あなたを，この汚れなき心を，い ましっかりと，私のこの手に抱き取ろら。捨てられたものを拾らのだ， まさか罪となることはあるまい。神様よ，なんという不思議なことか，運命に冷たくあしらわれたことによって，私の愛がさらに燃え上がると は！王よ。持参金もなく私に投げ捨てられたこの方は，今やこの私の妃， わがフランスの王妃となられましたぞ」コーディリアはリアに，「陛下， これだけはお願いしたいと存じます。なるほど私は，心にもないことを，言葉巧みに口にするようなことなどできない。心にこうと思ったことは，口に出すより先に，まず実際に行ないたいと存じます。けれども，ただ これだけは，はっきりおっしゃっていただきたい。私がお父様のご寵愛 を失ったのは，決して忌まわしい罪の汚点，殺人や不道徳のためでもな ければ，純潔をけがす行ないや恥ずかしい振舞いのためではなかったと。 ただ，持たないほうがましなものを，持たなかったからというだけ。い つも物欲しげな目つきとか，口先だけの言葉とか，そんなもの，持たな くて幸いと思うばかり。なるほど，それがなかったばかりに，お父様の ご機嫌を損ねることになりましたけれど」また二人の姉に，「お父様にと って，大切なお二人に，涙で洗われた目をもって，お別れを申しあげま す。姉様がたのご気性は，よく存じてますけれど，妹として，その欠点 を，あからさまに申しあげる気にはなれない。どらか，お父様のこと， くれぐれも大切になさってください。先ほどのお言葉どおり，父上に孝行『゙をしてくださいませ。お二人の胸にお父様を頼みます」と，すると ゴネリルは，「それより，ご主人のご機嫌まで損ねる気か，気をつけるが いい。お前を拾ってくれたのは，運命の気まぐれなお情けなのだから。 お前は従順さに欠けていた。おかげでお父様の愛情も，王国の三分の一 もなくしてしまった。自業自得というものよ」と皮肉るが，コーディリ アは，「どれほど巧みに包み隠しておこうと，やがて「時’が，隠れた悪事を明らかにし，恥辱を与えてくれましょう。では，ご機嫌よ」と言い置いて，去っていった。しかし，領地を手に入れてしまうと姉二人は，老齢の王を煙たがり，二人で結託して王を追い出す計画を立てる。リア

王の家臣グロスター伯 ${ }^{(1)}$ は語る。「近頃のあの日蝕といい，月蝕といい， やはり，不吉の前兆であったのだ。なるほど学者どもは，あれこれ理屈 をこねて説明をつけてはいるが，天界の異変が必ず人間界に凶事ををも たらすことに違いない。愛情は冷え，友情は萎え，兄弟は憎み合う。都会には騒乱，村には分裂，宮廷には謀反，そして，父と子のあいだでは親子の絆も断ち切れて，まさしくこの前兆の現れではないか，息子が父 に背くなどと，それにリア王までが，自然の条理に背いて，父がわが子 を捨て去るとは，世の終わりも近いというのか。陰謀，欺瞞，反逆，あ りとあらゆる破壊がこの世に満ちて，もはや，安らかに墓に眠ることさ えできぬというのか。それに，あの高潔，誠実なケントまで宮廷を追わ れるとは，しかも，ただ率直に進言したというだけ！」

王はまず，長女ゴナリルの邸宅に住むことにし，贅沢とわがままの限 りを尽くした。不孝者のゴナリルは，たちまちその本性を現わして，リ ア王を，「それにしても酷いものね，歳のせいか，お父さんのあの気まぐ れ。近頃特に目につくけれど，とても尋常じゃない。若くて一番分別の あった頃でさえ，すぐカッとなる性質だった。それがいま，年取って， ことさら我慢がきかなくなったもの。二人で，よく相談しておきましょ う。あんな調子で権力を振り回されては，権力を譲ってもらったって，逆に迷惑だよ」と冷遇（2）しばめ，王を罵倒する。「昼も夜も厄介ばかり。 なにかと言えばすぐカッとなって，やしきの中は騒ぎが絶えない。もう我慢できないわ。お付きの騎士どもは乱暴するし，リアは些細なことに も怒鳴り散らして。これからは思い切り嫌な顔をして見せるんだよ，そ れで文句を言いようなら，それこそかえって，もつけの幸い。嫌なら妹 のところへ行けばいいんだ。妹だって，気持ちは私と同じこと，黙って いるはずはないもの。ほんとに年寄りはしょうがない，いったん譲った権力を，いつまでも振り回していたがるんだから。まったくの話，バカ な年寄りは，また赤ん坊に返ったも同様。愚かな真似をしたときは，お だてるか，それでなければ，頭から叱りつけてやらなくちゃ。騎士たち も，今までよりそっけない顔をして見せるんだよ。仲間の飯使いたちに

[^27]注（2）：王を冷遇しはじめる。

も，そう伝えておくがいい。もめごとでも起これば，それを機会に，言 いたいことを言ってやる。そうとも。すぐ妹に手紙を書いて，私と同じ扱いをするよう言ってやろう」しかし，リア王は，近頃わしは，どうも， ないがしろにされているように思っていた。しかし，向こうが本心から冷たくしているというよりも，ひょっとすると，ただわしのほうが，こ せこせ邪推しているだけかと思い直してもいる。また，三女がフランス にたたれてから，あの道化，すっかりめいっておる。道化はリアに向か って訴える。「土地を譲れとそそのかし，その気にさせた人，どこの誰か知らないが，おれのそばに来るがいい。そうしたらたちまち揃らじゃな いか，甘いと苦いの 2 人組み。甘い道化はこちら様（自分を指す），苦い道化はそちら様（リアを指す）」それを聞いたリアは「わしが阿呆だと？」道化は，「だって，お前さん，ほかの肩書き，みんな譲っちまったろ？残 っているのは，もって生まれた肩書きだけよ。たまごを真っ二つに割っ て，中身を食っちまら，殻の冠が二つできる。ところが，お前さん，王様の冠を二つに割って，両方とも手放しちまった。それはまるで，ロバ に荷物を背負わせたのがかわいそうだからって，自分がロバを背負って，泥道を歩くようなもんじゃねえかい。おれの話がいかにも阿呆らしいと いうなら，まっさきにそう思ったやつこそ鞭を食らうがいい。お前さん，知恵を二つに割っちまって，両方ともあっさり捨ててしまったもんね。真ん中には，なにも残ってないからもん。よく聞いてろよ，ものはあっ ても外には出さず，胸にあっても口には出さず，金はあっても人には貸 さず，耳で聞いてもすぐには信じず，サイコロを振っても全部は賭けず，酒と女には手を出さず。たとえ世の中がいやになっても，パンくずくら いは取っておかないと，ひもじい思いをするのは当然。ところが，あな たとあの娘ども，ほんとに血が繋がってるのかね」と言ってからかった。

ゴネリルはリアに，「またしても空とぼけて！近頃は，そうした悪ふざ けばかりなさる。お願いです，私の言らことを，まっとうにお受け取り になってください。人の上に立つべきそのお歳なら，それ相応の分別を働かしていただかなければ。お供につけていらっしゃる騎士や従者が百人もの人数，それも，無軌道（無常識），放埒，無礼傲慢な者ばかりでは，私どものこの邸もその振る舞いにけがされて，まるで自堕落な飲めや歌 えの騒ぎ。品格あるやかたというより，あたかも居酒屋か売春宿かと見

誤るばかり。こんな䎵ずかしいていたらくでは，即刻，処置を取るしか ないではございませんか。ですから，お願いいたします。そんな願いは嫌だとおっしゃるのなら，私のほうで勝手に手を下すつもりでございま すけれど，お供の数を，いささか削っていただきます。それにまた，残 った者も，あなたのお歳にふさわしい者ども，みずからの身分をわきま え，主人たるあなたの立場を，よく心得た者どもだけに限ってください ますよう」そうして，二百人いたリア王の付き添いを一度に五十人も解雇してしまった。リア王は怒って，「自然よ，聞いてくれ，自然の女神 よ。もしもこの女に子供を産ませようというおつもりならば，そんな思 いはきっぱり投げ捨てくれ。こいつの胎（腹）に哯いを下し，子供を孕 む力をことごとく乾き上がらせて，その忌まわしい体からは，母のほま れとなるような赤子など，決して生まれることがあってはならぬ。かり に，もしぜひとも子供を生まねばならぬというなら，憎しみの子を授け るがいい。やがてその子は心ねじれ，自然の情けに逆らって母を憎み，母の懊悩の種となるに違いない。まだ若い母の額に深い皺を刻み，その煩には，流れる涙が溝をらがつに違いないのだ。母の味わら苦しみも楽 しみも，すべて世の嘲笑と侮蔑の的と化するはず。そのときこそ，この女も思い知るに相違ない，恩義を知らぬ子を持つことが，毒蛇の牙より も鋭く親の心をさいなむことを！」リアは，「今話してやる。父親の呪い を浴びて，その五体の至るところに傷口がパックリ開き，五感すべてが ちりぢりに裂け散るがいい！愚かな目玉よ，こんなことでもう一度泣い てみろ，くりぬいて地面に叩きつけてやる。流した涙と混じりあって，泥まみれとなるがいい。まあ，わしはもう一人，娘がおる。あれはやさ しい子だ。必ず味方となってくれるはず。あなたがこんな仕打ちをした と聞いたら，その狼のごとき顔に爪を立て，生皮を引きむしってくれる に違いない」と，ゴナリルを罵ってから，次女リーガンのところへと向 から。出発する前ケントに，「一足先に行って，この手紙をリーガンに届 けろ。お前の見聞きしたこと，余計なことは話さないこと。手紙を読ん で，娘が尋ねることだけ答えればよい。ぐずぐずするな，急げ。さもな いと，わしらのほうが先に着くぞ」ゴナリルは，「あの人には，いい薬に

注（1）：一度に五十人も解雇してしまった。

なったはず。騎士が百人！ほんとに賢明にして安全な策でしょうとも，武器を持った騎士を百人，あの人の共につけておくなんて！夢見たいな ことを思いつき，ただの噂を耳にするたび妄想が浮び，不満を募らせ，気に入らぬことが起こるたびに，自分の気まぐれを騎士どもの武力で守 り，私の生活を，思いどおり左右することができるんだもの」リア王が リーガンの屋敷 ${ }^{(1)}$ に到着すると，彼女は機嫌よく迎えるものの，王に対 して，「お願いです。どらか気をお静めになって。それはきっと，姉上が子としての務めを总ったというより，むしろあなたが，姉上の真情を分 かっていらっしゃらないから。姉上がいささかでも，務めをおろそかに なさったなどとは。お付きの者たちの乱暴を取り締まられたのも，それ なりの立派な理由があったこそ。決して姉上の罪ではございますまい。 お父様は，なんといってももらお歳。自然の女神に与えられた寿命も， もらいよいよ際限近づいている。ご自分が今どんな状態になっているか， ご存知のはずなのに，おとなしく従っていいお歳頃ではございませんか。 ですから，どらか，これから姉上の所にお戻りになって，先ほどは悪か ったと，一言おっしゃってくださいませ」と言うのだった。そのとき， ゴナリルがやってくる。リーガンがゴナリルと握手するのをみて，王は二人が結託 ${ }^{(2)}$ しいることに気がついた。リーガンは，まだ用意ができ ていないから，こちらに来てくれるなと言い，王一人ならともかく，お付きの者は受け入れかねると言う。リア王は，嵐の中，どこにも行くあ てがなくなってしまった。二人の娘たちの心にもない言葉に騙されてい たと知ったリア王は叫んだ。「このような荒れ狂った暴風雨 ${ }^{\circledR}$ の晚に，年 を重ねた父を追い出すとは！」

しかし，嵐の中，王は狂気の世界に導かれていく。そんな王に，変装 した忠臣ケントが付き添う。ケントは，「歌がらまいからといって，女に惚れる歳は過ぎた。女なら誰でもいいという歳にもなってはない」彼は，声まで別の声色を借り，おれがしやべっているとは分からないようにし てしまう。こうして元の姿を消し去り，変装して身をやつした。王は荒

[^28]野をさまよいながら，娘達の裏切り（1）と，誠実なコーディリアを追い出 してしまった自責の念にさいなまれていった。一方，リア王の家臣グロ スター伯の家では庶子である次男エドマンド ${ }^{(2)}$ が財産を乗っ取るため， グロスター伯に長男エドガーへの殺意を抱くように策略していた。「大自然よ，あなたこそおれの女神，おれが従うのはあなたの掟以外にはない。口やかましい世間に縛られ，父の財産を相続する権利を奪われなくては ならんのか？やっと一年かそこいら，兄貴より遅れて生まれてきたから か？なぜ私生児なんだ。なぜ賎しい生まれだと決めつけるんだ。自然の欲情が，人目を忍んで燃え上がり，体力も抜群なら気力も横溢。退屈ま ぎれの味気ないベッドのなかで，半分眠りこけながらこしらえた阿呆ど もとは出来が違う。だから，嫡男のエドガーよ，あなたが受け継ぐはず の父の領地は，このおれがいただくからな。この私生児のエドマンド，嫡男に少しも劣らないんだ。この手紙の計略がうまく運べば，このエド マンドが，嫡男様を立派に見下してやるからな。おれは背丈がぐんと伸 びる。神様よ！何とぞこの私生児を。まこと，立派な阿呆ぶりというし かない。世間というやつ。運が思わしくないと，たいていは身から出た錆でしかないというのに，こんな辛い目にあうのも太陽のせい，月のせ い，星のせいだと言いたがる。まるでおれが悪党になるのも宿命のせい， ゴロツキになるのも，泥棒や裏切り者になるのも，酔っ払うのも，嘘つ くのも，人の女房を寝取るのだって，惑星の影響にやむなく従ったまで のこと，われわれ人間が犯す悪事はこれすべて，神様がむりやり押しつ けた結果という理屈になるわけか」暫くして，エドガーが登場。する と，エドマンドは，「父上が，兄貴逮捕の命令を出されましたぞ。今す ぐここを逃げてください。兄貴がここに隠れていることが，なぜだか洩 れてしまったらしい。今なら，闇夜にまぎれて逃げおおせる。なにか，余計な陰口でも利かれたのでは？公爵の一党が，オルバニー公に対して戦いをしかけようとしているなどと，ほんとに心当たりはないのです ね？」エドガーが闇の中に消えると，グロスターが登場する。エドマン ドはグロスターに，「父上殺害の陰謀に引きずり込もうと，懸命に。しか

し，私は申しました。父殺しの極悪人には神々が，あらん限りの報復の いかずちを下されるに違いない。それにまた，父と子を結ぶ絆がいかに固く深いものか，言葉をつくして訴えました。こうして，私がどこまで も反対であると悟るや，無防備の私に向かって猛然と襲いかかって，こ の腕に手傷まで負わせた。けれども私が，あくまでも自分の立場の正し いことを信じて，あわてて逃げ去ってしまったのです」姉二人のリア王 に対する虐待を知り，コーディリアは，「大地のらちに宿る，もろもろの聖なる力よ，秘められた薬草の効能よ，私の涙に潤って，芽を吹いてお くれ。私の祈りが助けとなって，お父様の悩みを癒しておくれ。かりそ めにも，もしものことがあってはならない」と。王を救うためフランス軍を率いて出陣，イギリスのドーバー（1）に上陸した。ケントは，リヤ王 を三女のいるフランス陣営まで連れていき，二人は再会 ${ }^{(2)}$ を果たす。三女は，「ケント，あなたのご親切に報いるには，どのように生き，どのよ うに努力すればいいのでしょう。一生を費やしても短すぎ，どんな努力 を重ねても，なお遠く及びますまい」姉たちの仕打ちによって，みじめ な境遇になった父リア王を前に，涙を流す。リア王は，かつての愚か ${ }^{(3)}$決断に対し許しを請うた。しかし三女は，なんの憎むことがあろうかと，父をいたわった。彼女の献身的な介護は，王を正気の世界に引き戻して いった。「ああ，慈悲深い神よ，辱められた父の心の，この大きな，深い裂け目を，何とぞ癒し賜ることを。調子も乱れ，声も狂った心の栄を，再び正しい調べに整えたまえ。何とぞ元の姿に戻してくださいますよう に」と。

一方，エドマンドは，ブリテン国を手に入れるために，長女と次女二人とそれぞれ結婚の約束 ${ }^{(4) を し て い た 。 「 ~}$ 姉と妹，両方に愛の誓いを立て ておいた。お互い相手を，いかにも疑心暗鬼の目で見ている。一度毒蛇 に噛まれたやつが，毒蛇を見るような目付きで。さて，どちらをとる？ どちらもか？どちらか一人か？どちらも捨てるか？どちらも手には入る まい，どちらも生きていたのでは。姉には所詮，目はあるまい。まあ，

[^29]暫くは，あの亭主の威光を利用して，戦争が済んだら片づけるか。片づ けたくてうずうずしている女房がいるんだもの，あの女自身に殺しの手 を考えさせて，ただ，あの亭主，どうやらリアと三女に，情けをかける気でいるらしい。だが戦争が終わって，あの親子がこちらの手中に入っ たら，あいつの思わくどおりにさせたりするものか。しかし，いまおれ のなすべきことは，まず身を守るべく行動に打って出ること。あれこれ理屈など，こねている場合ではない」次女は，長女にエドマンドをとら れるのではないかと嫉妬の炎を燃やす。ある日，エドガーは，長女がエ ドマンドに宛てた手紙を手に入れる。内容は，夫オルバニー公を殺し， エドマンドと夫婦になることをもちかけるものであった。エドガーはオ ルバニーにその事実をすぐに知らせた。戦いが始まったが，フランス軍 は敗れ，三女は捕虜になってしまう。エドマンドを自分の夫にしょうと する長女によって，次女が毒殺 ${ }^{(1) さ れ た 。 「 な せ ゙ た ゙ か, ~}$ 吐き気がする。さ もなければ，とことん言い返してやるんだが。エドマンド将軍，私の軍勢も，捕虜も，財産の一切も，今や，ことごとくあなたに差し上げまし よう。どうかご自由になさってください，この私の，身も心も。広く世間も証人となるがよい。私はここに宣言します。いま，あなたは私の夫 であり，主人であると。太鼓を打ってみんなを集め，私の夫となったこ とを宣言なさい」今や結婚をめぐる敵となった妹リーガンは，ゴナリル にとって邪魔な存在だったのである。オルバニー公はエドマンドの悪事 を告発し，エドマンドとエドガーは決闘をすることになった。「エドマン ド，剣を抜け。もしおれの言葉が，いやしくも貴族たるあなたの名誉を傷つけたと思らなら，みずからの腕によって，その䎵辱をそそぐがいい。 おれも抜こう。剣を見よ，これぞ，わが貴族たる名誉の特権にして，騎士たることを誓い，騎士として生き抜く者の特権。ここに，あえて，断 じて言う。たとえあなたに力があり，若さがあり，地位と名声があり，勝利の剣を持ち，たった今も幸運に恵まれ，どれほど勇気凛々たる者で あろうと，あなたは，まぎれもなき謀反者だ。神に背き，父を欺き，兄 を裏切り，あまつさえ，ここにおられる。この剣，この張りつめた勇気 があなたの心臓を切り裂き，すべて真実なることを証明してやる！」，「エ

ドガー，思慮分別からすれば，まずあなたの名前を問いただすべきかも知れないが，しかし，それほど凛々しく武装を整えているばかりか，そ の物の言いようも，多少は身分ある者たることを伺わせる。従って，騎士道の掟によれば受けるに値せぬ挑戦ながら，そんな細かいことなど， あえて無視しよう。しかしながら，謀反者の汚名だけはあなたのつらに投げ返し，その破廉恥きわまる嘘八百で，あなたの心臓を押しひしいで やる。しかし，ただ口で汚名を投げ返しただけでは，その心臓には，か すり傷さえ負わせることはできまい。この剣で，たちまちあなたの胸を貫き通してやるしかない。あなたこそ，謀反者の汚名を永遠に背負い続 けて行くがいい。ラッパを吹き鳴らせ！」 結果，エドマンドは敗れ，命 を落とすが，「二人ともおれと婚約を交わしていた。こうして，同時に，死によって結ばれたというわけか。まさしくこれぞ天の裁きだ。その恐 ろしさに心もおののく。哀れみの情けは動かぬ」と言い残す。

リア王と三女を監禁し，翌日，殺せという命令書を撤回するようにな ったが，しかし，時すでに遅し。三女はもうすでに殺された後 ${ }^{(1)}$ であっ た。リア王は，「この人殺しども，謀反者らが。いま一歩で助けることも できたものを，死んでしまった。もう二度と帰っては来ない。コーディ リア，待ってくれ。何か，言ったか？この子の声は，いつも低く，やさ しく，静かだった。いかにも，女にふさわしく。人殺しどもを，わしが， この手で，殺してやったぞ」，ショックの余り死んでしまう。事のなりゆ きをすべて見たエドガーは，「この悲しい時代の重荷は，残されたわれら が担ってゆくほかはない。語らねばならぬことを語るのでなく，ただ，心に感ずることのみを語ろう。もつとも年老いた方こそ，もつとも強く苦しみを耐え抜かれた。若いわれらに，これほどの苦しみに遭いつつ， これほどに永く生きることは，できまい」と言い，悲しみに耐えて，オ ルバニー公 ${ }^{(2)}$ と，「今われわれのなすべきことは，まず，国を挙げて喪に服すること。エドガーとケント，二人とも，わが魂の友として，共に統治に当たり，ふかでを負ったこの国を，共に支えて行こう」ともに乱れ たこの国を立て直していくことを，心に誓うのである。

注（1）：コーディリアは殺された後。
注（2）：国を立て直していくことを心に誓う。

## Chapter 1



## 注（1）：三人の娘。

The old king，feeling the end of his life approaching，decided to step down from power and place it in the hands of those now younger and more capable．With this intent，he called his three daughter to him，to know from their own lips which of them loved him best，that he might part his kingdom among them in such proportions as their affection for him should seem to deserve．Meantime we shall express our darker purpose．Give me the map there．Know that we have divided in three our kingdom：and it is our fast intent to shake all cares and business from our age；Conferring them on younger strengths，while we unburden crawl toward death．Our son of Cornwall，and you，our no less loving son of Albany，we have this hour a constant will to publish our daughter＇s several dowers，that future strife may be prevented now．The princes，France and Burgundy，great rivals in our youngest daughter＇s love，long in our court have made their amorous sojourn， and here are to be answered．Tell me，my daughters，which of you shall we say doth love most？That our largest bounty may extend where nature doth with merit challenge．Goneril，our eldest－born，speak first．

老国王感到，自己年事已高，无法治理国家，于是决定退位让贤，把国事交给年轻有为的三个女儿去治理。他抱着这一目的，把三个女儿叫过来，想从她们那里证实一下谁最爱他，这样，他可以按照她们爱他的程度来分配她们应得的国土。现在我要向你们说明我的心事，把地图给我。告诉你们吧，我已经把我的国土分割成三块；因为我年龄大了，决心摆脱一切国事的牵挂，把掌管国家的权利移交给年轻有为的人，让自己轻松一下，开开心心安度余生。康华尔女婿，还有同样我心爱的奥本尼女婿，为了防止日后的争执，我想还是想把三个女儿的嫁妆当众分配好。法兰西国王和勃艮第公爵正在竞争娶我的小女儿，他们为了求婚住在我的宮廷里已经有多时了，现在你们可以得到我的答复。告诉我，你们中间哪一个人最爱我？

我要看看谁最有孝心，最有贤德，我就给她最大的恩惠。高纳里尔，我的大女儿，你先说。

## 注（2）：長女ゴナリル。

Sir，I love you more than words can wield the matter；Dearer than eye－sight，space，and liberty；Beyond what can be valued，rich or rare；No less than life，with grace，health，beauty，honor；As much as child ever loved，or father found；A love that makes breath poor，and speech unable；Beyond all manner of so much I love you．Goneril，the eldest，heaped upon her father all sorts of fine，but rather empty，words．He，in return，trusting in his own daughter＇s love，offered her one－third of his ample kingdom．

父亲，我对您的爱，不是言语所能表达的；我爱您胜过自己的眼睛，整个的空间和博大的自由；超越一切可以估价的贵重稀有的物品；不亚于赋有品德，健康，美貌和荣誉的生命；不曾有一个儿女这样爱过他的父亲，也不曾有一个父亲这样被他的儿女所爱；这一种爱可以使唇舌无能为力，口才失去效用；总之，我爱您是不能以数量计算的。大女儿高纳里尔，对父亲说了一大堆美妙动听的空话。李尔王对大女儿的花言巧语深信不疑，于是作为爱他的回报，分给她三分之一的辽阔的国土。

## 注（3）：次女リーガン。

Sir，I am made of the self－same metal that my sister is and prize me at her worth．In my true heart I find she names my very deed of love；Only she comes too short：that I profess myself an enemy to all other joys，which the most precious square of sense possesses；And find I am alone felicitate in your dear highness＇love．His second daughter，Regan，paid him similar compliments，adding that she found all other joys dead in comparison with the pleasure which she took in the love of her dear king and father．Thus，to her， one－third of Lear＇s kingdom was also given．

我跟姐姐具有同样的品质，您凭她的话就可以了解我。在我的心中，我觉得她刚才说的话，正是我爱您的实际情形一样，可是她的话还不能充分说明我的心里：我厌弃一切凡是敏锐的直觉所能感受到的快乐，只有爱您才是我的无上的幸福。二女儿里根，也同他父亲说了和她姐姐类似的赞美词。她还说，她热爱父亲是最大的快乐。相比之下，其它任何娱乐活动她都不感兴趣。于是，她也得到三分之一的国土。

## 注（4）：三女コーディリア。

Then turning to his youngest daughter，whom he called his joy，he asked what she had to say．She disgusted with the falseness of her sisters，whose hearts she knew were far from their lips，made no other reply but this－that she loved his Majesty according to her duty，neither more nor less．Then poor Cordelia！And yet not so；I am sure，my love more rich than my tongue．Good my lord，you have begot me，bred me，love me：I return those duties back as are right fit，obey you，love you，and most honor you．Why have they husbands，if they say they love you all？Haply，when I shall wed，that lord whose hand must take my plight shall carry half my love with him，half my care and duty：Sure，I shall never marry like my sisters，to love my father all．

那么，考狄利娅，你只好受贫穷了！可是我并不贫穷，因为我深信我的爱心比我的口才更富有。父亲，你生下来我，把我教养成人，爱惜我，厚待我；我受到您这样的恩德，只有恪守我的义务，服从您，爱您，敬重您。我的姐姐们要是用她们的整个心来爱您，那么她们为什么要嫁人呢？要是我有一天出嫁了，那么接受我的忠诚誓约的丈夫，将要得到我的一半的爱，我的一半的关心和义务；假如我只爱我的父亲，我一定不会像我的两个姐姐那样再去嫁人的。这回轮到了他的小女儿考狄利娅，她是国王的开心果和欢乐的源泉。国王问她想对父亲说点什么，而考狄利娅非常讨厌两个姐姐心口不一的虚伪言辞。于是她说，她不想用任何动听的话语来欺骗您，她只是想说，她尽她的义务来报答养育之恩，不多也不少。

## Chapter 2

## 注（1）：その言葉は王を怒らせ，三女は勘当されてしまった。

This plainness of speech，which Lear called pride，so enraged the old monarch－who in old age had such clouded reason that he could not discern truth from flattery，that in a fury of resentment he took the third part of his kingdom which yet remained and split it between Cordelia＇s two sisters and their husbands，the Dukes of Albany and Cornwall，whom he now called to him and presence of all his court，invested them jointly with all the power， revenue，and execution of government．Let it be so；thy truth，then，be thy dower：For，by the sacred radiance of the sun，the mysteries of Hecate，and the night；by all the operation of the orbs from whom we do exist，and cease to be；Here I disclaim all my paternal care，propinquity and property of blood， and as a stranger to my heart and me hold thee，from this，for ever．The barbarous Scythian，or he makes his generation messes to gorge his appetite， shall to my bosom be as well neighbor，pitied，and relieved，as thou my sometime daughter．

老国王把考狄利娅的朴实无华的言语当成骄傲自大，这位老眼昏花的国王非常生气，又是老糊涂了，已无法分辨真情实意和恶意奉承。在狂怒之下，老国王把原来留给考狄利娅的那三分之一的国土收回，而分给她两个姐姐和她们的丈夫奥本尼公爵和康华尔公爵。国王把他们叫到面前，在大庭广众面前，把国家的行政，财政，司法权都交给他们共同掌管。好，那么让你的忠实做你的嫁妆吧。凭着太阳神圣的光辉，凭着黑夜的神秘，凭着主宰人类生死的星球，我发誓从现在起，永远和你断绝一切父女之情和血缘亲属关系，把你当做一个过路人。

注（2）：ケントは王の判断に対し諌言するが，逆に怒りを買う。

So ridiculous a disposal of his kingdom filled all his court with astonishment and sorrow；but none of them had the courage to speak out，
except the Earl of Kent，who had been a most faithful counselor in times past to the king．He spoke plainly of his disagreement with king＇s decision，and asked that he reconsider．The honest freedom of this good Earl of Kent only stirred up the king＇s wrath the more，and he banished this true servant and allotted him but five days to make his preparations for departure；but if on the sixth his hated person was found within the realm of Britain，that moment was to be his death．Thus Kent said farewell to the king，promising to go and never return．

看到国王把他的朝政处理的如此草率，简直荒唐可笑，在场的朝臣无不震惊和难过。但是除了肯特伯爵以外，大家都敢怒不敢言。在过去肯特伯爵对国王忠心耿耿，一直以来，他是宫廷中首屈一指的忠臣。他公开表示不同意国王的决定，并要求他重新考虑。肯特伯爵的一番好心，竟然激怒了国王。国王罢免了肯特的要职，并限他五天内离开王宫。此时，他已经变成了国王的眼中钉。国王下令，如果肯特第六天还在大不列颠国土的话，就立刻处死。这样，肯特已没有选择余地，只好向国王告别，并保证远走他乡，永不回国。

## 注（3）：持参金がないことを知ったバーガンディーは結婚を断る。

Now that she was under her father＇s displeasure and had no fortune but her own person to recommend her，the Duke of Burgundy no longer had any interest in making her his wife．The king of France，however，understanding what the nature of the fault had been which had lost her the love of her father， still gladly offered her his kingdom．Fairest Cordelia，that art most rich， being poor；Most choice，forsaken；and most loved，despised！Thee and thy virtues here I seize upon：Be it lawful I take up what＇s cast away．Gods，gods！ It is strange that from their coldest neglect my love should kindle to inflamed respect．Thy dowerless daughter，king，thrown to my chance，is queen of us， of ours，and our fair France：Not all the dukes of waterish Burgundy can buy this un prized precious maid of me．Bid them farewell，though unkind：Thou lose here，a better where to find．

现在的考狄利娅，由于失去了她父亲的宠爱，除了受人尊重的人品之外，已经一无所有了。在这种情况下，勃艮第公爵对她的求婚已失去了兴趣。然而法兰西国王对这一切不以为然；他认为，她的品德是一份比王国还贵重的嫁妆，他愿意接受她作为他的王后。最美丽的考狄利娅！你因为贫穷，所以是最高贵的；你因为被抛弃，所以是最可贵的；你因为遭人轻视，所以我更怜爱你。我现在把你和你的美德一起握在手里；人弃我取是法理所允许的。天啊天！想不到他们的冷酷的荗视，却激起我更热烈的爱慕。陛下，您的没有嫁妆的女儿被抛弃在一边，正好成全我的良缘；她现在是分享荣华的我的王后，法兰西的女主人了；沼泽之邦的勃艮第所有的公爵，都不能从我的手里买去无价之宝的女士。考狄利娅，想他们告别吧，虽然他们是这样冷酷无情；你将抛弃故国，得到一个更好的家乡。

## Chapter 3

## 注（1）：父上に孝行をしてくださいませ。

Then with weeping eyes and heavy heart，departed，for she knew the cunning of her sisters and she wished her father in better hands than she was about to leave him in．And she was no sooner gone than the devilish dispositions of her sisters began to show themselves in their true colors．Even before the expiration of the first month the old king began to find out the difference between promises and performances．

考狄利娅已泪流满面，心情沉重地离开了；她深知两个姐姐的狡猾，诡异，她原来希望把父亲托付给更可靠的人。考狄利娅刚刚走不久，她的两个姐姐恶魔般的本性就暴露出来。按照约定，李尔王第一个月跟大女儿过，但是还不到一个月就发现，她们许下的所谓诺言和所作所为截然不同。

## 注（2）：家臣グロスター伯爵は次のように語る。

These late eclipses in the sun and moon portend no good to us：though the wisdom of nature can reason it thus and thus，yet nature finds itself
scourged by the sequent effects：love cools，friendship falls off，brothers divide：in cities，mutinies；in countries，discord；in palaces，treason；and the bond cracked＇twist＇son and father．This villain of mine comes under the prediction；there＇s son against father：the king falls from bias of nature； there＇s father against child．We have seen the best of our time：machinations， hollowness，treachery，and all ruinous disorders，follow us disquietly to our graves．Find out this villain，Edmund；it shall lose thee nothing；do it carefully．And the noble and true－hearted Kent banished！His offence， honesty！

最近这些日食月食果然不是好兆头；虽然人们凭借天赋，可以对它们作种种合理的解释，可是接踵而至的天灾人祸，却不能否认是上天对人们的惩罚。相爱的人相互疏远，亲朋好友成为陌路人，亲兄弟反目成仇；城市里闹暴动，农村里闹纠纷，宫廷里预谋叛逆；可谓父子无亲，朋友无信，君臣无义。我这畜生也是，有他这样叛逆的儿子，也就有像我们李尔王这样不仁的父亲。我们的好时光已成为过去；剩下的只有阴谋，欺诈，叛逆和冲突，追随我们身后，并把我们送到坟墓里埋葬。爱德蒙，我得去把这个畜生查个明白；我不会妨碍你的；你只要自己多留心眼就是了。忠信的肯特被放逐了！他不过是说了实话而已，他的罪名是正直！

## 注（3）：王を冷遇しはじめる。

Goneril soon became discontent with seeing her father holding onto even the smallest of kingly privileges．Every time she met her father she put on a frowning face；and when the old man wanted to speak with her she would pretend she was ill in order to get rid of him．This lack of respect even passed onto her servants，who began to treat him with neglect，and would either refuse to obey his orders or still more contemptuously pretend not to hear them．There remained to Lear only faithful servant：the Earl of Kent．Although exiled，he chose to remain near his king．Disguised as a serving－man，he succeeded in obtaining work under Lear，and went by the name of Caius．Lear never once suspected him to be his once favorite，Earl of Kent．

高纳里尔，很快对老国王所保留甚少的皇家特权感到不满。每次见到父亲，她总是一脸的不高兴。每当老人家跟她搭话，她就装病不见。这种傲慢无礼的态度，也影响了她的仆人；他们对他也开始怠慢，不理睬，不听他的吩咐，甚至装作没听见。现在，李尔身边只有一个忠实的仆人肯特。虽然他被流放，但他乔装打扮，化名为卡厄斯，在他手下找到了工作。李尔根本没有料到，他就是当年被他驱逐出境的肯特伯爵。

## Chapter 4

## 注（1）：リア王の付き添いを一度に五十人も解雇してしまった。

The coolness and falling off of respect，which Lear had begun to perceive，were not all which this foolish fond father was to suffer from his unworthy daughter．Goneril now plainly told Lear that his staying in her palace was inconvenient so long as he insisted upon keeping up an establishment of a hundred knights；that this establishment was useless and expensive and only served to fill her court with riot and feasting；she prayed him that he would lessen their number and keep none but old men about him， such as himself，and fitting his age．Lear at first could not believe his eyes or ears，nor that it was his daughter who spoke so unkindly．And he bid his horses to be prepared，for he would go to his other daughter．Duke of Albany， apologized for his wife＇s unkindness，but Lear cut off his speech and angrily set out with followers for the home of Regan．

李尔王开始觉察出他的不孝女儿的冷淡和无礼，不过这个糊涂，溺爱孩子的老爸的遭遇远不止这些。她直截了当地说，如果一定要保留那一百名皇家卫士，她的王宫就不便收留他了。她认为那些侍从多余的，也很费钱；他们大吃大喝，喧器吵闹，把她的宫殿闹翻天了。她要求减少卫兵人数，只留些跟他自己年龄相接近的人。最初李尔王不相信自己的眼睛和耳朵，也难以相信跟他说这种无情无义的混账话的人，竟然是他自己的女儿。他吩咐备好他的马，他和他的一百名侍从要到他的二女儿里根家里去住。此时，高纳里尔的丈夫奥本尼公爵为他妻子的恶劣行径表示道歉。但是，

李尔王打断了他的话，怒气冲冲地率领他的侍从直奔二女儿里根家方向走去。

## Chapter 5

## 注（1）：リア王がリーガンの屋敷に到着する。

Lear dispatched his servant Caius with letter to his daughter，so that she might be prepared for his reception．But Regan and her husband，hearing of this，they ordered Caius to be put in the stocks，though he was a messenger from the king，her father，and in that character demanded the highest respect． So that the first thing the king saw when he entered the castle was his faithful servant Caius sitting in that disgraceful situation．

李尔王派他的仆人卡厄斯带信去见他的二女儿里根，让她准备好接待他们。里根和她的丈夫得知此事，尽管卡厄斯是父王派来的信使，按他的身份，地位，应该受到最高级别的礼遇。但是，他们竟然下令把卡厄斯锁在刑台上。就这样，李尔王到达城堡首先看到的，就是他的忠臣受侮辱和虐待。

## 注（2）：王は二人が結託していることに気がついた。

This was but a bad sign of the reception which he was to expect；but a worse followed when they came to greet him，and whom should be see in their company but the hated Goneril，who had come to tell her own story and set her sister against the king her father！Regan advised him to go home again with her，and live with her peaceably，dismissing half of his attendants，and to ask her forgiveness，for he was old and wanted discretion．He argued against such an unnatural dependence，declaring his resolution never to return with her，but to stay where he was with Regan，he and his hundred knights．But he was mistaken in expecting kinder treatment of Regan than he had experienced from her sister．As if willing to outdo her sister in disrespectful behavior，she
declared that she thought fifty knights too many to wait upon him；that five－and－twenty were enough．Then Lear，nearly heartbroken，turned to Gone－ril and said that he would go back with her，for her fifty doubled five－and－twenty．But she did away with his train altogether，saying he could simply be waited on by her servants．

这只是国王将要受到的，不公待遇的一个坏兆头罢了。紧接着，她遭遇了更坏的事情，在迎接他的人群中竟然出现了她痛恨的大女儿！她赶来向妹妹讲了不少坏话，并且念急妹妹反对父王。里根劝父王回大女儿家去，侍从减半，向她道歉。因为父王是已上了年纪，不明事理的老人了。他争辩说，反对这种不自然的依靠，声称永远不再回到大女儿那里去；他和他的一百名侍从要和里根住在一起。李尔王以为，二女儿里根比她姐姐孝顺一些，对他也能好一些，可是他错了。里根似乎故意要跟姐姐比试不忠不孝的行为，她说给国王留下50名侍从太多了，应该减半， 25 名就够了，此时李尔王的心都要碎了。他转身跟他大女儿说，他愿意跟她回去，因为 50 是 25 的两倍。但是大女儿又变卦，说是把他的侍从一个不留，有她的仆人伺候就足够了。

## 注（3）：暴風雨の晚に，年を重ねた父を追い出す。

He promised revenge against those unnatural witches and to make examples of them that should be a terror to the earth！While he was thus idly threatening what his weak arm could never execute，night came on，and a loud storm of thunder and lightning with rain；and his daughters still persisting in their resolution not to admit his followers，he called for his horses，and chose rather to encounter the utmost fury of the storm abroad than stay under the same roof with these ungrateful daughters．

他发誓要向这两个不忠不孝，伤天害理的巫婆报仇，要让她们成为使全世界都感到震惊的，可怕的坏典型！正当他这样徒劳地诅咒，想做自己无能为力的事情时，天黑了，电闪雷鸣，暴雨倾盆！这时候，他的女儿仍然坚持不让他的侍从进屋。他吩咐侍从把马牵过来，宁可到外面去遭受暴

风雨的摧残，也不愿意跟这两个悖逆不轨，忘恩负义的女儿们住在一起。

## 注（4）：娘達の裏切りと，自責の念にさいなまれた。

Coming upon an old worn－down building along the roadside，Lear and his army took the opportunity to seek shelter and rest from their journey． Inside，Lear met a poor beggar fellow with nothing but a blanket about him to cover his nakedness．Lear could not be persuaded but that the fellow was some father who had given all away to his daughters and brought himself to that pass；for nothing，he thought，could bring a man to such wretchedness but the having unkind daughters．

他们来到了路边的一间破旧屋子，李尔王和他的侍从们总算有个落脚的地方可以休息片刻。在屋里，李尔王遇到了一个可怜的乞丐，全身一丝不挂，只在腰上围着一条湿淋淋的，肮脏不堪的破旧毛毯。李尔王断定此人一定是把自己的一切给了女儿们，才陷入如此穷途末路。他以为除非是养了狼心狗肺的女儿，否则再没有理由把他弄得这么悲惨。

## 注（5）：財産を乗っ取るため，エドガーに殺意を抱く。

＇Sir，this young fellow＇s mother could：whereupon she grew round－womb， and had，indeed，a son for her cradle ere she had a husband for her bed．But I have a son by order of low，some year elder than this，who yet is no dearer in my account：though this knave came something saucily into the world before he was sent for，yet was his mother fair；there was good sport at his making， and the whoreson must be acknowledged．＇

肯特伯爵，这个小子的母亲可是心里明白，因此，不瞒您说，她还没有嫁人就闹大了肚子生下儿子来。我还有一个合法的儿子，年纪比他大几岁，然而我还是喜欢他。这畜生虽然不等我的召唤，就自己莽莽撞撞地来到这个世界上，可是他母亲是个迷人的女人，我们在制造他的时候，曾经有过一场销魂的游戏，这蘗种我不能不承认他（指爱德蒙）。

Edmund with a letter＇Thou，nature，art my goddess；to thy law．My services are bound．Wherefore should I stand in the plague of custom，and permit the curiosity of nations to deprive me，for that I am some twelve or fourteen moon－shines lag of a brother？Why bastard？Wherefore base？When my dimensions are as well compact，my mind as generous，and my shape as true，as honest madam＇s issue？Why brand they us with base？with baseness？ Bastard？base，base？Who，in the lusty stealth of nature，take more composition and fierce quality than doth，within a dull，stale，tired bed，go to the creating a whole tribe of fops，got between asleep and wake？Well，then， legitimate Edgar，I must have your land：Our father＇s love is to the bastard Edmund as to the legitimate：fine word，legitimate！Well，my legitimate，if this letter speed，and my invention thrive，Edmund the base shall top the legitimate．I grow；I prosper：Now，gods，stand up for bastards！＇

爱德蒙拿着信说：＂大自然，你是我的女神，我愿意在你的法律面前俯首听命。为什么我要受到世俗的排挤，让世人的歧视剥夺我的权利，只因为我比哥哥晚生了一年或是 14 个月？为什么他们要叫我私生子？为什么比别人卑贱？我有壮健的体格，慷慨的气魄，端正的容貌，哪一点不如正经女人生的儿子？为什么他们要给我加上庶子，贱种，私生子的恶名？难道在热烈而兴奋的奸情中得到父母的精华而生下的孩子，还不如和已失宠的老婆，在半醒半睡时造出来的一批䖯货？好，合法的爱得伽，我一定要得到属于你的土地；我们的父亲喜欢的私生子爱德蒙，正像他喜欢他的合法妻子一样。好，我的合法的哥哥，要是这封信发生效力，我的计策就能成功，等着瞧，私生子爱德蒙将要把合法的嫡子踩在他的脚下，那时候我可扬眉吐气了。祈求上帝，帮助我这个私生子吧！＂

## Chapter 6

## 注（1）：フランス軍を率いて出陣し，ドーバーに上陸した。

From this the good Caius plainly perceived that the king had really gone mad．And with the assistance of some of the king＇s attendants，he had his
 represent the pitiful condition of her royal father，and set out in such lively colors the inhumanity of her sisters，that this good and loving child with many tears begged her husband that he would give her leave to embark for England，with a sufficient power to subdue these cruel daughters and their husbands and restore the old king，her father，to his throne；which being granted，she set forth，and with a royal army landed at Dover．

善良的卡厄斯发现，国王听到了此话快气疯了。在国王部分侍从的帮助下，他和国王到达了多佛尔城堡。在那里，肯特伯爵朋友多，影响也颇大。他自己乘船到法国，日夜兼程赶到考狄利娅的王宫，他以感人的声音描述了她父王的悲惨处境，生动真实地禀告了两个姐姐的伤天害理，毫无人性的行为。善良孝顺，充满爱心的小女儿听着泪流满面，要求她丈夫，准许她挂帅出征，到英国讨伐凶残的姐姐和她们的大夫，为父王夺回王位。她立刻率领一支法国军队，在多佛尔登陆。

## 注（2）：フランス陣営まで連れていき，二人は再会を果たす。

Lear，having by some chance escaped from the guardians which the good Earl of Kent had assigned to care of him，was found by some of Cordelia＇s train，wandering about the fields near Dover，in a pitiable condition，stark mad，and singing aloud to and sticks．After being restored to greater composure by way of medicine and rest，the king was reintroduced to his loving daughter．

本来，善良的肯特伯爵安排了侍从人员看护李尔王；但是，李尔王趁人不注意，逃了出去；他在多佛尔附近的田野里乱审时，被考狄利娅的卫兵找到了。当时李尔王的情况非常糟糕，他已经完全疯了，他一边大声唱歌，一边用麦秙和枝条编制着＂王冠＂。经过一个时期的药物治疗和休息，李尔王终于恢复了健康，于是与他的爱女重新见面了。

## 注（3）：かつての愚かな決断に対し許しを請うた。

A tender sight it was to see the meeting between this father and daughter； to see him fall on his knees to beg pardon of his child，saying that she must forget and forgive，for he was old and foolish and did not know what he did； but that to be sure she had great cause not to love him，but her sisters had none．And Cordelia said that she had no cause，no more than they had．

父女团聚的情景非常感人，李尔王跪在爱女面前，请求她原谅，求她忘记他过去的错误，因为他老糊涂了，不知道自己都干了些什么。但是，有一点他很清楚，小女儿有一百个理由恨他，可是她的两个姐姐却没有这样的理由。考狄利娅，这位好女儿也一直跪着，她说，她和她的姐姐们一样，也没有理由不孝敬他。

## 注（4）：長女と次女とそれぞれ結婚の約束をしていた。

These monsters of ingratitude，who had been so false to their old father， could not be expected to prove more faithful to their own husbands．They soon grew tired of paying even the appearance of duty and affection，and in an open way showed their desire for another：Edmund，a natural son of the Earl of Gloucester，a wicked man，and a fit object for the love of such wicked creatures as Gone－ril and Regan．

这两个忘恩负义，丧尽天良的恶魔既然对老爸都那样虚伪，那么，对自己的大夫也不会忠实。她们很快就装不下去了，表面上的安分守已和相互恩爱没有支撑多久，她们便宣布，她们另有所爱。葛洛斯特伯爵的私生子爱德蒙是个恶棍，他同时跟高纳里尔和里根许下诺言，勾搭调情，他们都是一丘之務。

## Chapter 7

## 注（1）：次女は毒殺される。

It falling out about this time that the Duke of Cornwall，Regan＇s husband， died，Regan immediately declared her intention of wedding this Earl of Gloucester，which rousing the jealousy of her sister，to whom as well as to Regan this wicked man had at numerous times professed love，Goneril found means to make away with her sister by poison；but being detected in her practices，and imprisoned by her husband，the Duke of Albany，she，in a fit of disappointed love and rage，shortly put an end to her own life．

里根的丈夫康华尔公爵正巧在这个时候死了，她马上宣布要和葛洛斯特伯爵结婚。这引起了高纳里尔的嫉妒，因为他不只向里根求婚，同时也向高纳里尔调情，于是高纳里尔把里根毒死了。此事被她丈夫奥本尼公爵发觉，他也得知她跟伯爵的不正当关系，就把她送进监狱。她因为爱情受挫，又气又脑，不久在狱中自尽身亡。

## 注（2）：コーディリアは殺された後であった。

Thus the justice of Heaven at last overtook these wicked daughters． However，but the same token，it is an awful truth that innocence and piety are not always successful in this world．The forces which Goneril and Regan had sent out under the command of the bad Earl of Gloucester were victorious， and Cordelia ended her life in prison．Lear did not long survive this kind child．

苍天有眼，这两个坏女儿罪有应得。然而，这是个可怕的世界，纯洁，孝顺的好人也不一定总是得到好报。这是高纳里尔和里根委派那个邪恶的葛洛斯特伯爵的军队打胜了，考狄里娅在狱中献出她宝贵的生命；这个善良，高贵的女儿升天不久，李尔王也气绝身亡。

## 注（3）：乱れたこの国を立て直していくことを心に誓うのである。

How the judgment of Heaven overtook the bad Earl of Gloucester，whose crimes were discovered，and himself slain in single combat with his brother， whom he had robbed of his right to the position of Earl，the Duke of Albany， who was innocent of the death of Cordelia，and had never encouraged his lady in her wicked proceedings against her father，ascended the throne of Britain after the death of Lear．The weight of this sad time we must obey；speak what we feel，not what we ought to say．The oldest hath borne most：we that are young shall never see so much，nor live so long．

上天的判决终于降到葛洛斯特伯爵头上，他的罪行败露后，在和他哥哥爱德伽的决斗中被刺死。奥本尼没有参与杀害考狄里娅的事件，也不赞成妻子虐待父亲。李尔王死后，成了不列颠国王。肩负不幸的重担不能不挑；感情是我们唯一的语言。年老的长者已经饱经风霜，后人只有抚陈迹而叹息。

## 熟読玩味

○一切の煩わしい務めを振り捨て，若く力のある肩に譲って重荷を下ろ し，ゆっくりと死への旅路をたどろう。
○私は，ありとあらゆる歓楽を仇と退け，ただひとえに殿下を愛するこ とを幸福に思っております，と甘い言葉を並べて王の機嫌をとった。
○嫁いだうえは，愛情も心遣いも日々の務めも，その半分は，夫に捧げ るのが当然。

○日輪の聖なる輝きにかけて，生と死を支配する天球の運行にかけて， わしは誓う。

○追つ手を差し向け，グロスターをつかまえ，尋問のうえ，両眼をえぐ りとってしまう。
○権力が追従に身を屈するとき，忠節が恐れて口を閉ざすとでもお考え か。王が愚行に走るとき，真実を直言することこそ臣下の忠節。

○王に諌言するが，逆に怒りを買い，王のもとを去っていった。
○ わしに聖なる誓いを破らせよというのか？王の権力とはいかなるも のか，しかと思い知らせてやる。

○あなたはいま，無一文になってこそ最も富み，見捨てられてこそ最も尊ばれ，さげすまれて最も深く愛される人となられたのだ。

○老齢の王を煙たがり，二人で結託して王を追い出す計画を立てる。
○運命に泠たくあしらわれたことによって，私の愛がさらに燃え上がる とは！

○ただ，持たないほらがましなものを，持たなかったからというだけ。 いつも物欲しげな目つきとか，口先だけの言葉とか，そんなもの，持 たなくて幸いと思うばかり。

○私がお父様のご寵愛を失ったのは，決して忌まわしい罪の汚点や不道徳のためでもなければ，純潔をけがす行ないや恥ずかしい振舞いのた めではなかったと。
○どれほど巧みに包み隠しておこうと，やがて‘時’が，隠れた悪事を明らかにし，䎵辱を与えてくれる。
○これからは思い切り嫌な顔をして見せるんだ，それで文句を言いよう なら，それこそかえつて，もつけの幸い。

○お父さんのあの気まぐれ。近頃特に目につくけれど，とても尋常じゃ ない。若くて一番分別のあった頃でさえ，すぐカッとなる性質だった。

○バカな年寄りは，また赤ん坊に返ったも同様。愚かな真似をしたとき は，おだてるか，それでなければ，頭から叱りつけてやらなくちゃ。

○近頃わしは，どうも，ないがしろにされているように思っていた。し かし，向こうが本心から泠たくしているというよりも，ひょっとする と，わしの方が，こせこせ邪推しているかと思い直した。
○自然の条理に背いて，父がわが子を捨て去るとは，世の終わりも近い というのか。

○愛情は泠え，友情は萎え，兄弟は憎み合う。都会には騒乱，村には分裂，宮廷には謀反，そして，父と子のあいだでは親子の絆も断ち切れ て，まさしくこの前兆の現れではないか。

○ほかの肩書き，全部譲っちまった。残っているのは，もって生まれた肩書きだけ。

○たまごを真っ二つに割って，中身を食っちまう，殻の冠が二つできる。 ところが，お前さん，王様の冠を二つに割って，両方とも手放しちま った。それはまるで，ロバに荷物を背負わせたのがかわいそうだから って，自分がロバを背負って，泥道を歩くようなもんじゃねえかい。

○大自然よ，あなたこそおれの女神，おれが従うのはあなたの掟以外に はない。

○自然の欲情が，人目を忍んで燃え上がり，体力も抜群なら気力も横溢。退屈まぎれの味気ないベッドの中で，半分眠りこけながらこしらえた阿呆どもとは出来が違う。

○運が思わしくないとなると，たいていは身から出た錆でしかないとい うのに，こんな辛い目にあらのも太陽のせい，月のせい，星のせいだ と言いたがる。
○まるでおれが悪党になるのも宿命のせい，ゴロツキになるのも，泥棒 や裏切り者になるのも。
○酔っ払らのも，嘘つくのも，人の女房を寝取るのだって，惑星の影響 にやむなく従ったまでのこと，人間が犯す悪事はこれすべて，神様が むりやり押しつけた結果という理屈になるわけか。
○彼は，声まで別の声色を借り，元の姿を消し去り，変装して身をやつ した。

○陰謀，欺瞒，反逆，ありとあらゆる破壊がこの世に満ちて，もはや，安らかに墓に眠ることさえできぬというのか。

○お前さん，知恵を二つに割っちまって，両方ともあっさり捨ててしま ったもんね。真ん中には，なにも残ってないからもん。

○ものはあっても外に出さず，胸にあっても口に出さず，金はあっても人に貸さず，耳で聞いても信じず，サイコロを振っても全部賭けず，酒と女に手を出さず。
○たとえ世の中がいやになっても，パンくずくらいは取っておかないと， ひもじい思いをするのは当然。

○またしても空とぼけて！近頃は，そうした悪ふざけばかりなさる。
○無軌道（無常識），放埒，無礼傲慢な者ばかりでは，私どものこの邸 もその振る舞いにけがされて，まるで自堕落な飲めや歌えの騒ぎ。品格あるやかたというより，あたかも居酒屋か売春宿かと見誤るばかり。

こんな䎵ずかしいていたらくでは，即刻，処置を取るしかない。
○自然よ，聞いてくれ，自然の女神よ。もしもこの女に子供を産ませよ らというおつもりならば，そんな思いはきつぱり投げ捨てくれ。こい つの胎（腹）に呪いを下し，子供を孕む力をことごとく乾き上がらせ て，その忌まわしい体からは，母のほまれとなるような赤子など，決 して生まれることがあってはならぬ。

○ かりに，もしぜひとも子供を生まねばならぬというなら，憎しみの子 を授けるがいい。やがてその子は心ねじれ，自然の情けに逆らって母 を憎み，母の懊悩の種となるに違いない。

○まだ若い母の額に深い皺を刻み，その頬には，流れる涙が溝をうがつ に違いないのだ。母の味わら苦しみも楽しみも，すべて世の嘲笑と侮葳の的と化するはず。そのときこそ，この女も思い知るに相違ない，恩義を知らぬ子を持つことが，毒蛇の牙よりも鋭く親の心をさいなむ ことを！
○ 今話してやる。父親の呪いを浴びて，その五体の至るところに傷口が パックリ開き，五感すべてがちりぢりに裂け散るがいい！

○ あなたがこんな仕打ちをしたと聞いたら，その狼のごとき顔に爪を立 て，生皮を引きむしってくれるに違いない。
○一足先に行って，この手紙をリーガンに届けろ。お前の見聞きしたこ と，余計なことは話さないこと。手紙を読んで，娘が尋ねることだけ答えればよい。ぐずぐずするな，急げ。さもないと，わしらのほうが先に着くぞ。

○あの人には，いい薬になったはず。夢見たいなことを思いつき，ただ の噂を耳にするたび妄想が浮び，不満を募らせ，気に入らぬことが起 こるたびに，自分の気まぐれを騎士どもの武力で守り，私の生活を，思いどおり左右することができるんだもの。
○お父様は，なんと言っても，もうお歳。自然の女神に与えられた寿命 も，もういよいよ際限近づいている。

○父殺しの極悪人には神々が，あらん限りの報復のいかずちを下される に違いない。

○大地のらちに宿る，もろもろの聖なる力よ，秘められた薬草の効能よ，私の涙に潤って，芽を吹いておくれ。私の祈りの助けなって，お父様

の悩みを癒しておくれ。かりそめにも，もしものことがあってはなら ない

186
○ ご親切に報いるには，どのように生き，どのように努力すればいいの でしょう。一生を費やしても短すぎ，どんな努力を重ねても，なお遠 く及びますまい。

○ああ，慈悲深い神よ，辱められた父の心の，この大きな，深い裂け目 を，何とぞ癒し賜ることを。調子も乱れ，声も狂った心の系を，再び正しい調心゙に整えたまえ。何とぞ元の姿に戻してくださいますように。

○姉と妹，両方に愛の誓いを立てておいた。お互い相手を，いかにも疑心暗鬼の目で見ている。一度毒蛇に噛まれたやつが，毒蛇を見るよう な目付きで。さて，どちらをとる？どちらもか？どちらか一人か？ どちらも捨てるか？どちらも手には入るまい，どちらも生きていたの では。
○いまなすべきことは，まず身を守るべく行動に打って出ること。あれ これ理屈など，こねている場合ではない。
○片づけたくてらずうずしている女房がいるんだもの，あの女自身に殺 しの手を考えさせて，ただ，あの亭主，どうやらリアとコーディリア に，情けをかける気でいるらしい。だが戦争が終わって，あの親子 がこちらの手中に入ったら，あいつの思わくどおりにさせたりする ものか。

○剣を見よ，これぞ，わが貴族たる名誉の特権にして，騎士たることを誓い，騎士として生き抜く者の特権。ここに，あえて，断じて言う。

○たとえあなたに力があり，若さがあり，地位と名声があり，勝利の剣 を持ち，たった今も幸運に恵まれ，どれほど勇気凛々たる者であろう と，あなたは，まぎれもなき謀反者だ。
○神に背き，父を欺き，兄を裏切り，あまつさえ，ここにおられる。こ の剣，この張りつめた勇気があなたの心臓を切り裂き，すべて真実な ることを証明してやる！

○思慮分別からすれば，まずあなたの名前を問いただすべきかも知れな いが，しかし，それほど凛々しく武装を整えているばかりか，その物 の言いようも，多少は身分ある者たることを伺わせる。
○従って，騎士道の掟によれば受けるに値せぬ挑戦ながら，そんな細か

いことなど，あえて無視しよう。しかしながら，謀反者の汚名だけは あなたのつらに投げ返し，その破廉恥きわまる嘘八百で，あなたの心臓を押しひしいでやる。
○しかし，ただ口で汚名を投げ返しただけでは，その心臓には，かすり傷さえ負わせることはできまい。この剣で，たちまちあなたの胸を貫 き通してやるしかない。
○三人とも同時に，死によって結ばれたというわけか。まさしくこれぞ天の裁きだ。その恐ろしさに心もおののく。
○この悲しい時代の重荷は，残されたわれらが担ってゆくほかはない。語らねばならぬことを語るのでなく，ただ，心に感ずることのみを語る。
○わが魂の友として，共に統治に当たり，ふかでを負ったこの国を，共 に支えて行こう。
［01］坪内逍遥 編著『リア王』［M］シェークスピア 名著普及会1989年 1 月
［02］安西鉄雄 翻訳『リア王』［M］シェークスピア 光文社 夏の古典新訳 2006年9月
［03］桑原武夫 翻訳『赤と黒』［M］（上巻，下巻）スタンダール 岩波文庫 2007年10月
［04］野崎 歓 編著『赤と黒』［M］（上巻，下巻）スタンダール 光文社 古 書新訳文庫 2007年9月
［05］豊島与志雄 編著『ジャン・クリストフ』［M］（1－4改版）ロマン・ ロラン 岩波文庫，岩波書店2006年1月
［06］大久保康雄 編著『ジェーン・エア』［M］（上巻，下巻）シャーロッ卜 新潮文庫 1999年7月
［07］小尾英佐 編著 『ジェーン・エア』［M］（上巻，下巻）シャーロ ット 光文社古書新訳文庫 2006年9月
［08］松島雅典 編著『「赤と黒」の解剖』［M］スタンダール 朝日選書 1992年2月
［09］小川義男 編著『世界の名著』［M］No．1，No． 2 中経出版 2004 年 3月
［10］William Shakespeare（Author），Jay L．Halio（Editor），『 The tragedy of King Lear』［M］Cambridge University Press（Publisher），September 2005
［11］Charlotte Bronte（Author），Shirly（Editor），『Jane Eyre』［M］Mobile Reference（Publisher）April 2008
［12］Stendhal（Author），Stirling Haig（Editor），『The Red and the black』 ［M］Cambridge University Press（Publisher），March 1989
［13］Roman Rolland（Author），Louis Auchincloss（Editor），『Jean－Christophe』
［M］Carroll \＆Graf Pub，May 1996
［14］夏洛特•勃朗蒂 著／黄源深 译 《简•爱》［M］译林出版社 2008年1月
［15］夏洛特•勃朗蒂 著／林国夫 编著《简•爱》［M］中国出版集团2009年 5 月
［16］司汤达 著／毛荣贵 译 《红与黑》［M］航空工业出版社 2007年1月
［17］罗曼•罗兰 著／赵风云 译《约翰•克里斯朵夫》［M］航空工业出版社 2007年2月
［18］莎士比亚 著／朱生豪 译《李尔王》［M］云南人民出版社2009年7月
［19］罗曼•罗兰 著／余秋雨 译《约翰•克里斯朵夫》［M］天津人民出版社 2004年1月
［20］司汤达 著／罗新璋 译《红与黑》［M］中国书籍出版社 2009年3月
［21］司汤达 著／罗新璋 译《红与黑》［M］中央编译出版社2010年1月
［22］司汤达 著／王陨 纪飞 译 《红与黑》［M］清华大学出版社2010年2月
［23］夏洛特•勃朗蒂 著／王陨 纪飞 译《简•爱》［M］清华大学出版社 2008年10月
［24］代良英 吴羽时 编著《外国文学名著导读》［M］长江出版社 2006年7月
［25］王健 编著《日语世界姓名译名词典》［M］商务印书馆2004年10月


[^0]:    注（1）：三人の従兄妹が幸せそうに母親を取り囲んでいる。
    注（2）：カーテンの陰で本を読む。
    注（3）：いつも仲間はずれで育った。

[^1]:    注（1）：病に冒されなかった私は自由に遊んだ。
    注（2）：その夜半，私の隣でヘレンは死んだ。
    注（3）：決まりきった生活に飽き，自由になりたいと思う。
    注（4）：フェアファックス夫人の温かい出迎えを受けた。

[^2]:    注（1）：巻き毛のアデールを紹介された。
    注（2）：グレイスという召使の声だと。

[^3]:    注（1）：旅人が氷に足を取られ，馬ごと倒れている。
    注（2）：不細工で気むずかしげな顔。
    注（3）：よく話し相手に呼ばれた。

[^4]:    注（1）：同じ部屋にいることは，暖かい火より喜ばしいこと。
    注（2）：恐ろしさに戸を開けると，煙が立ちこめていた。
    注（3）：私も手伝いに駆り出された。
    注（4）：イングラム家の三人はひときわ美しかった。

[^5]:    注（1）：恐怖と苦痛に胸が引き裂かれる思い。
    注（2）：私が結婚しようと思っているのは，あなた。
    注（3）：悪夢から結婚の楽園へ，心を奪われていった。
    注（4）：年も身分も違いすぎると冷たく言う。
    注（5）：ヴェールを引き裂き，踏みにじる。

[^6]:    注（1）：アデールの部屋で寝るよう約束させられた。
    注（2）：法律的にもこの結婚は無効。

[^7]:    注（1）：三日間も野原をさまよう。
    注（2）：三日三晩寝こんでしまう。
    注（3）：メアリとダイアナ姉妹。

[^8]:    注（1）：ジェーン・エリオットと名を変えた。
    注（2）：彫刻のような顔をした。

[^9]:    注（1）：一人の娘を残して死んだ。
    注（2）：二万ポンドの遺産を遺した。

[^10]:    注（1）：ジェーン，ジェーン，ジェーン！
    注（2）：手探りで歩く人がみえた。

[^11]:    注①：最も美しい町の一つに数えられていた。
    注（2）：ヴェリエールの町長レナール氏。

[^12]:    注（1）：気立てのやさしい女性である。

[^13]:    注（1）：ジュリアンは色白で小柄。
    注（2）：矜持の高さと美しい眼に引き込まれた。
    注（3）：ナポレオンの熱狂的な崇拝者であった。

[^14]:    注（1）：子どもたちにラテン語を教えていた。
    注（2）：子どもたちはジュリアンになついた。
    注（3）：上流社会に対する憎しみと嫌悪を抱く。
    注（4）：エリザは恋心が芽生えた。
    注（5）：夫人は彼に恋している自分に気づく。
    注（6）：果樹園での昆虫採集を通じて，次第に親密になっていく。

[^15]:    注（1）：彼は歓喜するが，それは義務を果たせたための喜び。
    注（2）：レナール氏に各められた。

[^16]:    注（1）：夫人は落ち着いた生活をすることができなかった。
    注（2）：今夜二時にお部屋へ。

[^17]:    注（1）：次第に夫人のひたむきな愛情にひかれる。
    注（2）：野心を忘れて彼女を愛するようになる。

[^18]:    注（1）：言い寄ったものの，相手にされなかった。
    注（2）：ヴァルノ氏は匿名の手紙を送った。
    注（3）：手紙はヴァルノ氏による中傷。

[^19]:    注（1）：危ういところを助かったのである。
    注（2）：ラモール廷には，娘のマチルドもいた。
    注（3）：マチルドが自分の子を身ごもる。

[^20]:    注（1）：自分が愛していたのに気づく。
    注（2）：死刑に相当することを述べた。

[^21]:    注（1）：父親の飲酒が原因で，家計は苦しかった。
    注（2）：彼によく二人の弟の世話を頼んだ。

[^22]:    注（1）：家には，祖父の古いピアノがあった。
    注（2）：だれもいないとき，指先をキーにあてた。

[^23]:    注（1）：何回か通うらちに，彼は娘のミンナに恋をした。
    注（2）：夫人は，二人の交際をきっぱり断わった。

[^24]:    注（1）：彼は反論を発表した。
    注（2）：自分の音楽がどうも理解されない。
    注（3）：軽薄さに激しい嫌悪を感じた。

[^25]:    注（1）：三人の娘。
    注（2）：長女ゴナリル。
    注（3）：次女リーガン。

[^26]:    注（1）：その言葉は王を怒らせ，勘当されてしまった。
    注（2）：ケントは王に諌言するが，逆に怒りを買う。
    注（3）：持参金のないことを知つた公爵は結婚を断る。

[^27]:    注（1）：リア王の家臣グロースタ伯爵は語る。

[^28]:    注（1）：リア王がリーガンの屋敷に到着する。
    注（2）：王は二人が結託していることに気がついた。
    注（3）：年を重ねた父を追い出す。

[^29]:    注（1）：イギリスのドーバーに上陸した。
    注②：フランス陣営まで連れていき，再会を果たす。
    注（3）：かつての愚かな決断に対し許しを請うた。
    注（4）：二人とそれぞれ結婚の約束をしていた。

